

蘭越町地域経済レポート

～ RESAS を使ったデータ分析 ～

蘭越町商工会

平成 29 年 12 月

目次

第1部 事業活動での RESAS の活用	1
第1章 はじめに.....	2
1 本書の目的.....	2
第2章 事業者による RESAS の利用.....	4
1 人口データの活用.....	4
(活用ケース1) 顧客ターゲットの将来動向.....	4
(活用ケース2) 宣伝広告の適用範囲の検討.....	5
2 産業関連データの活用.....	6
(活用ケース3) 事業分野の成長可能性の確認.....	6
(活用ケース4) 競合する事業者数の確認.....	7
3 観光マップの活用.....	9
(活用ケース5) 外国人観光客の推移(北海道).....	9
(活用ケース6) 蘭越町の観光施設の認知度.....	9
(活用ケース7) 流動人口のマップデータ.....	10
2 RESAS を使ったデータの参照.....	12
第2部 RESAS にみる 蘭越町の特徴	17
第3章 人口.....	18
1 人口推移.....	18
2 人口ピラミッド.....	20
3 転入数・転出数の内訳(定住人口).....	22
4 転入数・転出数上位5地域.....	23
5 年齢階級別純移動数の時系列分析.....	24
第4章 地域経済循環.....	25
1 地域経済循環図(蘭越町).....	25
2 近隣自治体の地域経済循環図.....	26
第5章 地域の産業.....	28
1 生産額の内訳.....	28
2 地域内産業の構成割合(生産額(総額)).....	29
3 影響力・感応度分析.....	31
4 付加価値額の内訳.....	32
5 雇用者所得の内訳.....	32
6 産業別の移輸出入収支額.....	34
7 企業数の内訳.....	35
8 製造業.....	36
9 小売・卸売業(消費).....	37

10	農業.....	40
11	林業.....	45
12	漁業.....	48
第6章	交流人口・観光マップ.....	50
1	目的地の検索回数.....	50
2	宿泊者の居住する都道府県.....	52
3	宿泊者数の推移.....	53
4	滞在人口.....	55
5	観光マップ.....	57
6	観光マップ（外国人）.....	61
第3部	関連資料編.....	62

第1部

事業活動での RESAS の活用

第1章 はじめに

1 本書の目的

本書は、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部が提供するRESAS（地域経済分析システム：リーサス）の各種データを用いることによって、蘭越町の事業活動を活性化させるための一助とすることを目的としています。

RESASとは地方創生の様々な取り組みを支援することを目的に、国内の市町村単位で、産業構造、人口動態、人の流れなど官民のビッグデータを集約し、目に見える形で情報を提供するシステムです。経済産業省と内閣官房まち・ひと・しごと創生本部が連携して開発を行い、2015年から情報提供が開始されています。RESASはインターネット上に無料で公開されており、地域の経済活動に関連する様々な分野・立場の方々が利用することが可能となっています。

RESASで提供されるデータは非常に多岐に渡っています。そのため、事業を営む方やこれから事業を起こそうとしている方が、有効にこれらのデータを活用するためには、課題意識をもって、実際にRESASにアクセスすることが必要になります。その観点から、本書の位置づけとしては、事業者の方がRESASを活用する第一歩になることを目指した資料となります。

<本書の目的>

- (1) 事業運営においてRESAS活用するイメージを持つ
- (2) RESASを実際に使用するにあたっての基本的な事柄を理解する
- (3) RESASを通してみた蘭越町の特徴を把握する

以上を通して、事業者の新たな経営計画（新市場、新事業）の立案や既存事業のマーケティング（商品やサービスの立案・市場分析・プロモーション）、インバウンドを含む観光客を対象とした事業展開において、データに基づく理論的な検討を可能にする。

第1部では、RESASのデータを用いて、どのように事業運営に活用するかをいくつかの例を示しながら説明します。また、RESASの使い方を簡単に説明します。（RESASの使い方の詳細は、マニュアルを参照ください）

第2部では、RESASから得られるデータに関して、人口、地域経済循環、経済、観光マップのそれぞれの視点から蘭越町の現状を説明していきます。

2 蘭越町の経済と産業の活性化に向けて

本書を読み進めていくことによって、RESASの各種データを通して蘭越町の現状の姿を理解することができます。ここでは、蘭越町の経済と産業がさらに発展するために解決しなければな

らない課題や取り組むべき事柄を「商圈」「事業承継」「農商工連携」の視点から提起します。

(1) 商圈と顧客層の拡大

蘭越町の将来の人口予測を見ると2040年には2,859人まで減少し、現在の人口(4,843人)の約6割になってしまいます。このことは、蘭越町の消費者が大幅に縮小することを示しており、各事業者にとって、商業活動を維持することが非常に困難になることが予想されます。

これを回避するためには、蘭越町の特徴である自然を生かした観光事業の開発や周辺の市場環境を生かした顧客の範囲拡大が有効と考えられます。特に、ニセコ地域を訪れる観光客の招致・誘導と観光客をターゲットとした事業展開を積極的に取り入れていくことが求められます。

RESASで周辺地域の流動人口(一時的にその場所を訪れ滞在している人口)を参照すると、ニセコヒラフスキー場周辺地域、倶知安町市街地、岩内町市街地に人口が集中している様子が手に取るようにわかります。例えば、これらの地域の滞在者を町内の飲食店に呼び込むために、チラシの配布、ホームページの整備などによる積極的な情報発信や店舗看板やメニューの英語対応が必要です。

(2) 事業承継の促進

町内の人口減少が進む中でも、とりわけ生産年齢人口の減少は経営者の高齢化を意味しており、事業の継続が大きな課題になってきます。年齢的な理由から事業の継続が困難な場合においても、町内の活性化やまちづくりの観点からは、適切な事業承継によって現在の事業が継続されることが理想です。それを実現するためには、後継者の選定や育成、税金面の対応、資金調達など事業承継に必要な知識を備えることが必要になります。特に、後継者については親族外の承継を視野に入れることや、事業を承継しなかった場合でも、空き店舗とせず、新たな事業に店舗を活用できるような配慮や工夫が期待されます。

そのためには、事業者自らが事業承継に積極的に取り組むことも重要ですが、各種支援機関などが、事業者の承継に関する知識習得を促進したり、都市部の起業希望者を募って蘭越町での事業展開を支援するといった活動が必要になります。

(3) 農林水産事業者との連携

蘭越町の産業別生産額を見ると、農業は33億円であり、建設業(105億円)に次いで2番目の産業として重要なポジションを担っています。農産物を加工して付加価値を付けた上で出荷する取り組みや農家民宿に携わる農業の経営体は、蘭越町においても年々増加しており、農業関係者の新しい取り組みへの積極性が伺えます。このような背景を持つことから、今後は、町内の小売・卸売業者、製造業者、飲食店・サービス業との連携を密にして、新たな付加価値を生み出すことが重要になってきます。国内各所でみられる農商工連携の事業や地域資源の活用事業の事例では、農林水産資源や生産物を利用した新製品の開発のみならず、観光などのサービス提供の事業によってまちおこしにつなげるケースも多く見受けられます。

当町においてもこのような連携体の構築を促進する場の提供やマッチングの支援などを通して、新たな価値の提供を目指すことが必要です。

第2章 事業者による RESAS の利用

本章では、事業体や経営者が自社の経営活動を進める際に、どのように RESAS を利用することができるかを説明します。RESAS の持つデータは多岐にわたり、また今後も新たなデータ種類が追加されていきますので、事業者や経営者にとっての利用方法も多くの広がりを持っていると考えられますが、ここで示す考え方や事例を参考に RESAS 活用の基本的な事柄を知っていただくことを意図しています。

1 人口データの活用

各地域における人口の多い・少ない、および、将来的な人口増減の傾向に基づき、自社の商売の商圏の再確認や将来的な方向性の組み立てに活用することができます。

（活用ケース1）顧客ターゲットの将来動向

RESAS で提供されている人口増減データを参照することで、事業者がターゲットとして想定している「層」の将来動向を確認することができます。

例えば、老年人口の割合は今後増加していくイメージがありますが、将来予測を含んだ人口推移を参照すると、蘭越町においては2015年以降、老年人口は徐々に減少していくことが分かります。一方で、近隣地域の人口推移のデータによると、ニセコ町や倶知安町では老年人口が今後も増加していくことが推計されています。

このようなデータを参照することで、介護系のサービス事業など高齢者向けの事業者は将来的な商圏としてニセコ町や倶知安町を視野に入れることが、事業運営の一つのアイデアとして浮かび上がってきます。

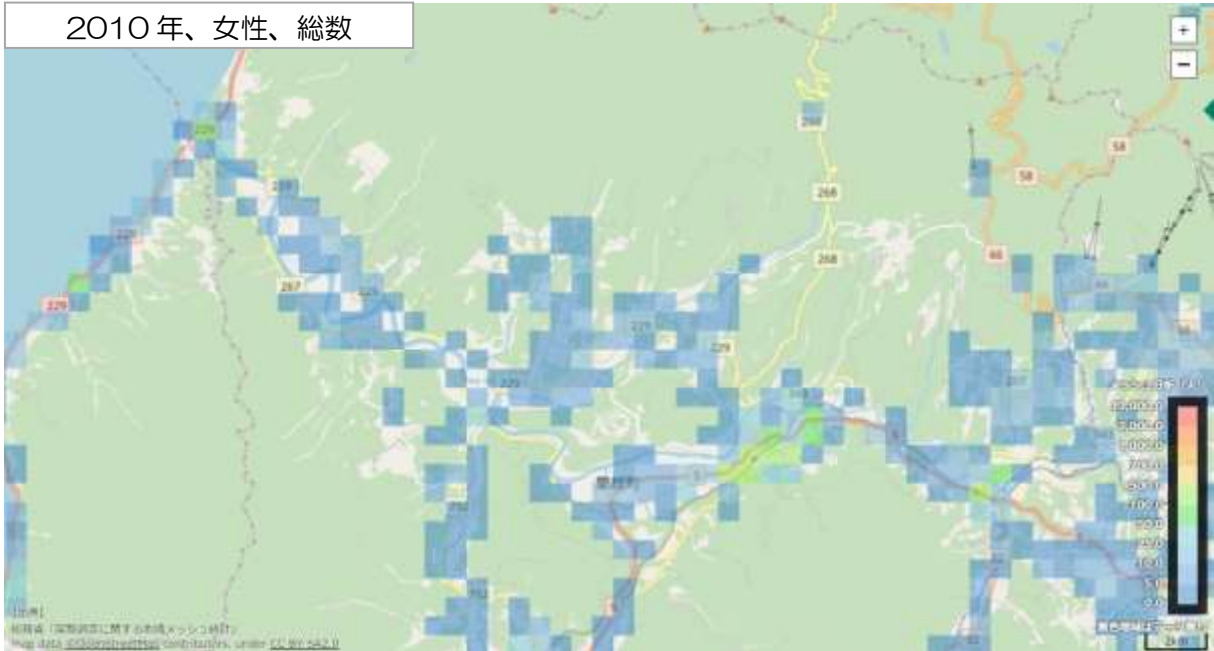


（活用ケース2）宣伝広告の適用範囲の検討

RESASの人口メッシュでは、総人口、および、男性・女性別人口、世帯数、1世帯当たりの人口について、総数と増減数を地域の地図上に重ね合わせて表示することができます。

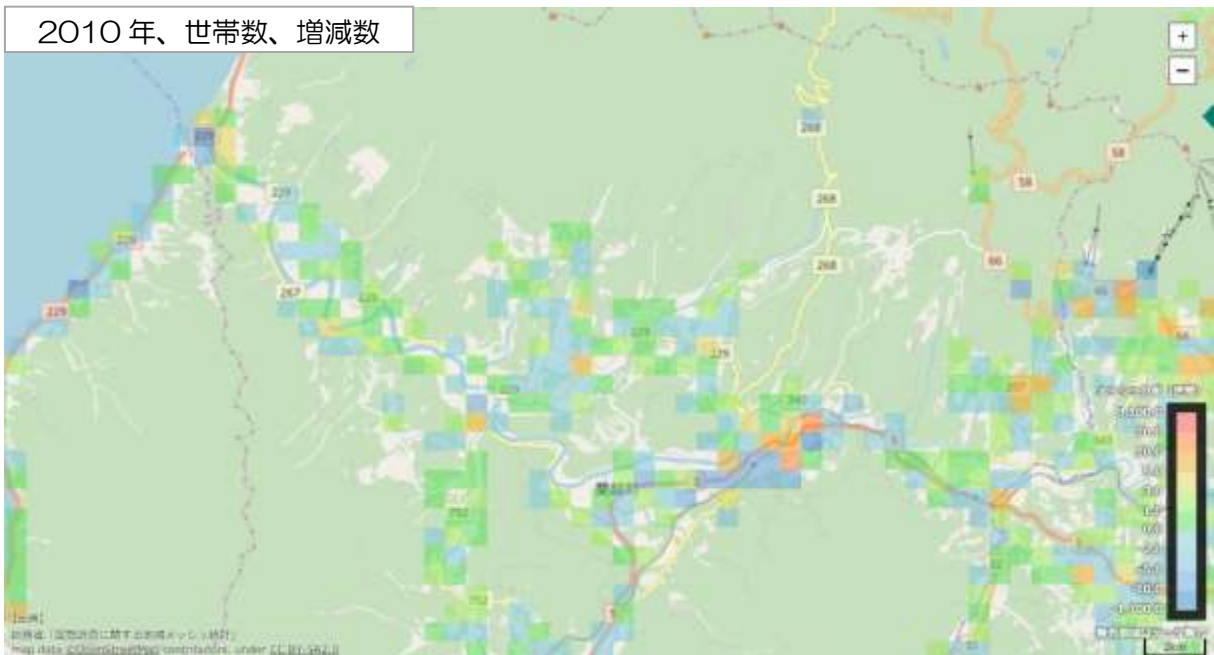
例えば、美容室などの女性向けの事業者がチラシ配布の対象地域を検討する際に、女性人口のマップを参考にすることができます。

2010年、女性、総数



また、家族連れをターゲットとした飲食店などの新規出店を検討する場合、世帯数のデータを参考にすることができます。また、世帯数の増減データを合わせて参照することで、現在の人口だけではなく、今後の動向を加味した計画の立案が可能になります。

2010年、世帯数、増減数



2 産業関連データの活用

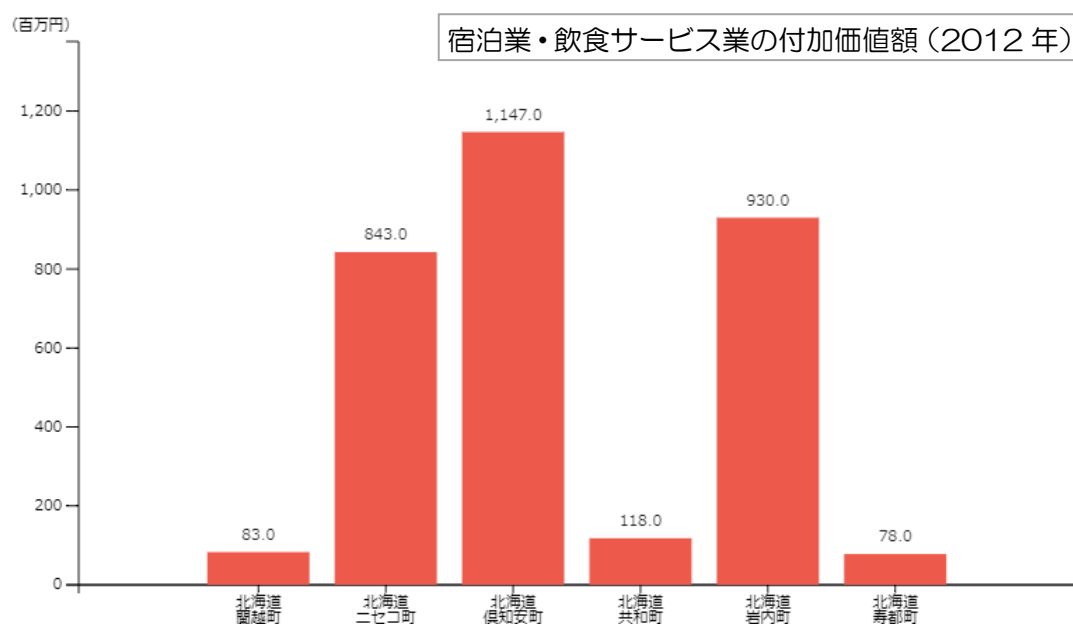
RESAS では、地域の各産業の生産額、付加価値額などのデータを参照することができます。これらのデータを参照することで、自社の属する産業分野の動向を把握し、事業の方向性の検討に活用することができます。

また、周辺地域との比較などによって、蘭越町で不足している産業分野の可能性を類推することができます。

（活用ケース3）事業分野の成長可能性の確認

RESAS が提供する産業毎の付加価値額（その産業がどれだけ稼いでいるかを表す指標：付加価値額＝売上高－費用総額＋給与総額＋租税公課）について、周辺地域の状況を確認することで、会社の事業分野の将来的な可能性を確認することができます。

蘭越町はニセコ山系の地域にあり、観光客を対象とした事業機会を有しています。周辺地域における宿泊業および飲食サービス業の付加価値額を比較すると、ニセコ町、倶知安町、岩内町が突出して金額が高いことが分かります。特に、ニセコ山系のスキー場施設から一定の距離がある岩内町の宿泊業・飲食サービス業の付加価値額が高いことは、これら事業の良好なモデルケースとして着目すべき点と考えられます。

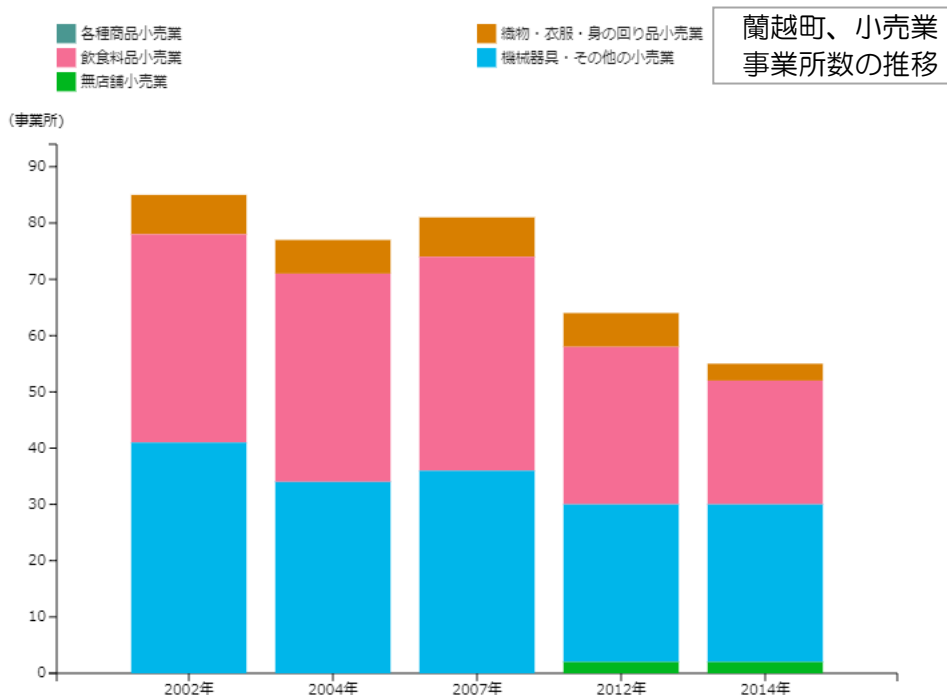
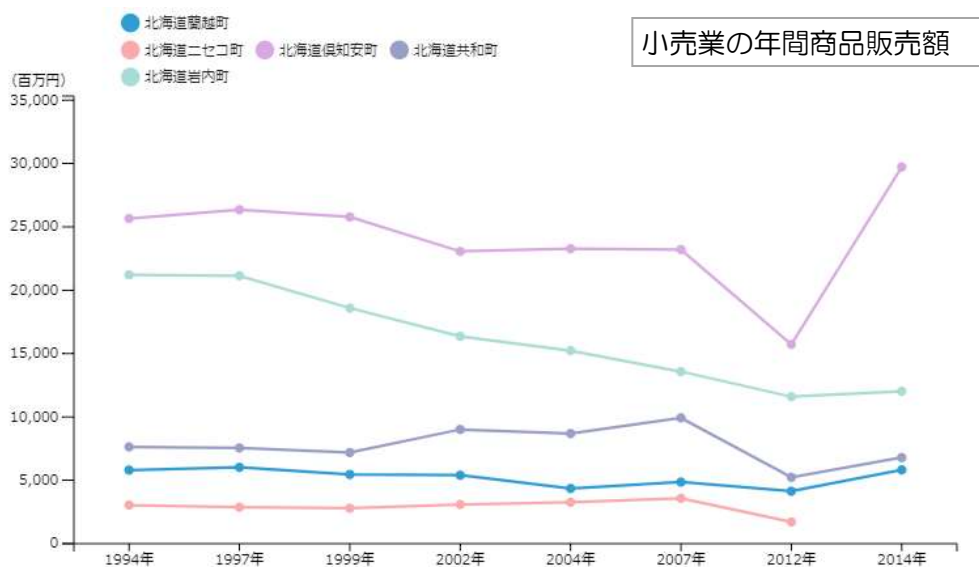


(活用ケース4) 競合する事業者数の確認

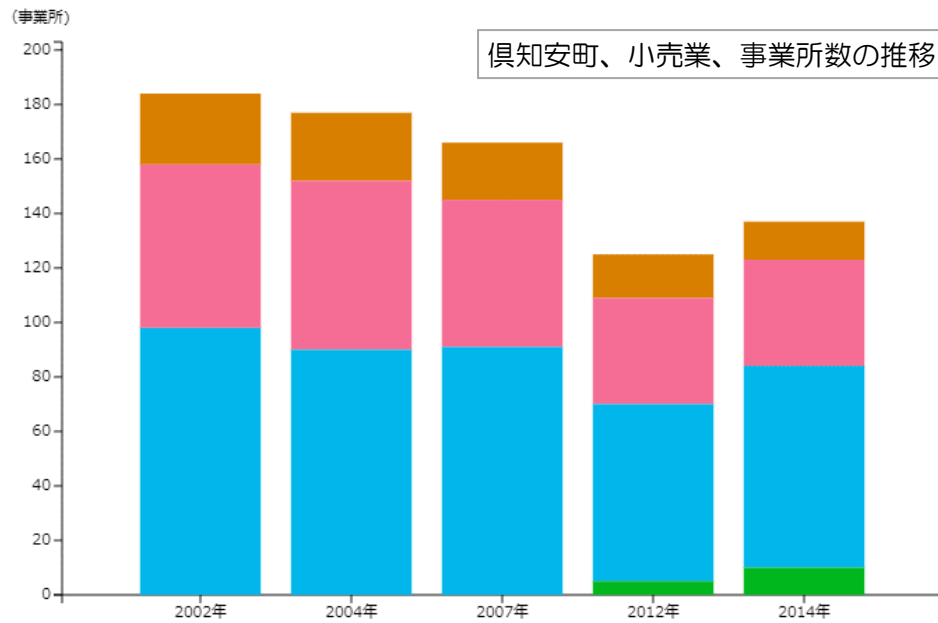
RESAS では、売上額や付加価値額の他に事業者数の情報を提供しています。この情報を参照することで、同じ商圈で事業活動を行う同業者の状況が見てとれます。

小売業の年間商品販売額の推移を見ると、1994年から減少傾向にあり2004年からは50億円付近で増減を繰り返しつつ推移しています。倶知安町では、2012年から2014年にかけて大きく増加している他、周辺地域は下げ止まりの傾向が見て取れます。

一方で、蘭越町における小売業の事業所数は減少し寡占化が進んでいます。周辺地域を含めた年間商品販売額の推移状況の真因を掴むことが前提になりますが、蘭越町においても新規出店などのビジネス機会獲得の可能性が考えられます。



また、蘭越町の小売業の内訳をみると、2012年から無店舗小売業が新たに参入していることが分かります。無店舗小売業は、主に通信販売の業態ですが、倶知安町においてもこの事業分野の事業者が増えており、2014年には10店舗を数えています。今後の展開が期待されることから、通信販売の可能性のある事業者にとっては、新たな事業展開の着眼点とすべきでしょう。



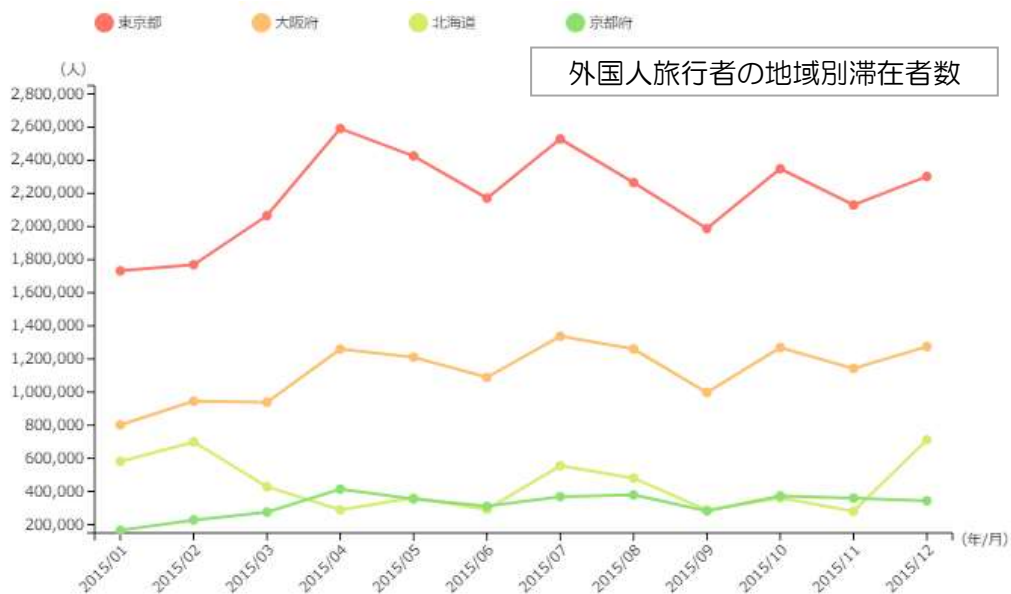
3 観光マップの活用

RESAS では、地域を訪れた観光客のデータを参照することができます。例えば、国内の都道府県を訪れた海外旅行者の数や観光施設の名称がインターネットで検索された回数、旅行者が実際に滞在した場所のデータなどです。

事業者は、これらのデータを活用することで、旅行者のニーズ分析や新たな観光施設（宿泊施設・小売店舗）の企画、体験観光のメニュー開発などを行うことができます。

（活用ケース5）外国人観光客の推移（北海道）

RESAS が提供するインバウンド旅行者の推移をみると、北海道は全国でほぼ3番目に外国人旅行者が多い地域となっています。東京、大阪、京都に比較して、北海道はウィンターシーズン（12月～2月）とサマーシーズンの7月8月に滞在者が多いことがわかります。旅行者の国籍別のデータなどが取得できるようになると、現地へのプロモーション活動の基礎データとして活用することができます。

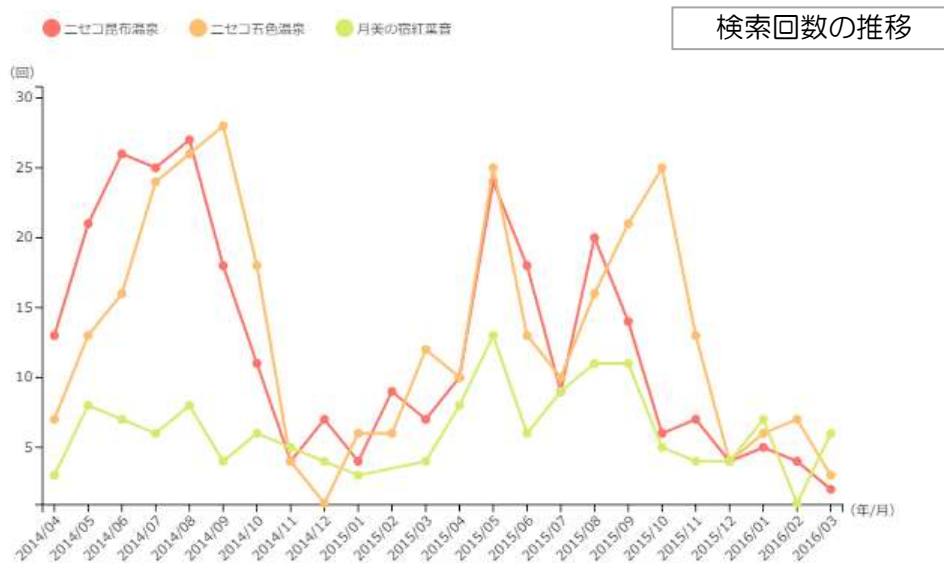
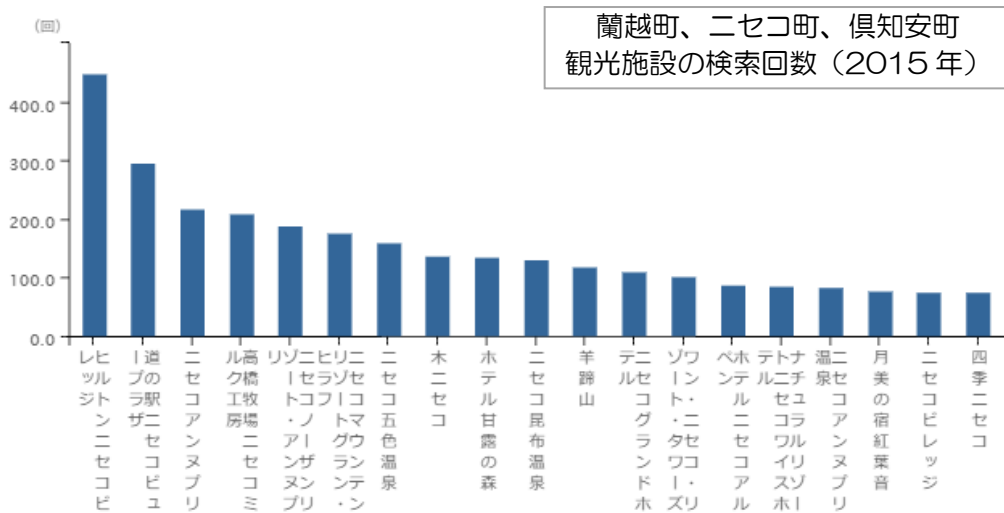


（活用ケース6）蘭越町の観光施設の認知度

RESAS では、路線検索サービスの利用情報を基に、検索回数の多い観光施設を参照することができます。蘭越町およびニセコ町、倶知安町における観光施設の検索回数のデータによると、蘭越町では、ニセコ五色温泉、ニセコ昆布温泉、月美の宿紅葉音が上位に現れています。

これらの施設について2年間の検索回数の推移を参照すると、毎年10月～3月期間に検索が減少している状況が見てとれます。特に、この傾向はニセコ昆布温泉とニセコ五色おいて顕著であり、何らかの集客対応が望まれます。

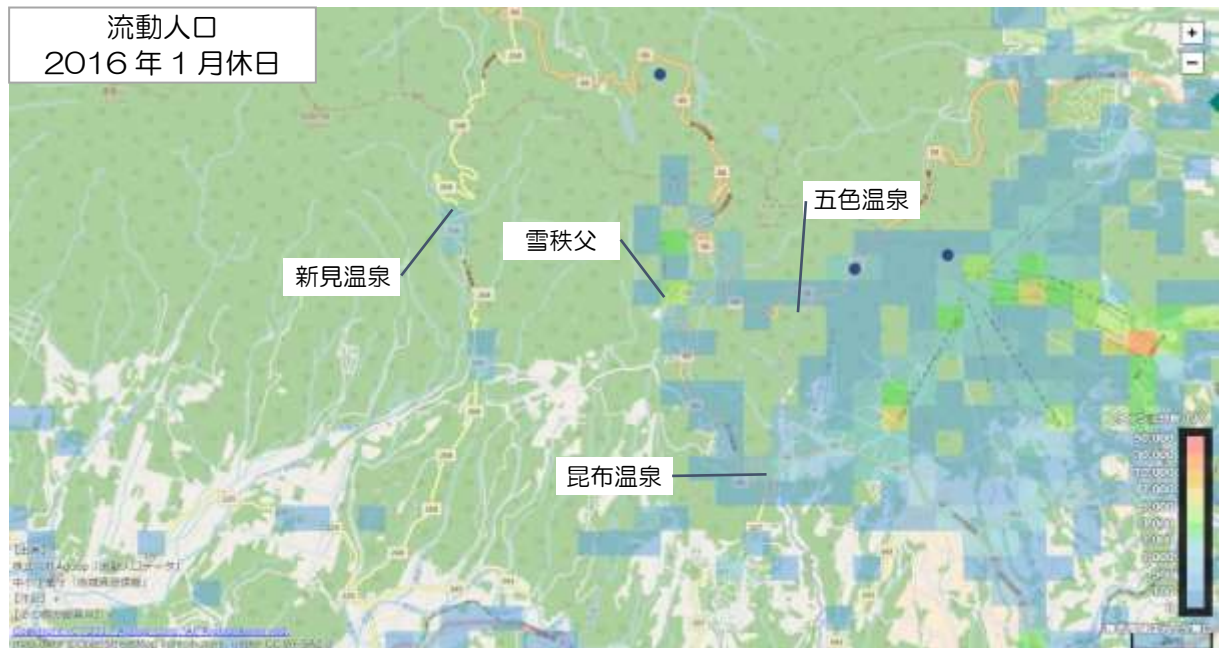
例えば、前述の考察では、検索回数が減少する冬期間は北海道ではインバウンド旅行者が増加する時期であり、これらの施設の認知度向上と誘客に結び付ける何らかの手段を検討することが考えられます。



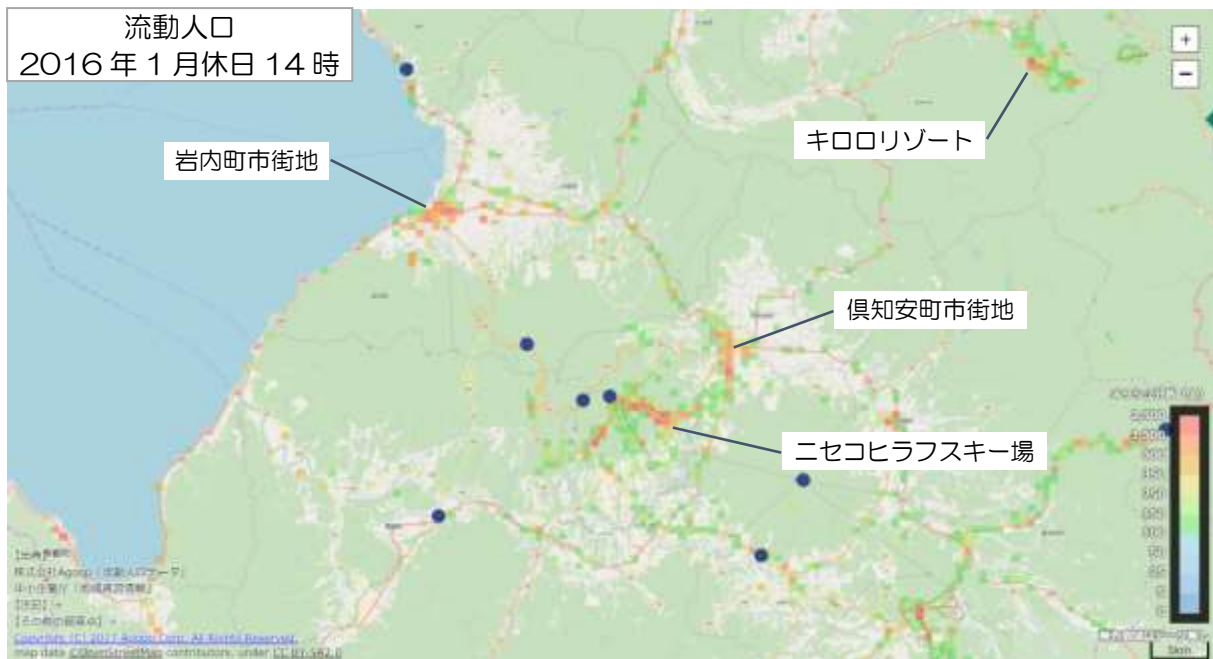
（活用ケース7）流動人口のマップデータ

RESAS では、地域の流動人口を地図上に可視化することができます。この情報は、月別、平日・休日別、時間帯（1時間単位）別の流動人口の推移を 500m メッシュ単位の情報として取り出すことができます。例えば、2016年1月における蘭越町の温泉施設付近の流動人口を観察すると、休日は新見温泉、交流促進センター雪秩父、五色温泉、昆布温泉に流動人口が認められますが、平日は新見温泉の流動人口が非常に少ないことが分かります。

また、自社（自店舗）が立地している場所の流動人口の推移と自社の集客実績を比較することで、自社のパフォーマンスを評価することが可能になります。



さらに、同じく2016年1月14時の近隣地域の流動人口の分布をマクロ的に眺めると、流動人口は、岩内町市街地、ニセコヒラフを中心としたスキー場、キロロリゾート（スキー場）、倶知安町市街地（駅前）に集中していることがわかります。このような情報を用いることによって、蘭越町の温泉地の広告宣伝を行う対象地域の決定や、近隣の観光施設やスキー場と連携したパッケージ型商品を開発することによって、蘭越町への誘客を促進することができます。



3 RESAS を使ったデータの参照

前述のとおり、RESAS は官民を問わず誰でも無償で利用することができます（一部、使用者を限定したメニューがあります）。本書で示した各種グラフも RESAS のサイトから直接参照することができますし、紙面の都合から本書で取り上げなかったデータについても、サイトにアクセスすることで参照・利活用が可能です。以下では、RESAS の利用方法を簡単に紹介します。

<ブラウザの準備>

- ・インターネットのブラウザとして、「Google Chrome」のブラウザ準備してください

※RESAS は、現在「Google Chrome」にのみ対応しています。今後、インターネットエクスプローラ（IE）への対応が予定されています。

- ① ブラウザを使って、RESAS サイトにアクセスします。RESAS サイトのアドレスは、以下になります。

<RESAS サイトのアドレス>

<https://resas.go.jp/>



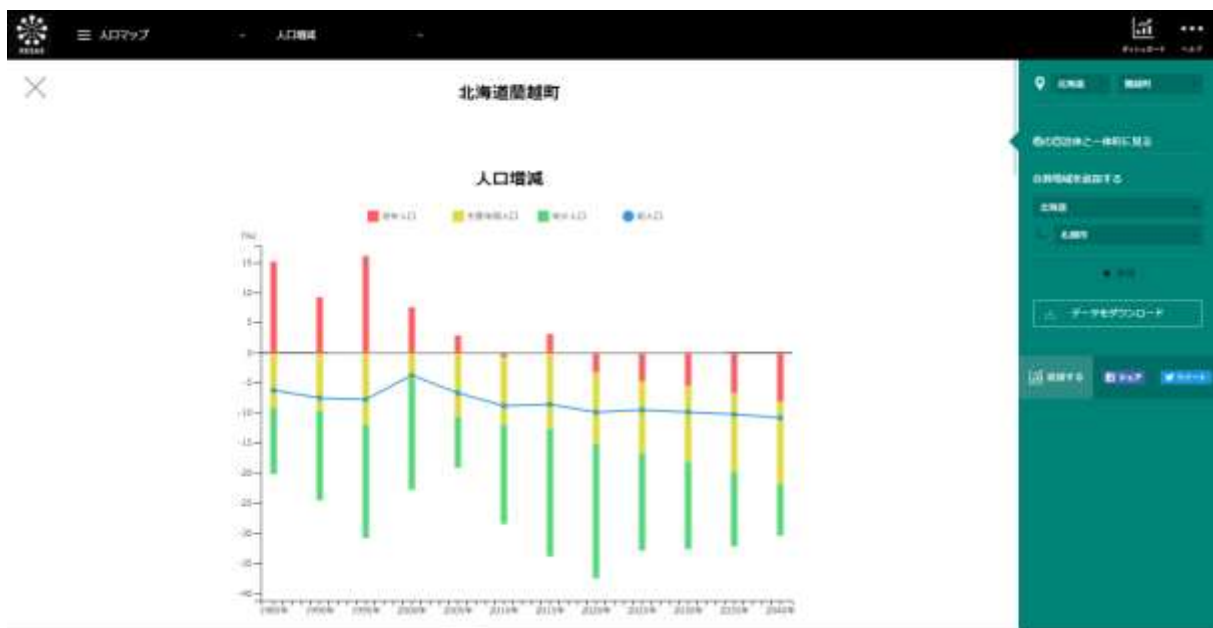
RESAS の画面

② 左上のメインメニューから表示したい情報（マップ）を選択します。





⑥ 蘭越町の人口増減が表示されます。



上記の通り、RESAS では画面上部のメニューと画面右側の各種設定によって、対応したグラフやマップが表示されます。

本書で示すグラフについては、それぞれに対応したメニューの設定内容を付記していますので、将来の時点での経時変化を見る場合や関連情報を探す際の参考にしてください。

第2部

RESAS にみる蘭越町の特徴

第3章

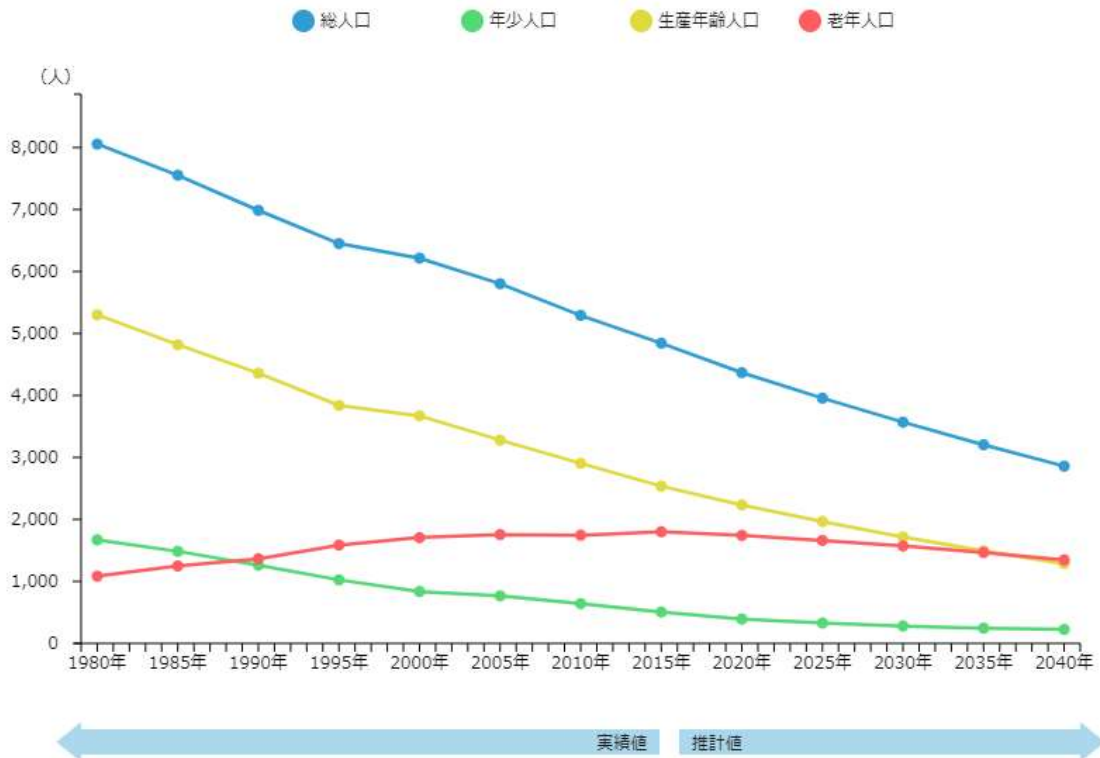
人口

本章以降では、RESAS で得られた情報に基づき、現在の蘭越町の状況や特色について人口、地域経済循環、経済、観光マップの視点から各種データに基づく「見える化」を行います。

1 人口推移

2015年現在、蘭越町の人口は4,843人である。人口は減少傾向が続き、2040年の予測値は2,859人となっている。年少人口・生産年齢人口ともに減少率は大きく、老年人口についても微減の見通しである。

【図表】蘭越町の人口推移（人口マップ＞人口構成）

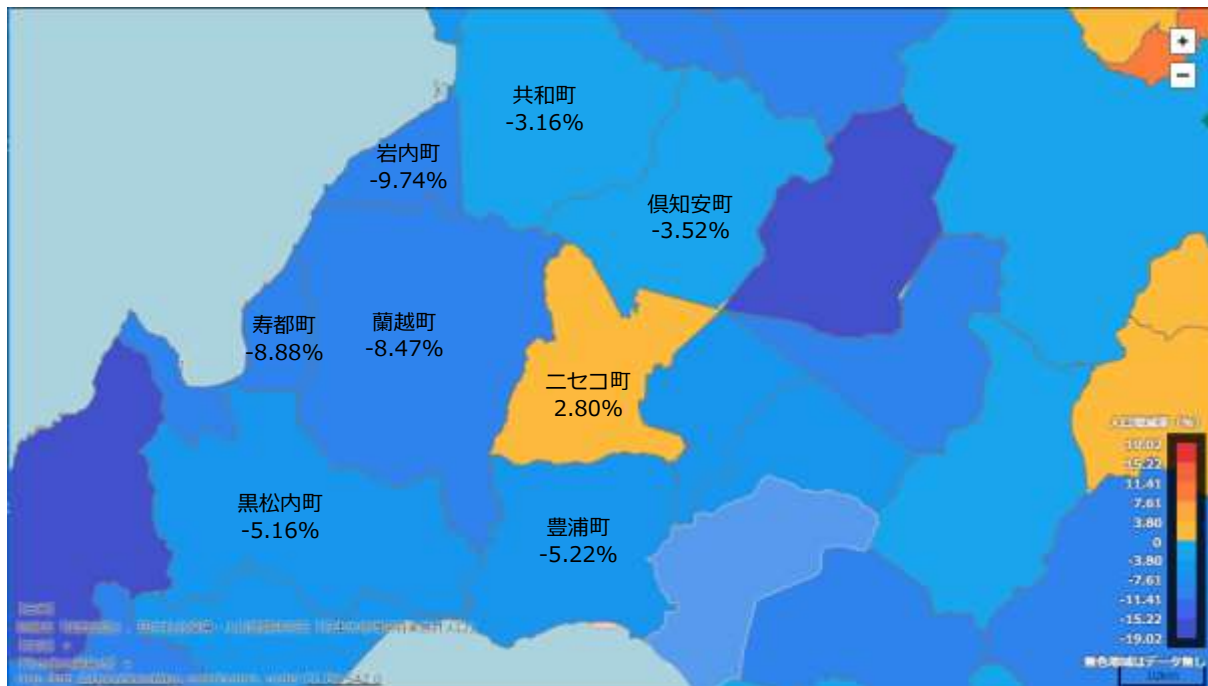


【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】2015年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成25年3月公表）に基づく推計値。

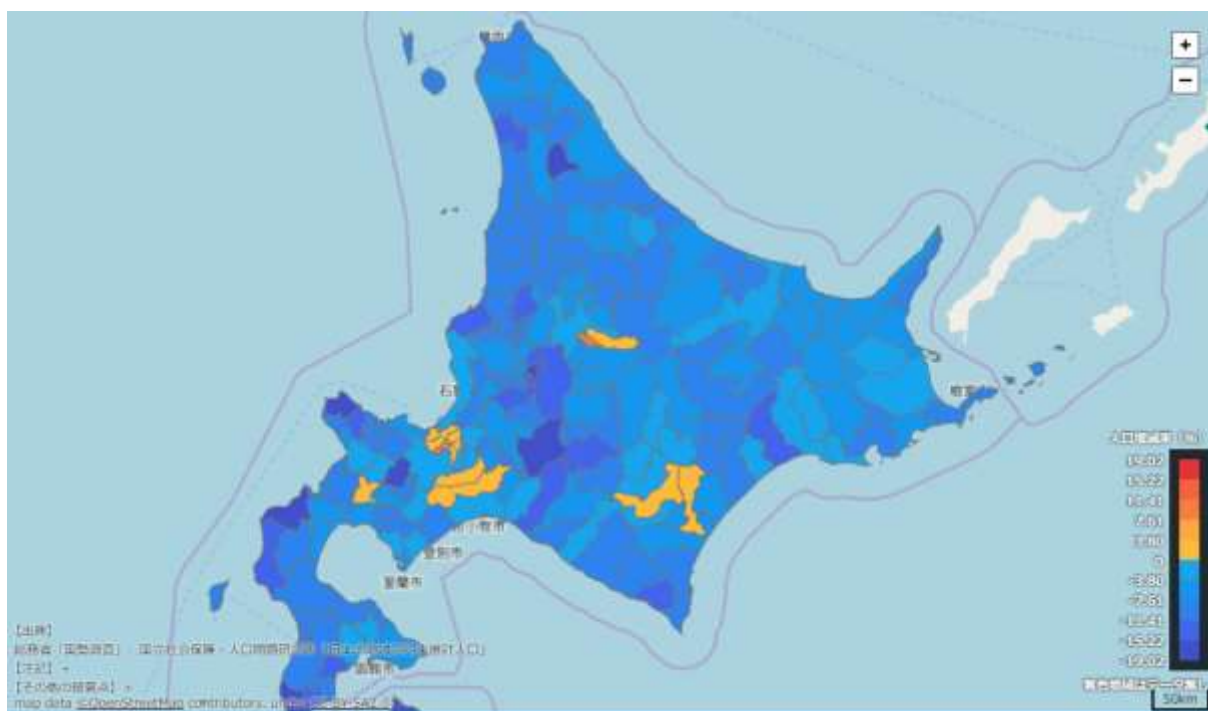
蘭越町の周辺地域では、ニセコ町が人口が増えているが、他の地域は人口は減少の傾向となっている。ニセコ町の他で、北海道において人口が増加している市町村は、札幌市、恵庭市、北広島市、東川町、東神楽町、帯広市、幕別町である。

【図表】周辺地域の人口増減率（人口マップ>人口増減）



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

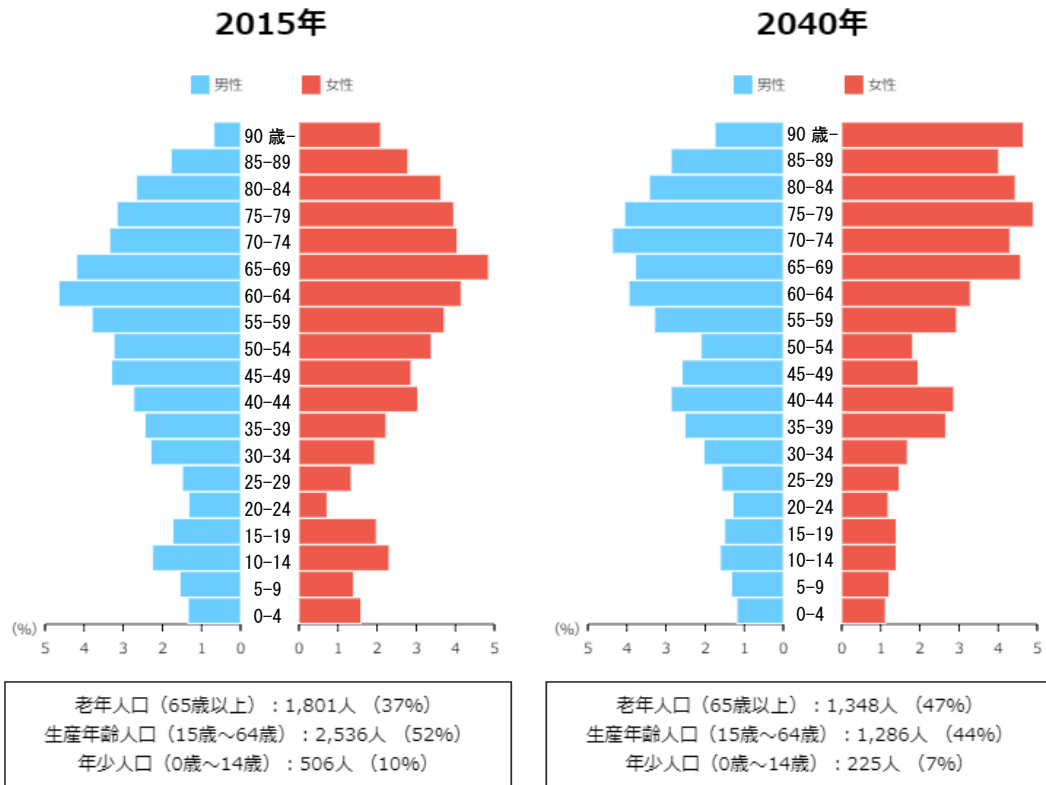
【図表】北海道の人口増減率（人口マップ>人口増減）



2 人口ピラミッド

2015年現在、60歳代の人口が最も多い。2040年の予測値ではピークの年代が70歳代にシフトするとともに、75歳以上の女性の増加割合が高い。

【図表】 蘭越町の人口ピラミッド（人口マップ>人口構成>人口ピラミッド）



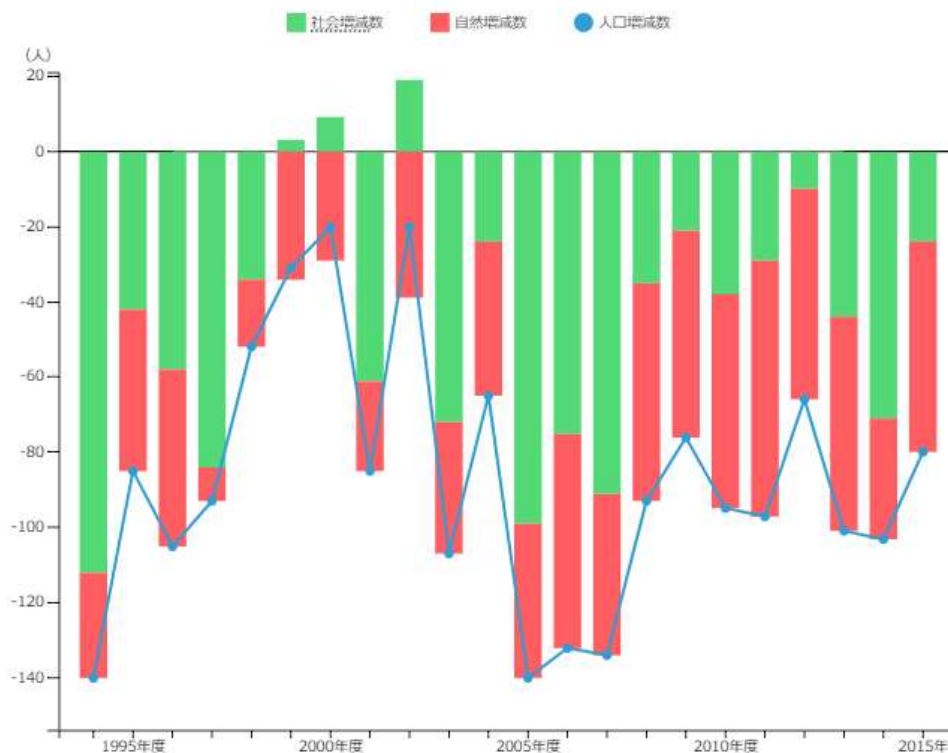
【出典】 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】 2015年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成25年3月公表）に基づく推計値。

自然増減・社会増減の推移

1995年以降、自然増減、社会増減ともにほぼ減少となっている。自然増減の変動はそれほど大きくないが、社会増減は年次による変動が大きい。特に、2005年から3年間は減少（人口流出）が大きかった。

【図表】 蘭越町の自然増減・社会増減の推移（人口マップ>人口増減）



【出典】 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

【注記】 2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。

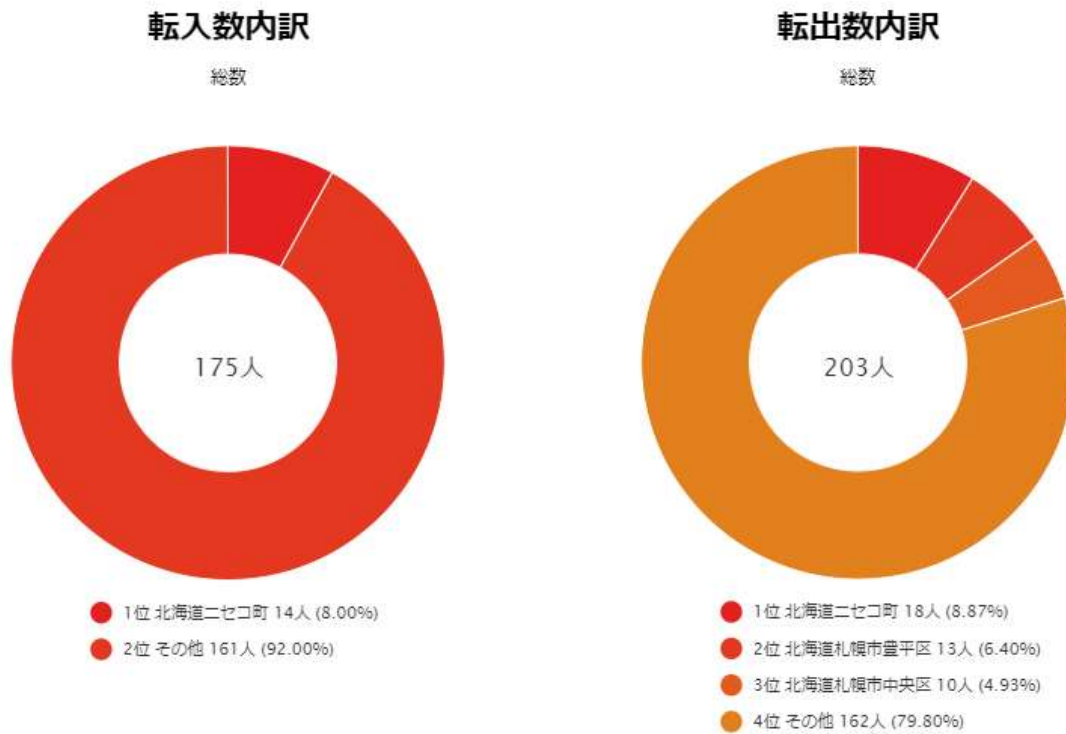
<社会増減と自然増減>

自然増減は、住民の出生と死亡による人口の増減であり、社会増減は、住居の引越に伴う転出と転入による人口の増減である。

3 転入数・転出数の内訳（定住人口）

2016年の転入数の内訳では、ニセコ町から14名が転入している。転出数の内訳では、ニセコ町と札幌への転出が20%程度ある。

【図表】2016年 From-to 分析（人口マップ>人口の社会増減>転入数・転出数）

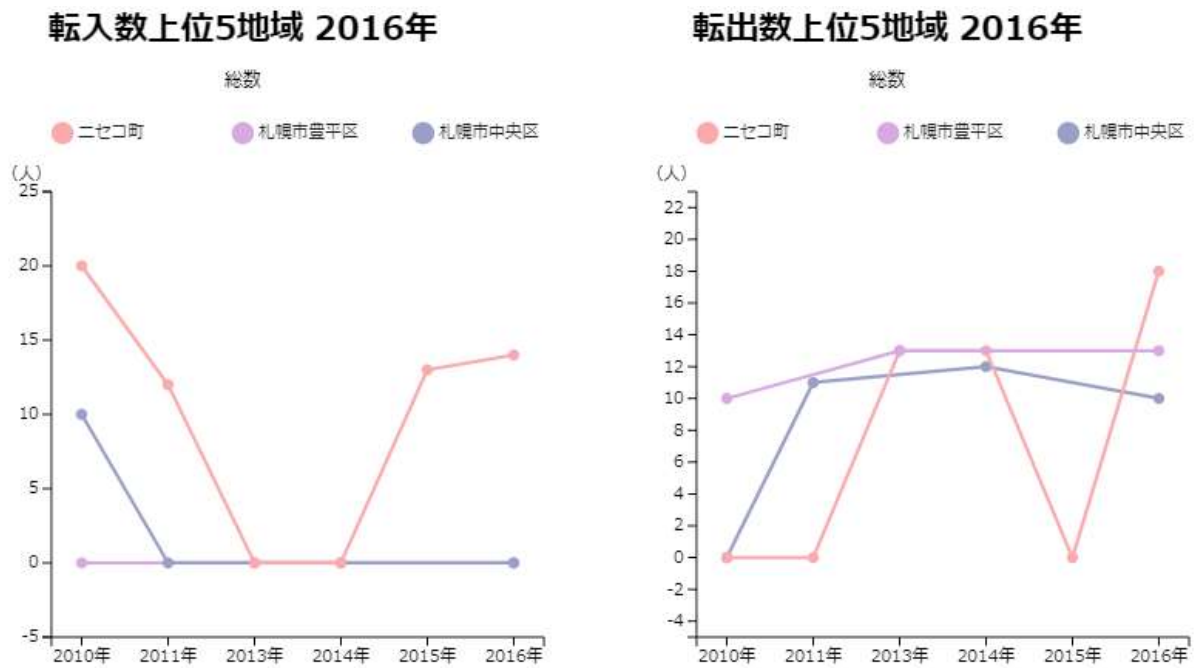


【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

4 転入数・転出数上位5地域

転入数、転出数ともに2013年～2014年とそれ以外の期間で状況が異なっており、2013～14年は、転入数がゼロである一方で二十数名が転出している。また、転入元・転出先は、ニセコ町と札幌市が多い。

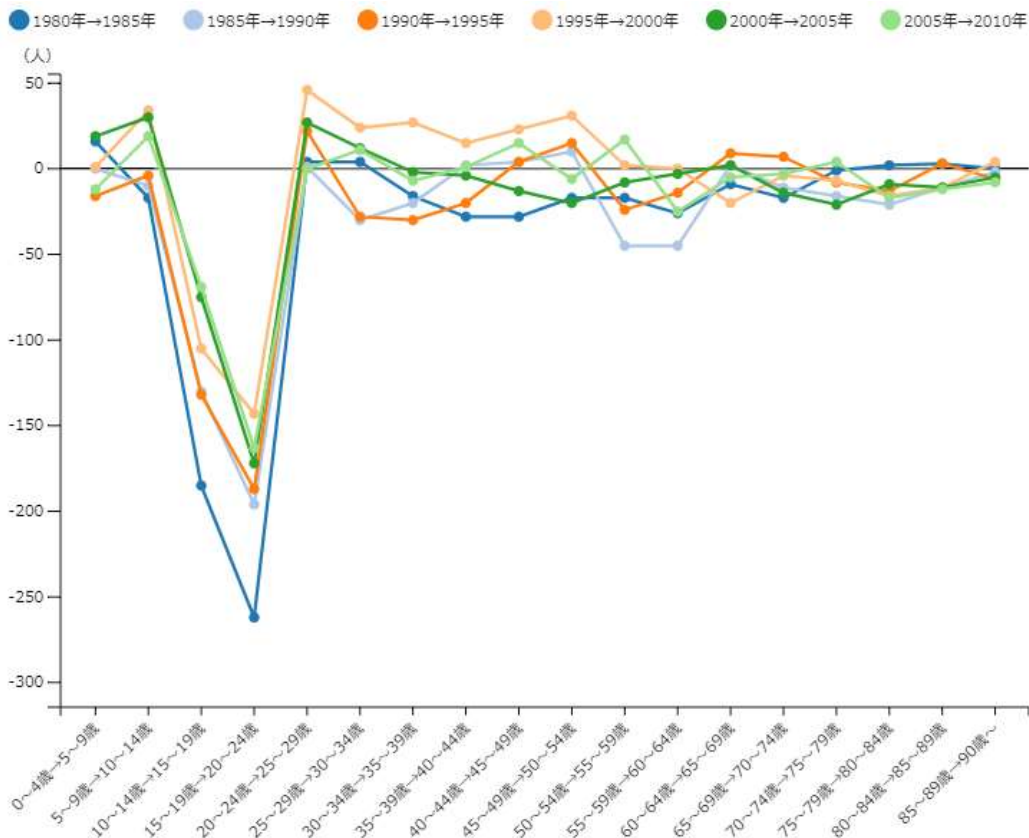
【図表】転入数・転出数上位5地域の推移（人口マップ＞人口の社会増減＞転入数・転出数）



5 年齢階級別純移動数の時系列分析

高校あるいは大学を卒業するとともに町を離れる人口が顕著に多い。就職のタイミングで一旦、町に戻る傾向があるが、その後の年代では流出する割合が高い。ただし、1995年→2000年については、20歳代～50歳代の人口流入が多かった。

【図表】年齢階級別移動数の推移（人口マップ＞人口の社会増減＞人口移動（グラフ分析））



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

第4章 地域経済循環

1 地域経済循環図（蘭越町）

第3次産業による生産（付加価値額）が最も多く、生産額の半分以上が所得として地域内に分配されている（地域経済循環率）。所得のうち、その他所得（注1）は地域外からの流入が多い。支出のうち、その他支出（注2）は地域外への流出が多い。

【図表】地域経済循環図（地域経済循環マップ＞地域経済循環図）



【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所受託作成）

【注記】「地域経済循環率」とは、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している。（値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。）「雇用者所得」とは、主に労働者が労働の対価として得る賃金や給料等をいう。

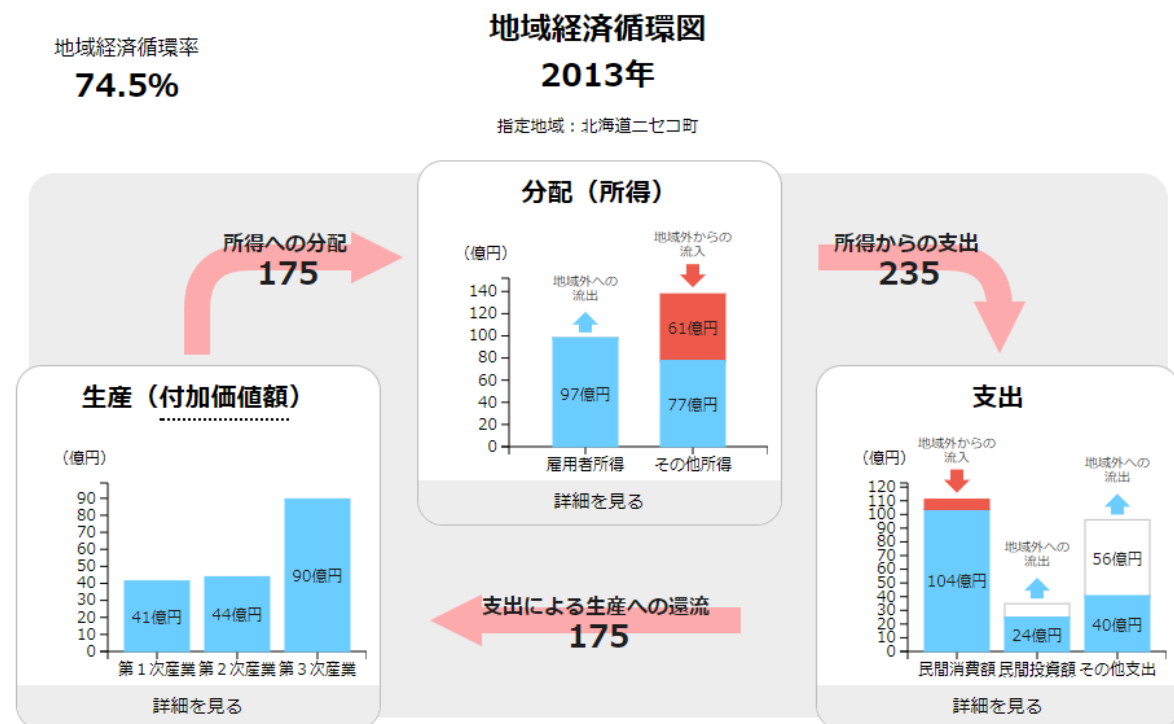
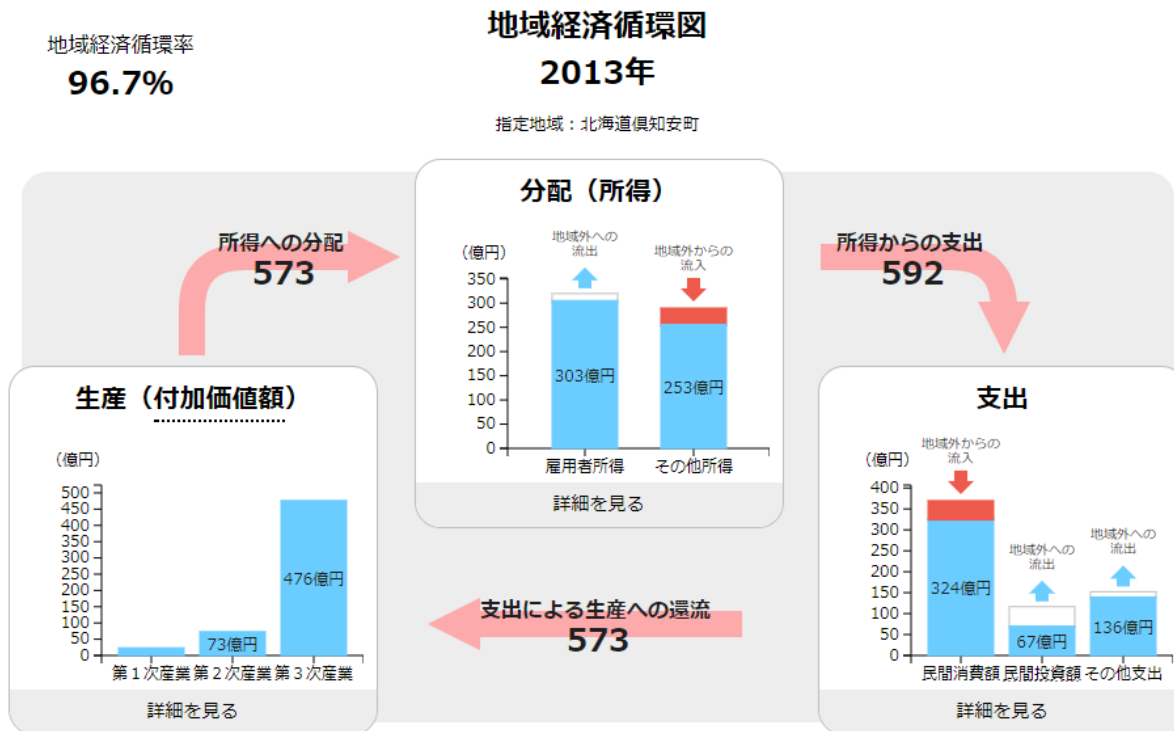
【注1】「その他所得」は、財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外の所得により構成される。

【注2】「その他支出」は、「政府支出」+「地域内産業の移輸出-移輸入」により構成される。

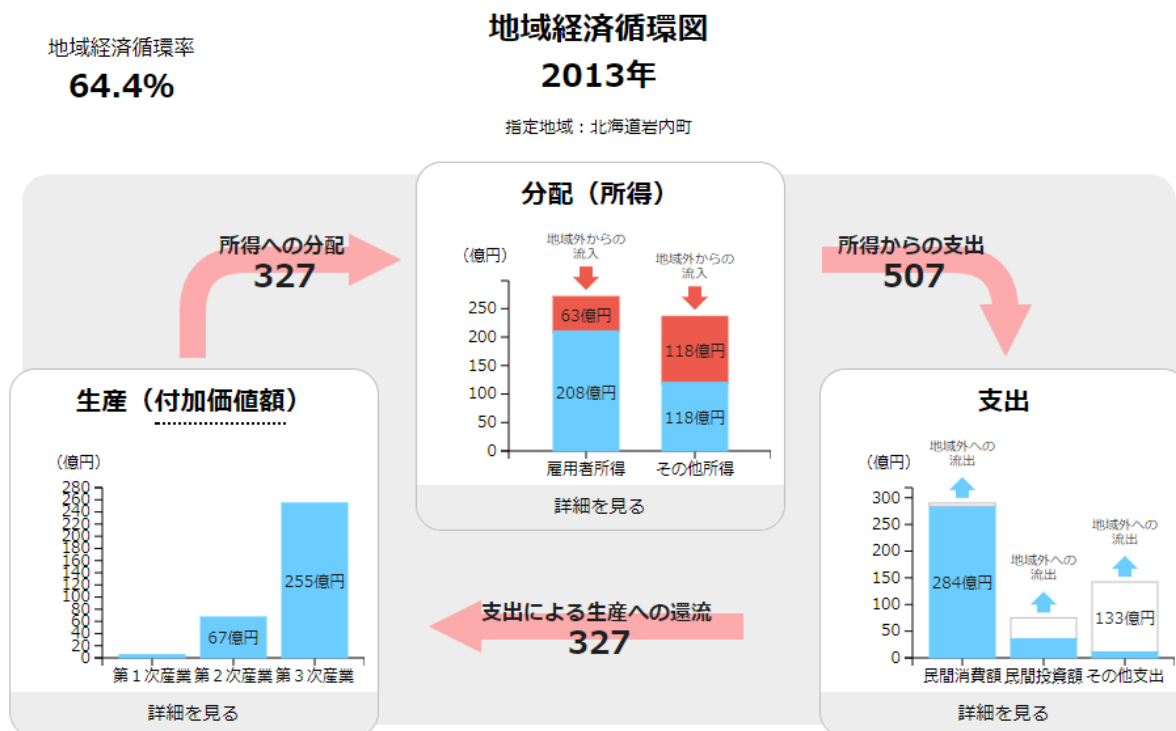
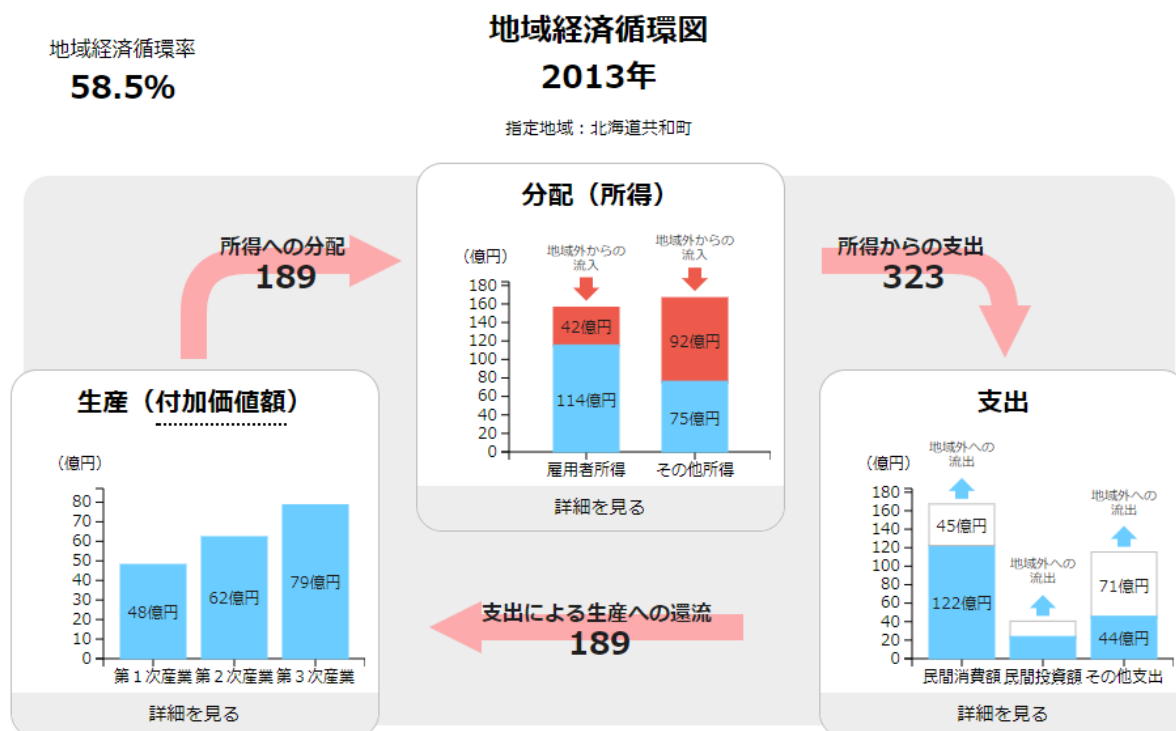
「支出流入率」とは、地域内に支出された金額に対する地域外から流入・地域外に流出した金額の割合で、プラスの値は地域外からの流入、マイナスの値は地域外への流出を示す。

2 近隣自治体の地域経済循環図

倶知安町は地域経済循環率が96%と高く、地域内の生産の大部分が地域内に分配（所得）されている。ニセコ町の所得のうち、その所得は蘭越町と同様に地域外からの流入が多い。



共和町、岩内町ともに、分配（所得）における地域外からの流入が一定割合存在する。岩内町については、1次産業による生産の割合が少ない特徴がある。



第5章 地域の産業

1 生産額の内訳

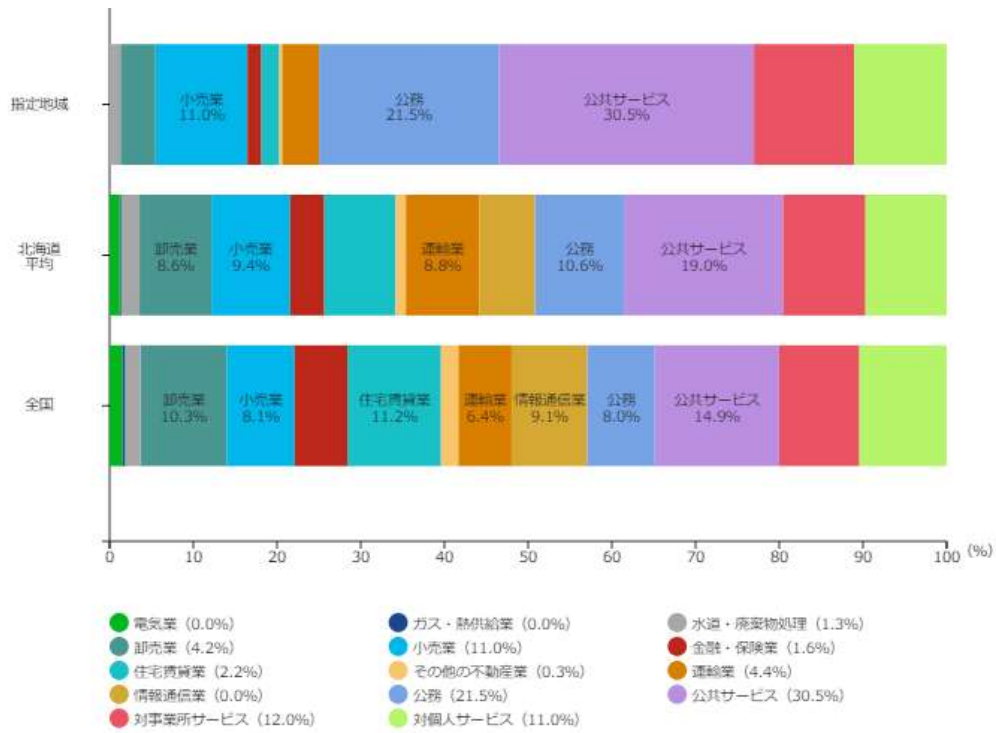
建設業の生産額が最も多く 105 億円となっている。次に、農業（33 億円）、公共サービス（31 億円）、公務（22 億円）が続く。

【図表】 2013 年生産額（総額）（地域経済循環マップ>生産分析）



住宅賃貸業以降： 金融・保険業 2 億円、林業 1 億円、水道廃棄物処理 1 億円、食料品 0 億円、その他不動産 0 億円

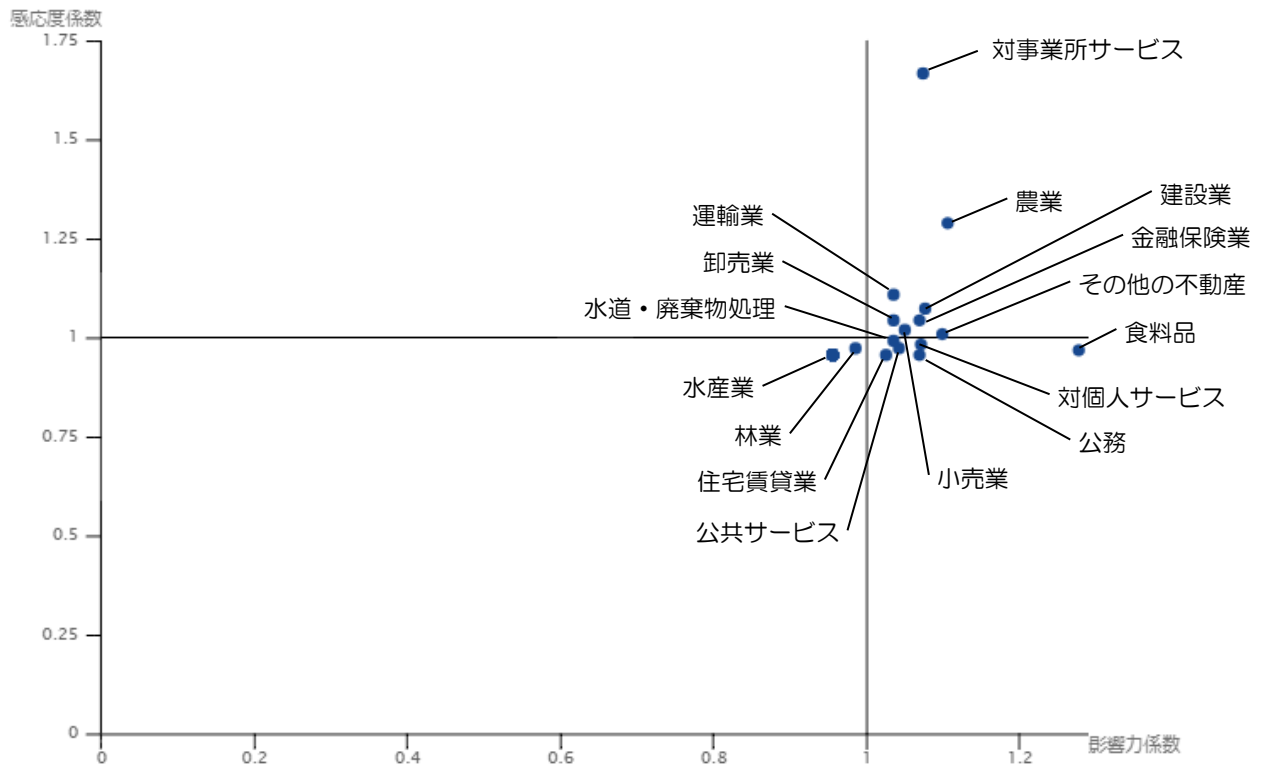
【出典】 環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所受託作成）



3 影響力・感応度分析

蘭越町においては、対事業所サービスと農業が地域内の経済を牽引していることが推察されます。食料品（製造）業は、域内への販売は多くないものの、原料等の仕入れ先が域内に多数あることで地域の経済と深くかかわっている。

【図表】2013年付加価値額（総額）（地域経済循環マップ>生産分析）



【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所受託作成）

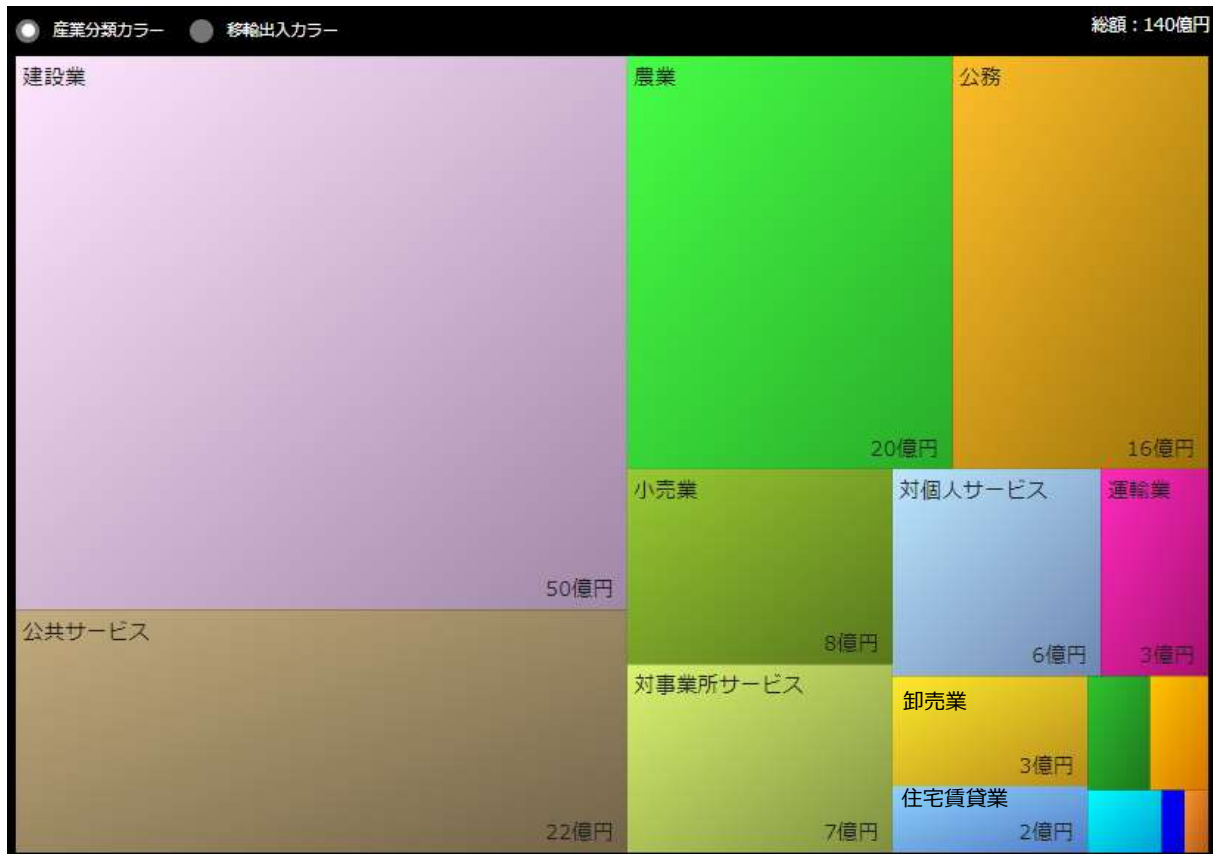
＜影響力と感応度＞

- ・「影響力係数」とは、当該産業に対する新たな需要が、域内の全産業（仕入れ先）に与える影響の強さを示しています。数値が大きいほど、その産業の調達先が域内に多いといえます。
- ・「感応度係数」とは、域内の全産業（販売先）に対する新たな需要による当該産業が受ける影響の強さを示しています。数値が大きいほど、その産業の販売先が域内に多いといえます。

4 付加価値額の内訳

建設業の付加価値額が最も多く 50 億円となっている。次に、公共サービス（22 億円）、農業（20 億円）、公務（16 億円）が続く。

【図表】2013 年付加価値額（総額）（地域経済循環マップ>生産分析）



住宅賃貸業以降：金融・保険業 1 億円、林業 1 億円、水道廃棄物処理 1 億円、その他不動産 0 億円、食料品 0 億円

【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所受託作成）

<付加価値額とは>

地域内の事業所が事業活動を通じて新たに生み出した価値のことで、生産高（売上高）から商品仕入高、材料費、外注加工費を差し引いたものです。

5 雇用者所得の内訳

建設業の付加価値額が最も多く 50 億円となっている。次に、公共サービス（22 億円）、農業（20 億円）、公務（16 億円）が続く。

【図表】2013年雇用者所得（総額）（地域経済循環マップ>生産分析）



卸売業以降：水道廃棄物処理 1 億円、金融・保険業 1 億円、林業 0 億円、その他不動産 0 億円、住宅賃貸業 0 億円、食料品 0 億円

【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所受託作成）

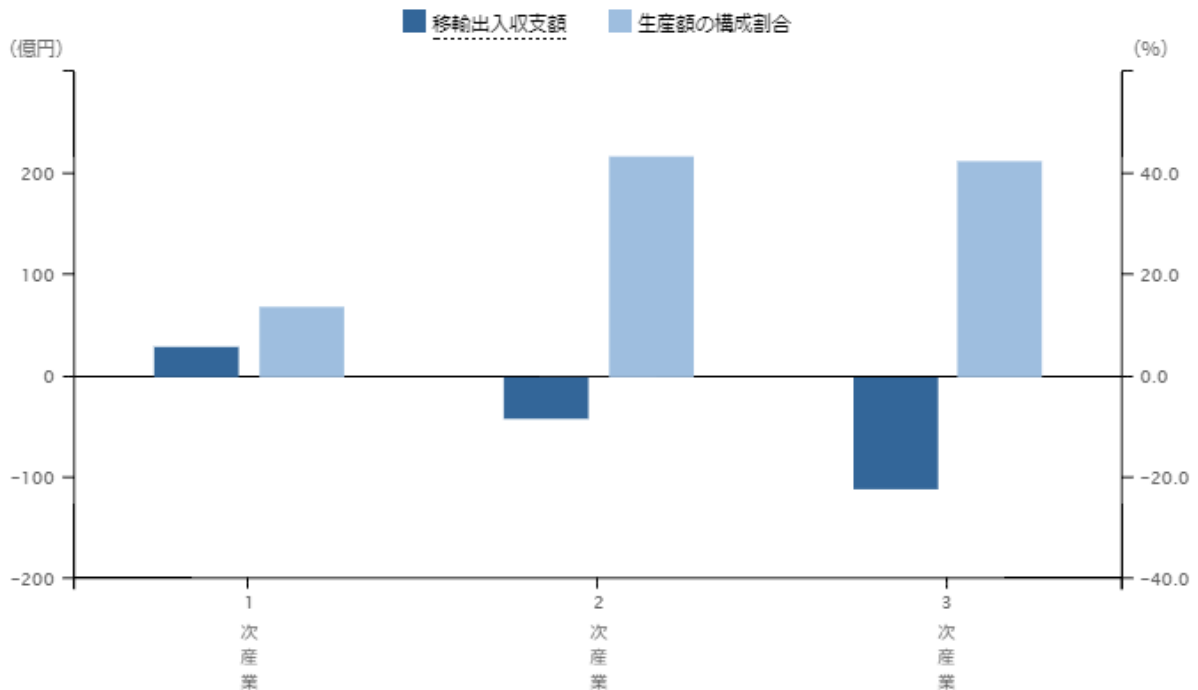
＜雇用者所得とは＞

民間企業や行政等において雇用されている者に対して、労働の報酬として支払われる現金、現物の一切の所得（雇主の支払いベース）であり、役員報酬や退職金、社会保険料の雇主負担分も含まれる。

6 産業別の移輸出入収支額

1次産業では、域外から得た収入が支出を上回っている。生産額の割合が高い2次産業と3次産業は、域外への支出が収入を上回っている。

【図表】2013年移輸出入収支額（産業別）（地域経済循環マップ＞生産分析）



【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所受託作成）

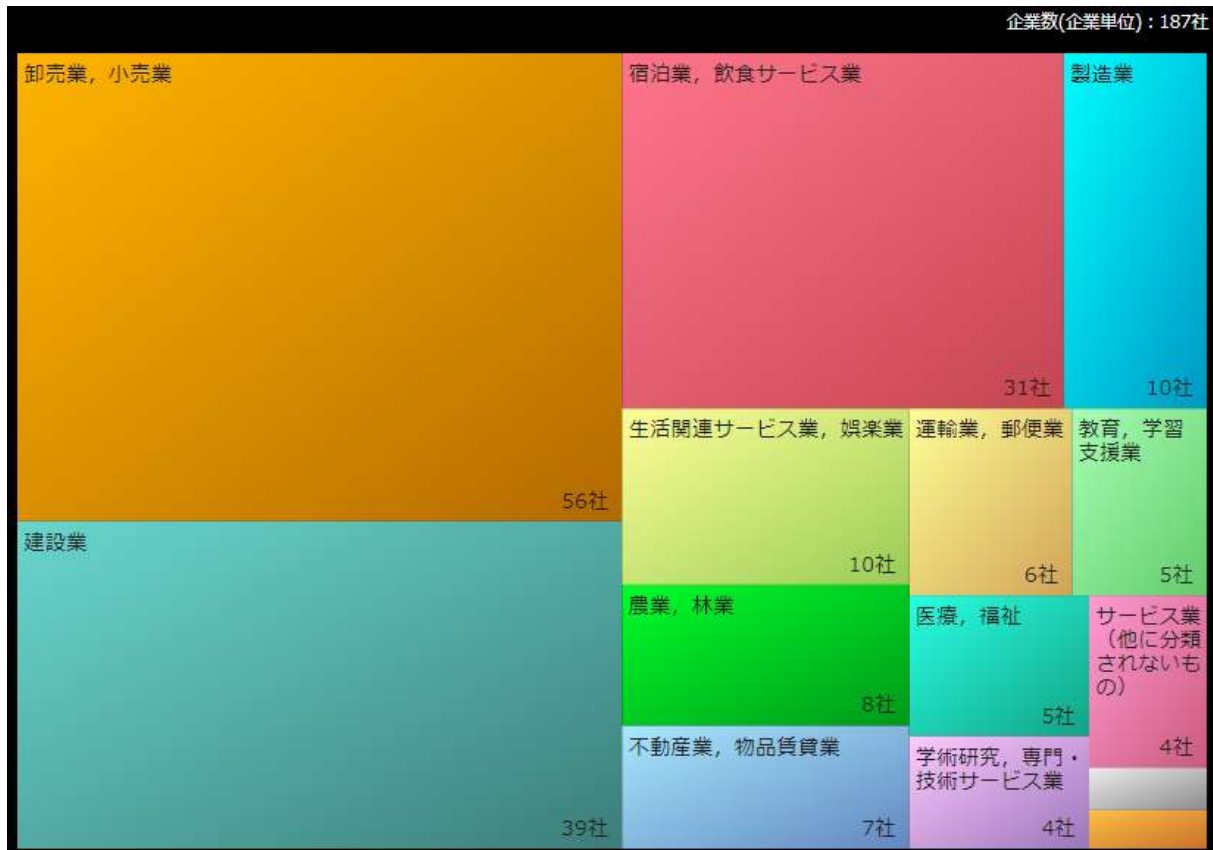
<移輸出入収支額とは>

域外への移出や輸出に伴う「収入額」から、域内への移入・輸入に伴う「支出額」を差し引いたものです。プラスの産業は域外からお金を獲得している産業、マイナスの産業は域外のお金が流出している産業であることを示しています。

7 企業数の内訳

卸売業、小売業の企業数が56社と最も多い。次いで、建設業（39社）、宿泊、飲食サービス業（31社）、製造業（10社）、生活関連サービス業、娯楽業（10社）が多い。

【図表】2014年 企業数（産業構造マップ＞全産業＞全産業の構造）



サービス業（他に分類されないもの）以降：鉱業・採石業・砂利採取業1社、複合サービス事業1社

【出典】総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

【注記】会社数と個人事業所を合算。

8 製造業

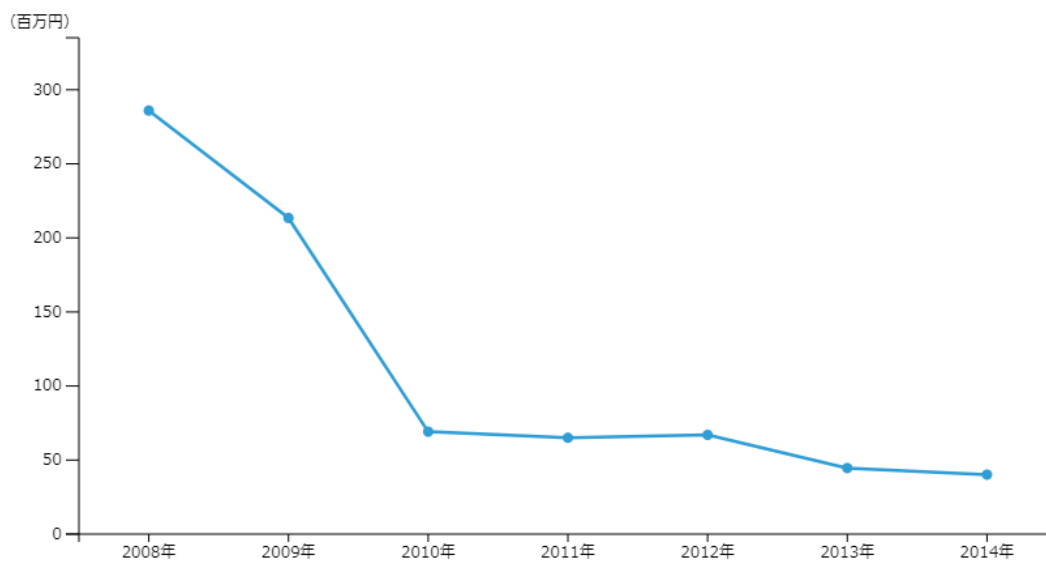
製造業の事業所は、すべて食料品製造業である。また、製造品の出荷額は、2009年の2億円から2010年に大きく落ち込んだ後、横ばいで推移している。

【図表】2013年 事業所数（産業構造マップ＞製造業＞製造業の構造）



【出典】経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

【図表】2013年 製造品出荷額等（産業構造マップ＞製造業＞製造品出荷額等）

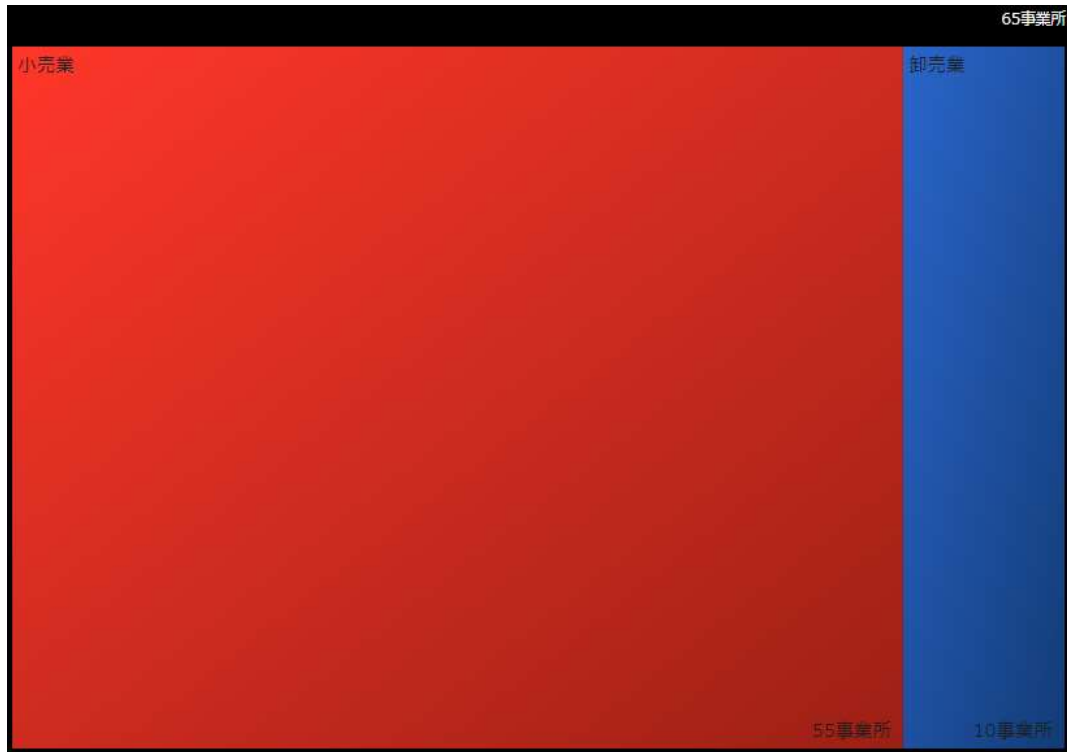


【出典】経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」

9 小売・卸売業（消費）

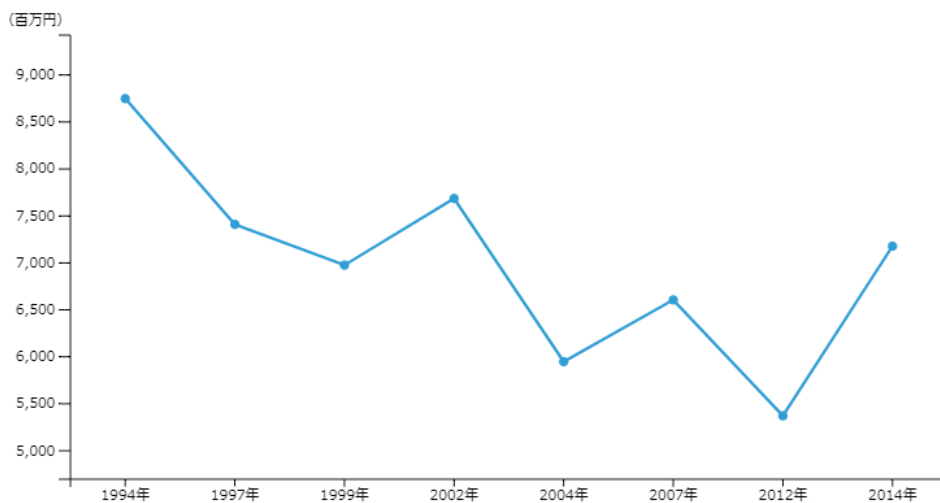
小売・卸売業の事業所数は、合わせて 65 社である。また、年間商品販売額は、変動を繰り返しながらも減少傾向にあったが、2014 年においては盛り返して約 70 億円となっている。

【図表】 2014 年 事業所数（産業構造マップ>小売・卸売業（消費）>商業の構造）



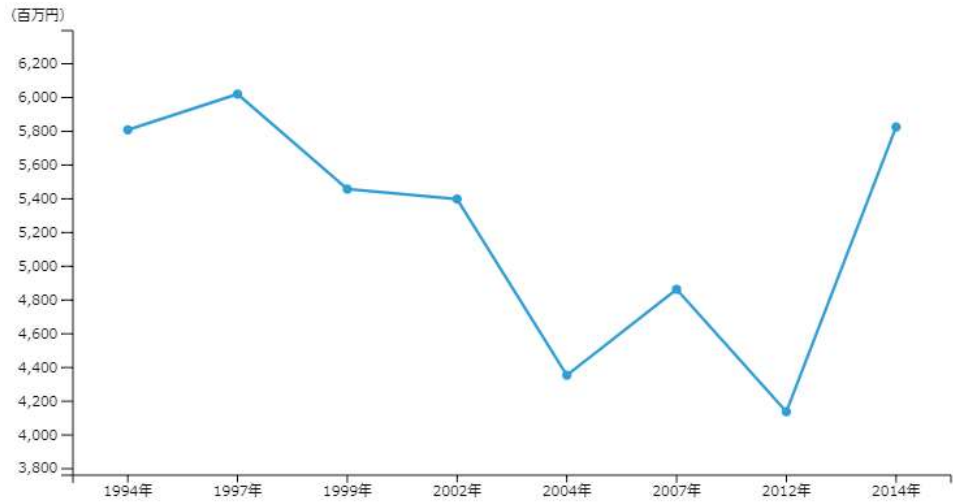
【出典】 経済産業省「商業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

【図表】 年間商品販売額の推移（産業構造マップ>小売・卸売業（消費）>年間商品販売額）

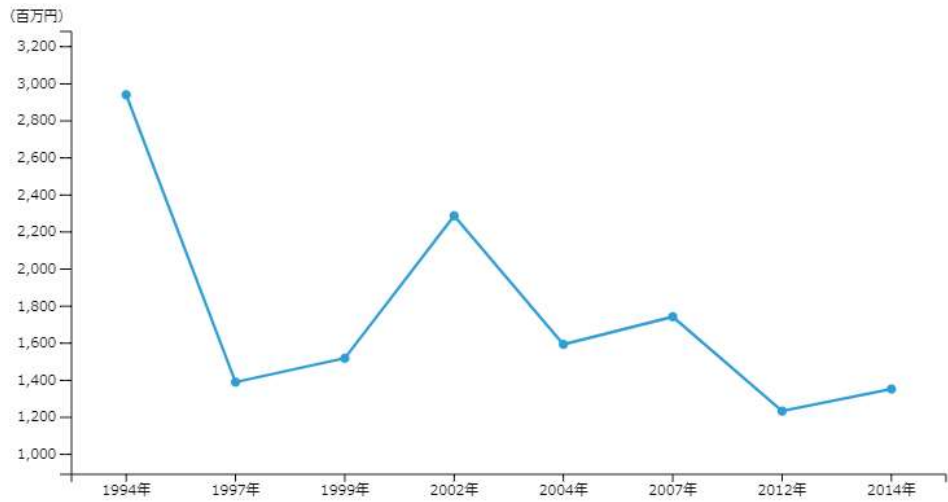


【出典】 経済産業省「商業統計調査」

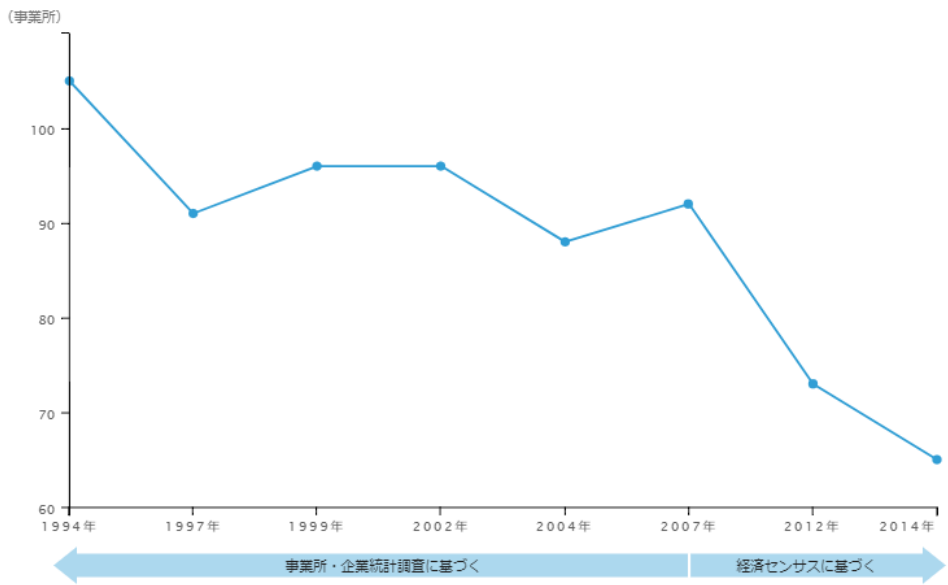
【図表】 年間商品販売額の推移（小売業）



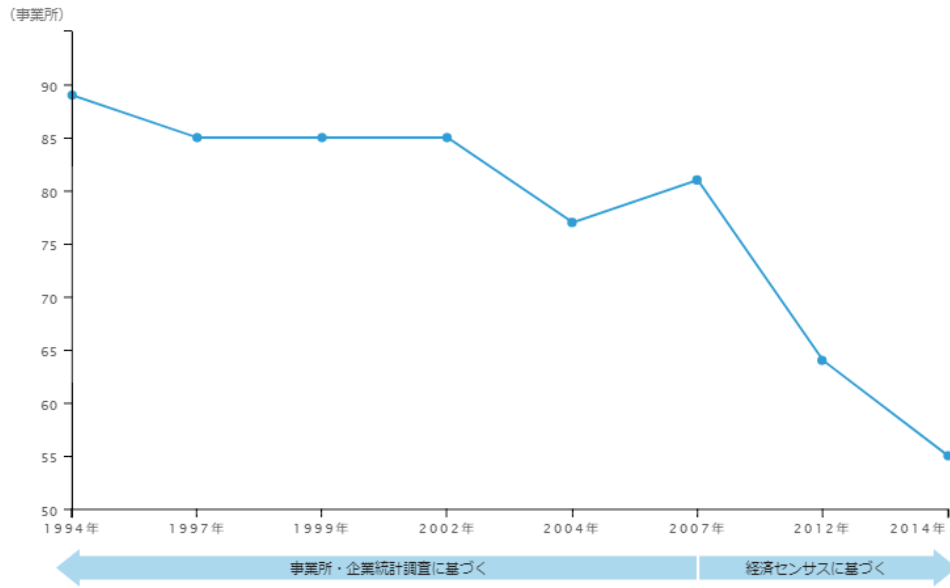
【図表】年間商品販売額の推移（卸売業）



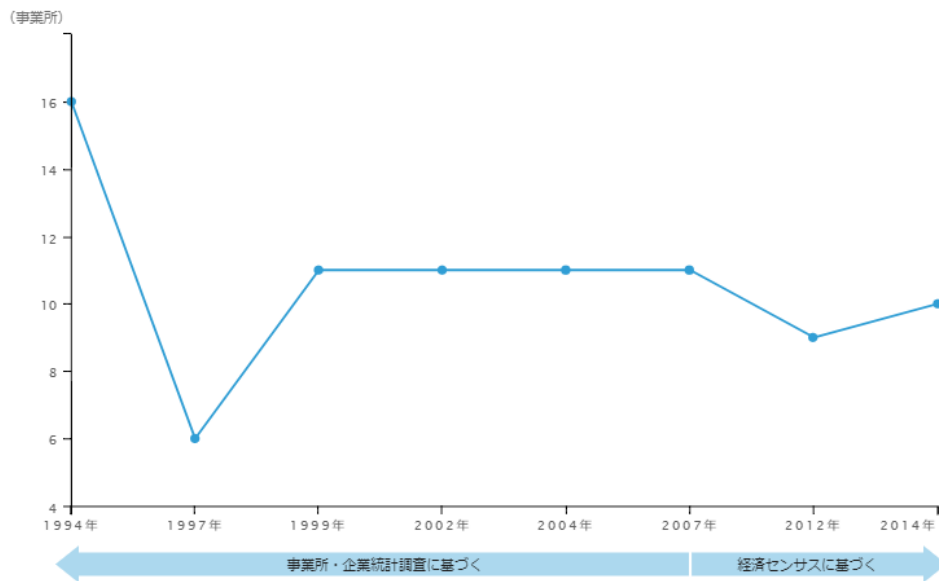
【図表】事業所数の推移（卸売・小売業）



【図表】事業所数の推移（小売業）



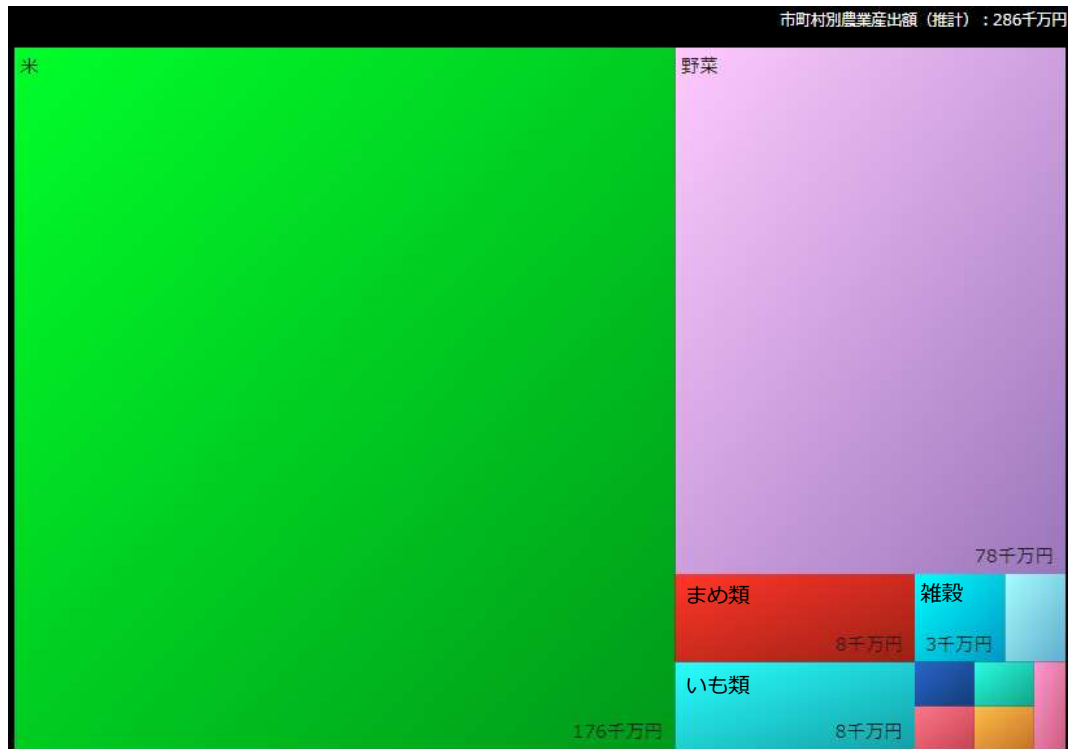
【図表】 事業所数の推移（卸売業）



10 農業

米の産出額が6割以上を占めている。次に、野菜、まめ類、いも類が続いている。2015年における経営耕地面積は、318,096aである。

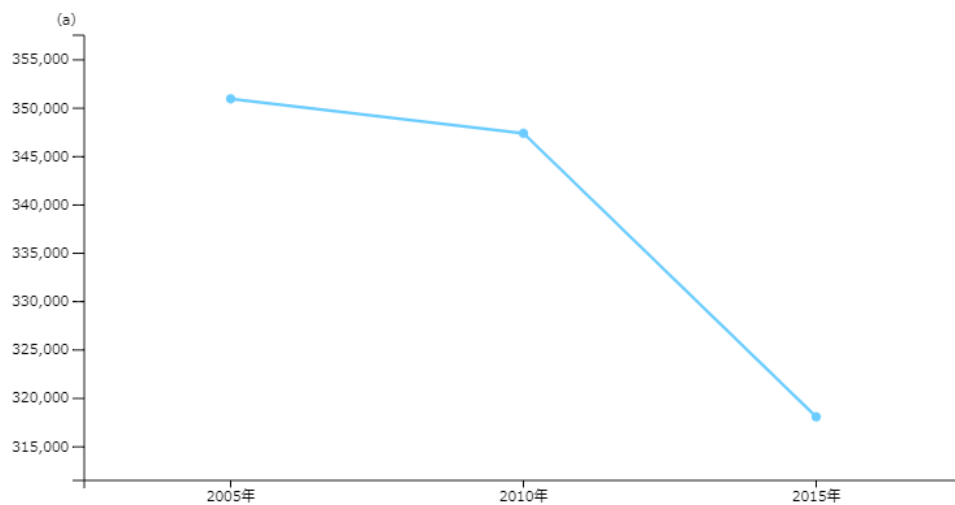
【図表】2015年品目別農業産出額（産業構造マップ＞農業＞農業の構造）



雑穀以降：肉用牛2千万円、麦類、果実、花き、工芸農作物、その他農作物1千万円

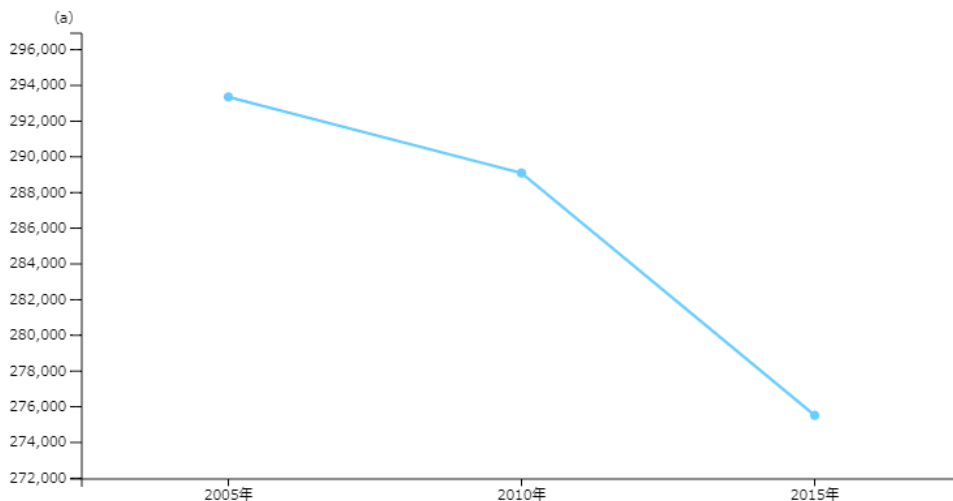
【出典】農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

【図表】経営耕地面積（総面積）推移（産業構造マップ＞農業＞農地分析）



【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工

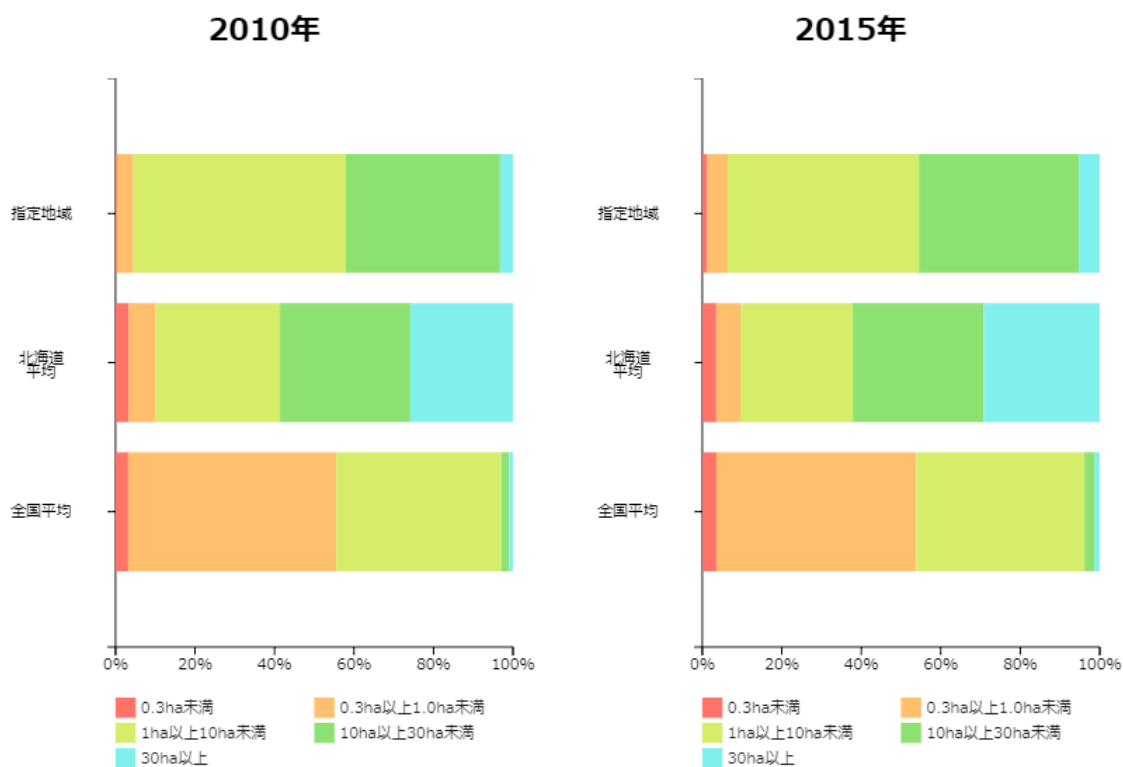
【図表】経営耕地面積（総面積）推移 農地区分：田（産業構造マップ＞農業＞農地分析）



【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工

経営耕地面積が1haから30haの規模である経営体の割合が、北海道の平均に比較して多く、30ha以上の経営体は少ない。

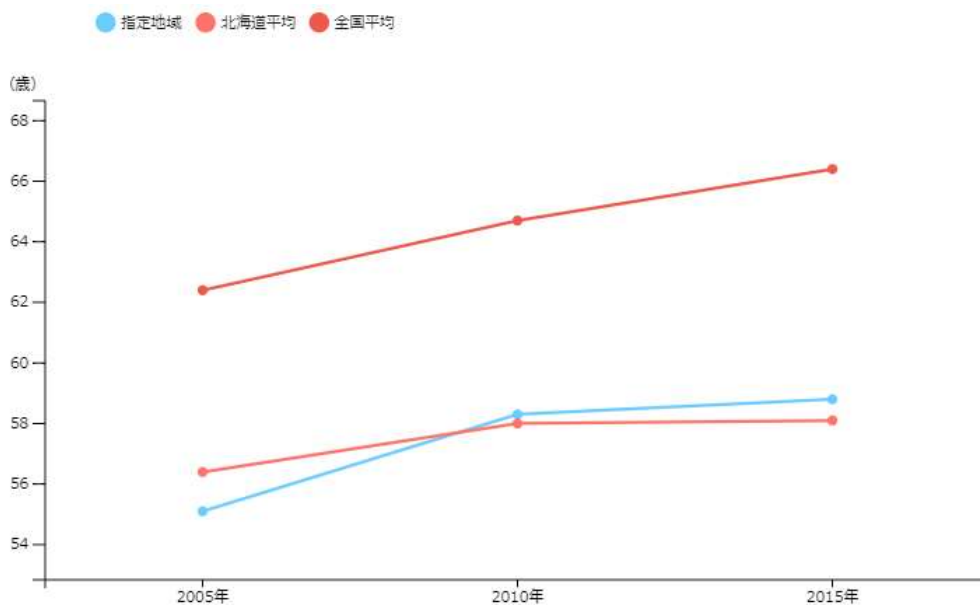
【図表】経営耕地面積規模別の経営体の割合（産業構造マップ>農業>農地分析）



【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工

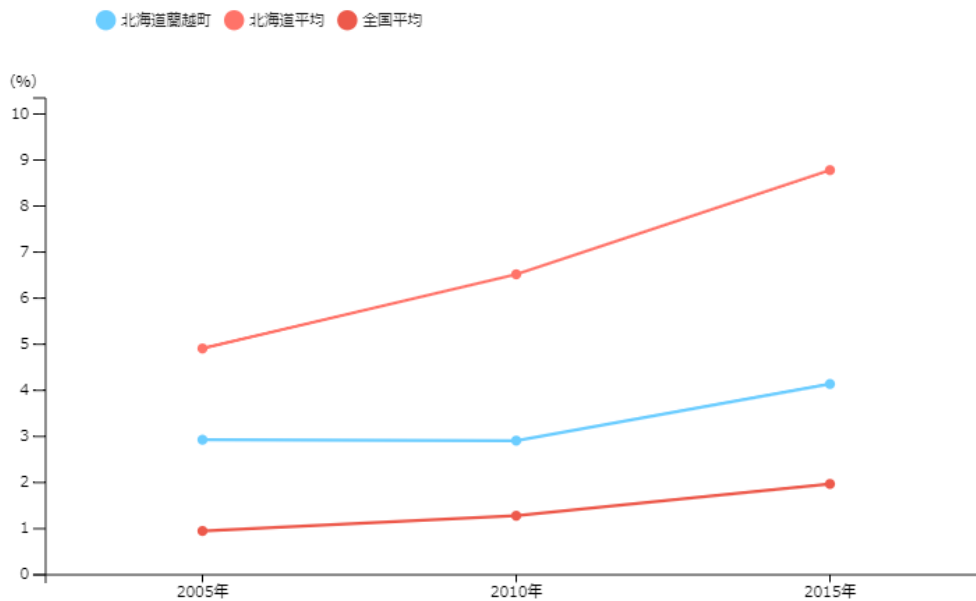
農業経営者の平均年齢は59歳であり、全国平均の66歳に比較して低く、高齢化の進行スピードも緩やかになっている。農業経営体の法人化率は、全国平均より低いが北海道平均よりも高い。

【図表】 農業経営者の平均年齢（産業構造マップ＞農業＞農業者分析）



【出典】 農林水産省「農林業センサス」再編加工

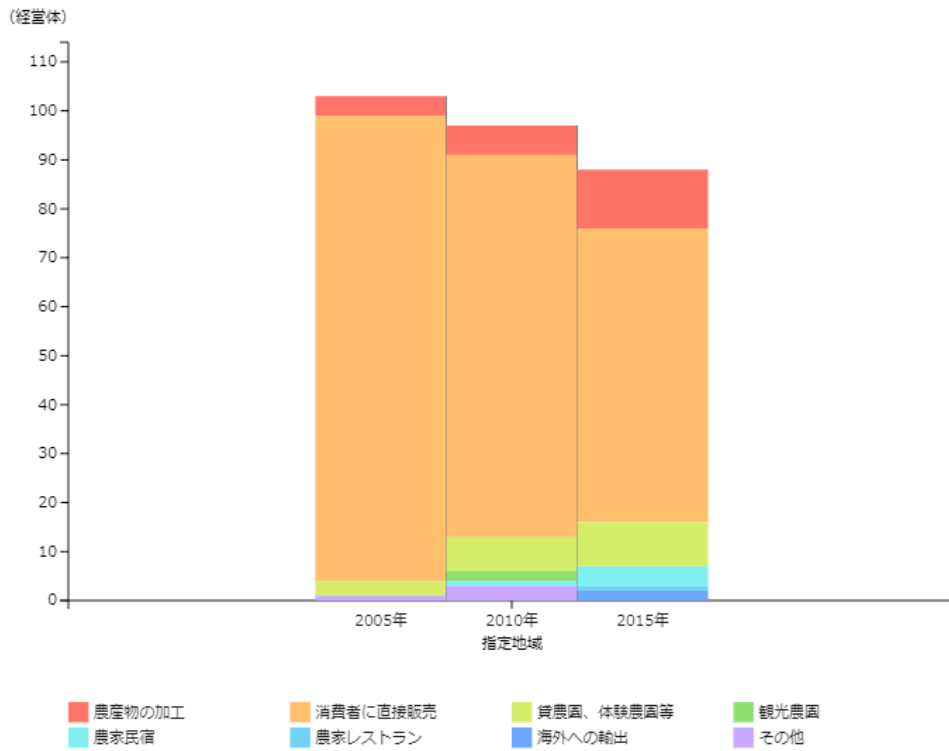
【図表】 農業経営体の法人化率（産業構造マップ＞農業＞農業者分析）



【出典】 農林水産省「農林業センサス」再編加工

農作物の加工を実施する農業者および貸農園・体験農園などを実施する蘭越の農業者は、増加傾向にある。その他、2015年には、農家民宿を提供する農業者は4事業者、輸出を実施する農業者が2事業者存在する。

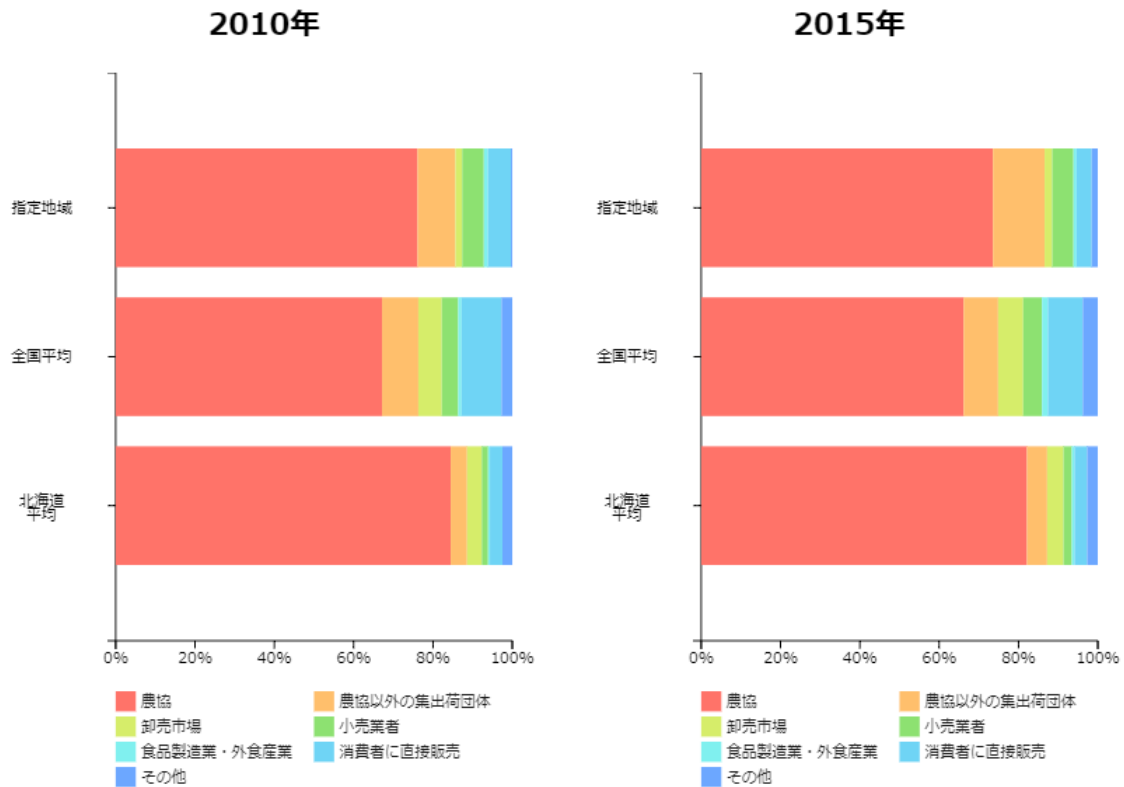
【図表】 農業生産関連事業の実施状況（産業構造マップ＞農業＞農業者分析）



【出典】 農林水産省「農林業センサス」再編加工

北海道および全国にくらべ蘭越町は、農作物を農協以外の集出荷団体に出荷する割合と直接小売業者に出荷する経営体の割合が高い。また、農協以外の集出荷団体に出荷する割合は、2010年と比較して2015年は増加している。

【図表】農産物の出荷先別経営体数の割合（産業構造マップ＞農業＞農業者分析）

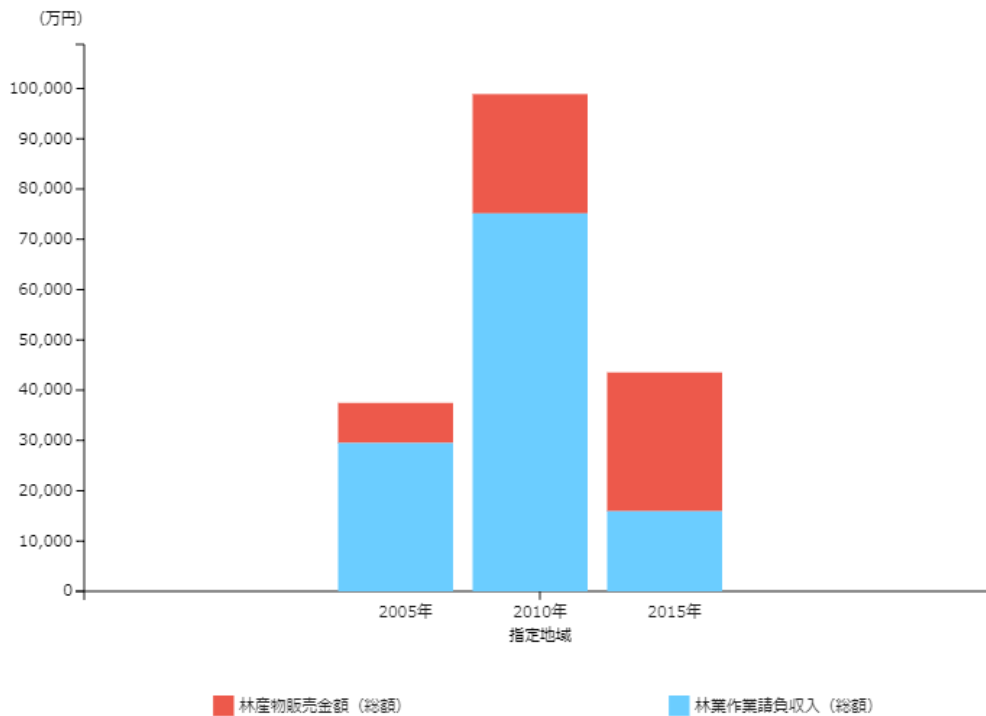


【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工

11 林業

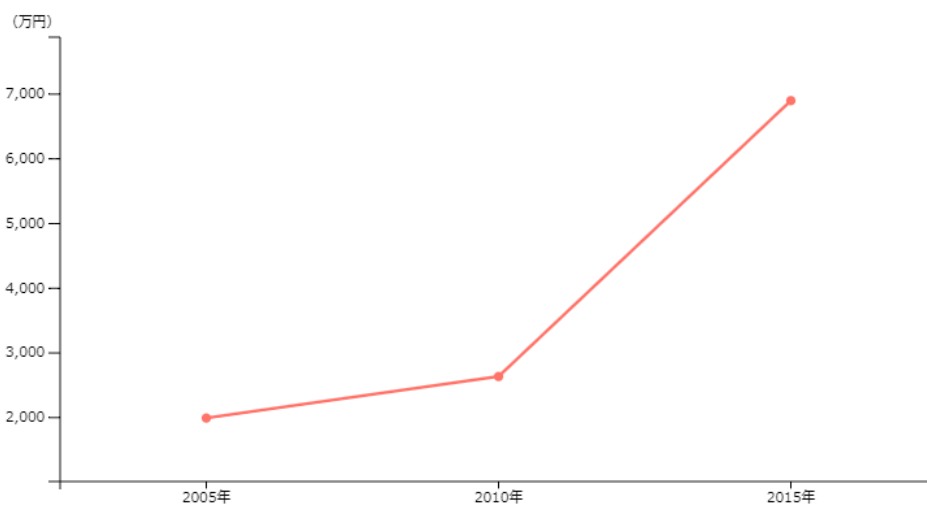
林産物販売金額は、2005年から2015年にかけて増加している。林業作業請負収入は、2010年に一旦増加するものの、2015年の時点では減少している。2015年の経営体あたりの林産物販売金額は、2005年に比較すると3倍以上に増加している。

【図表】 林業総収入（総額）（産業構造マップ>林業>林業総収入）



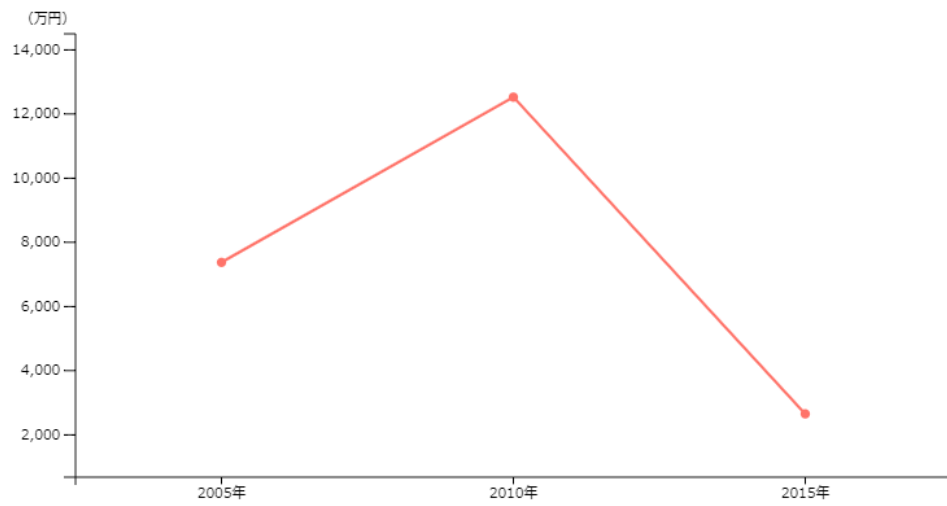
【出典】 農林水産省「農林業センサス」再編加工

【図表】 林産物販売金額（経営体あたり）（産業構造マップ>林業>林業総収入）



【出典】 農林水産省「農林業センサス」再編加工

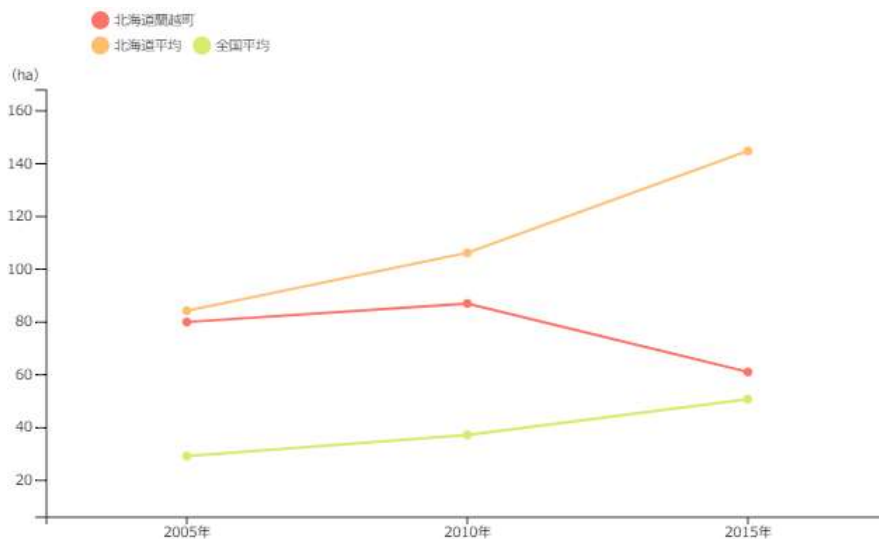
【図表】 林業作業請負収入（経営体あたり）（産業構造マップ>林業>林業総収入）



【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工

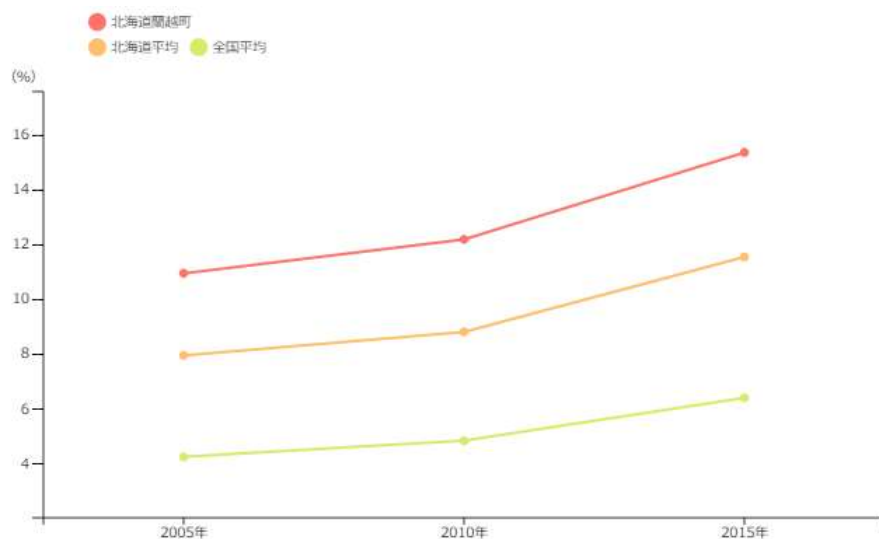
経営体あたりの保有山林面積は、北海道平均と全国平均では増加している。蘭越町では、保有面積は全国平均より広いものの減少する傾向にある。蘭越町の林業の法人化率は増加傾向にあり、北海道平均と全国平均よりも高い。

【図表】保有山林面積（経営体あたり）（産業構造マップ＞林業＞山林分析）



【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工

【図表】林業経営体の法人化率（産業構造マップ＞林業＞山林分析）

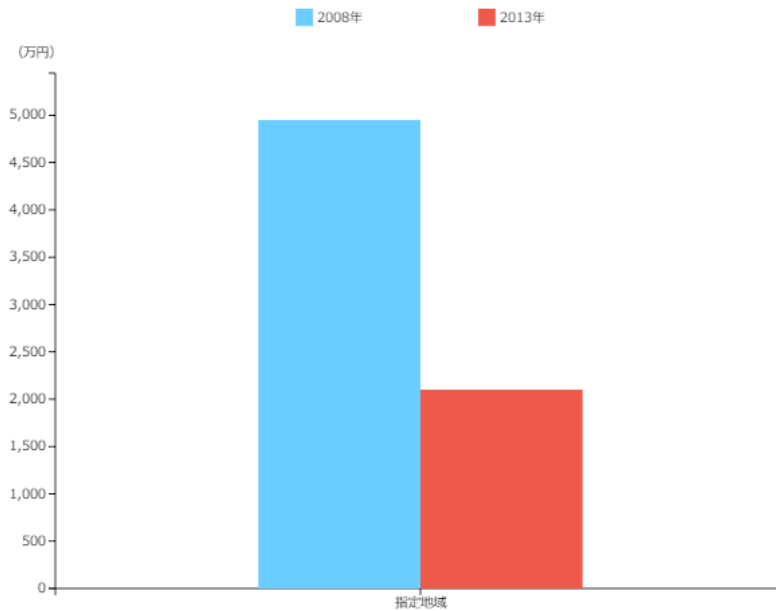


【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工

12 漁業

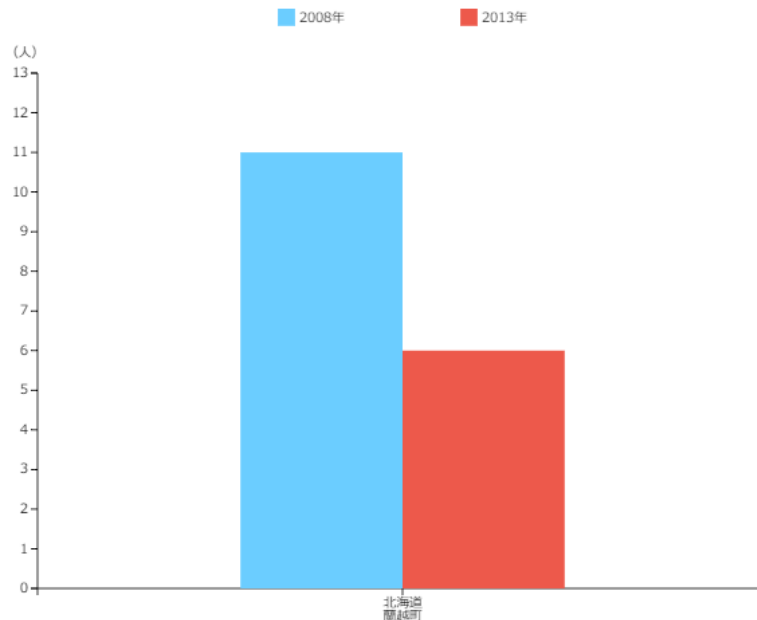
海面漁獲物等販売金額は、2008年に比べ2013年では半減している。また、漁業に携わる就業者数も4割程度減少している。

【図表】海面漁獲物等販売金額（総額）（産業構造マップ＞水産業＞海面漁獲物等販売金額）



【出典】農林水産省「漁業センサス」再編加工

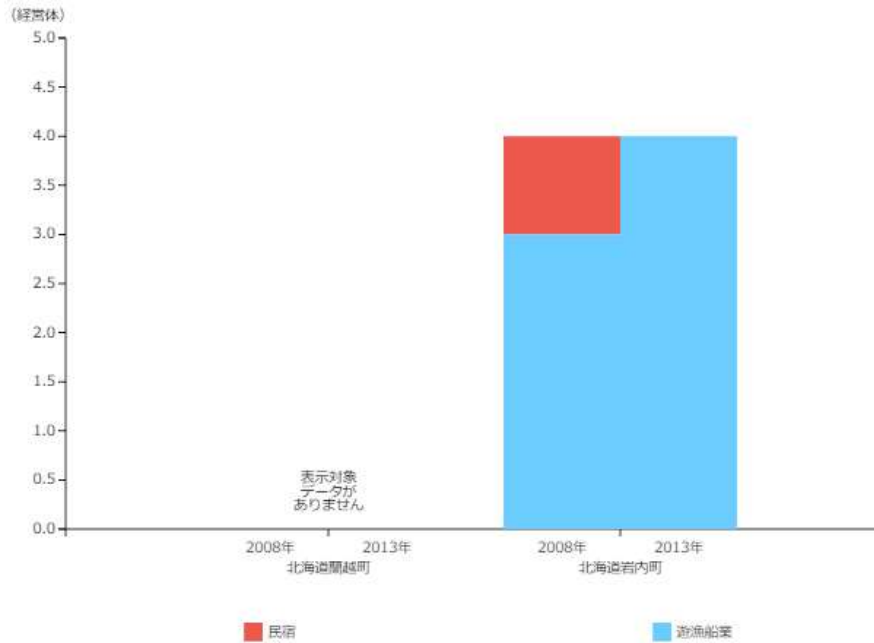
【図表】海面漁業の就業者数（産業構造マップ＞水産業＞海面漁業者分析）



【出典】農林水産省「漁業センサス」再編加工

蘭越町では、海面漁業に携わる事業者が民宿あるいは遊漁船業を実施しているケースはみられない。岩内町では民宿あるいは遊漁船業を営む漁業者がいくつか認められる。

【図表】 民宿・遊漁船業を営む経営体数（産業構造マップ＞水産業＞海面漁業者分析）



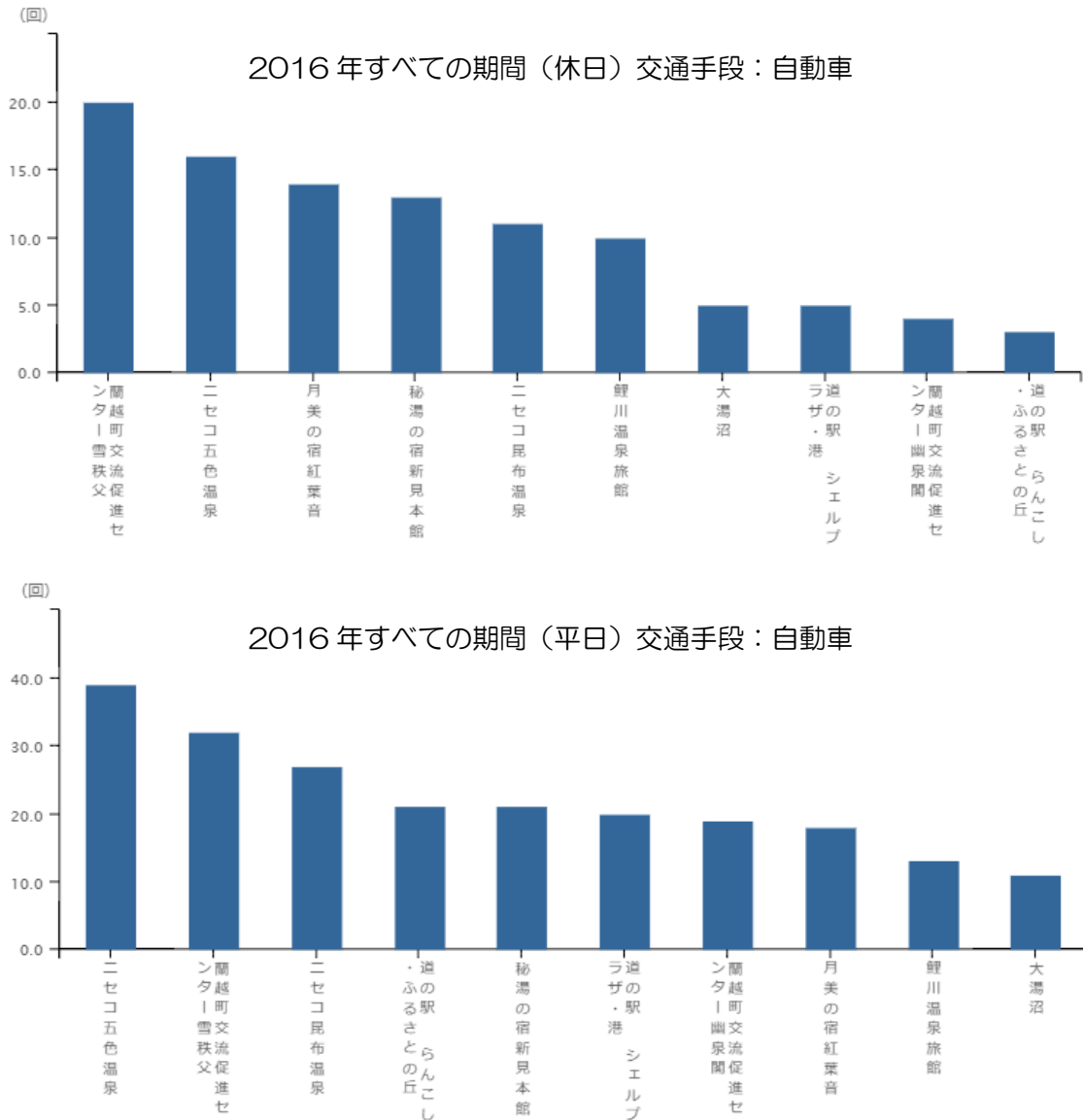
【出典】 農林水産省「漁業センサス」再編加工

第6章 交流人口・観光マップ

1 目的地の検索回数

検索回数は、休日より平日の方が全体的に多い。また、検索の多い施設は「温泉」を有するものが中心であるが、平日は「道の駅」が上位に位置する。

【図表】指定地域の目的地一覧（観光マップ>国内>目的地分析）

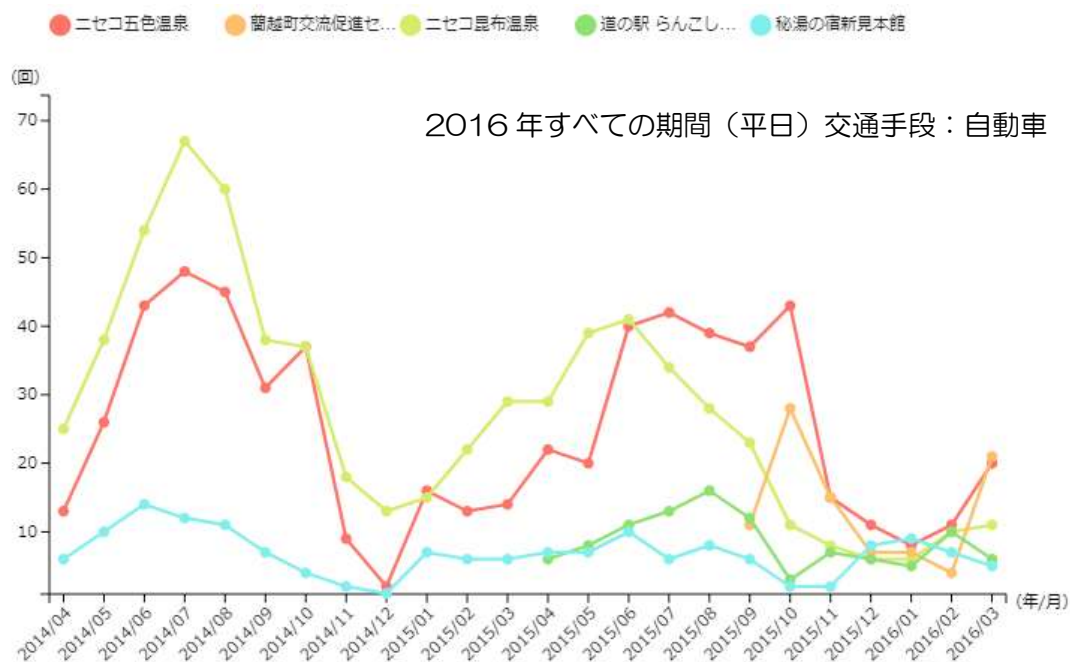
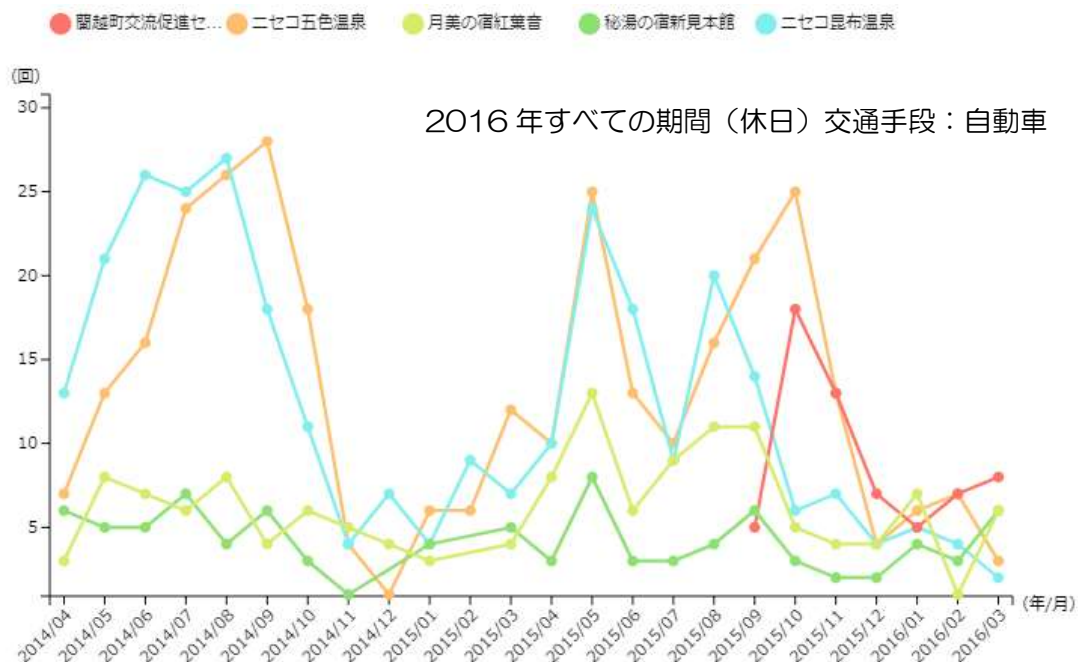


【出典】株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

【注記】検索回数は、同一ユーザの重複を除いた月間のユニークユーザ数。下記条件に全て該当した場合にのみ表示。

ニセコ五色温泉とニセコ昆布温泉の検索頻度は、6月から10月に多くなり、11月から2月は極めて少ない。秘湯の宿新見本館も同様な年間変動であるが、全期間において検索頻度が低い。

【図表】目的地検索ランキングの推移（観光マップ>国内>目的地分析）



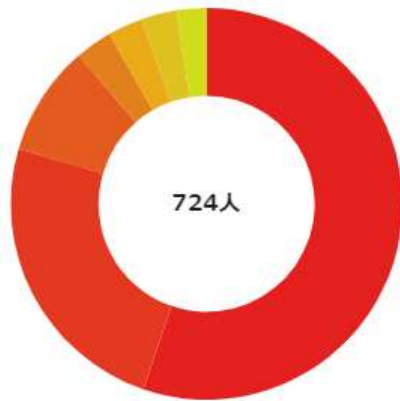
【出典】株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

【注記】検索回数は、同一ユーザの重複を除いた月間のユニークユーザ数。下記条件に全て該当した場合にのみ表示。

2 宿泊者の居住する都道府県

北海道に住んでいる宿泊客が、半数以上を占める。次いで、神奈川県、千葉県に居住する宿泊客が多い。また、北海道に居住する宿泊客数は、年ごとに大きく変動している。

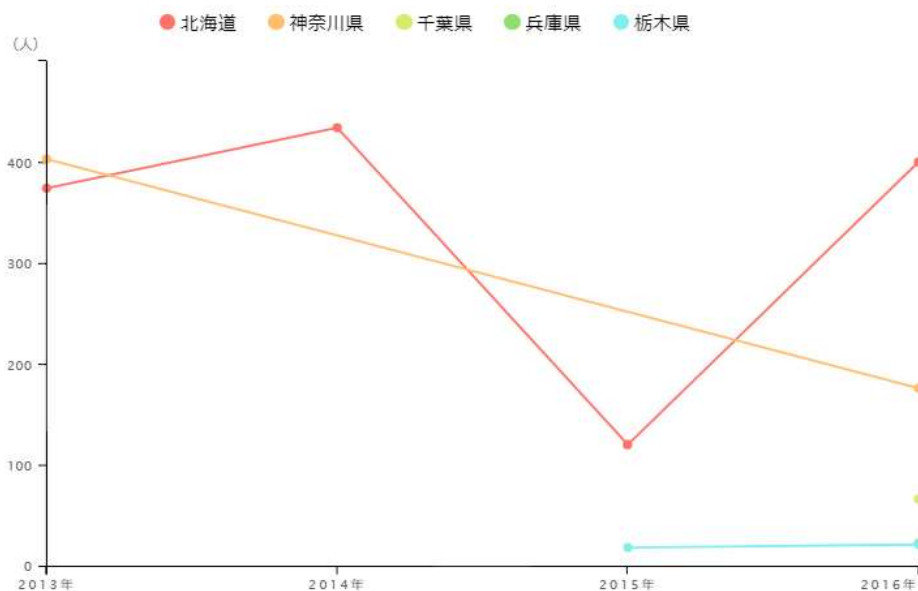
【図表】居住都道府県別の延べ宿泊者数（観光マップ>国内>From-to分析（宿泊者））



- 1位 北海道 400人 (55.24%)
- 2位 神奈川県 176人 (24.30%)
- 3位 千葉県 66人 (9.11%)
- 4位 兵庫県 22人 (3.03%)
- 5位 群馬県 21人 (2.90%)
- 6位 栃木県 21人 (2.90%)
- 7位 大阪府 18人 (2.48%)

【出典】観光予報プラットフォーム推進協議会

【図表】居住都道府県別の延べ宿泊者数の推移（観光マップ>国内>From-to分析（宿泊者））

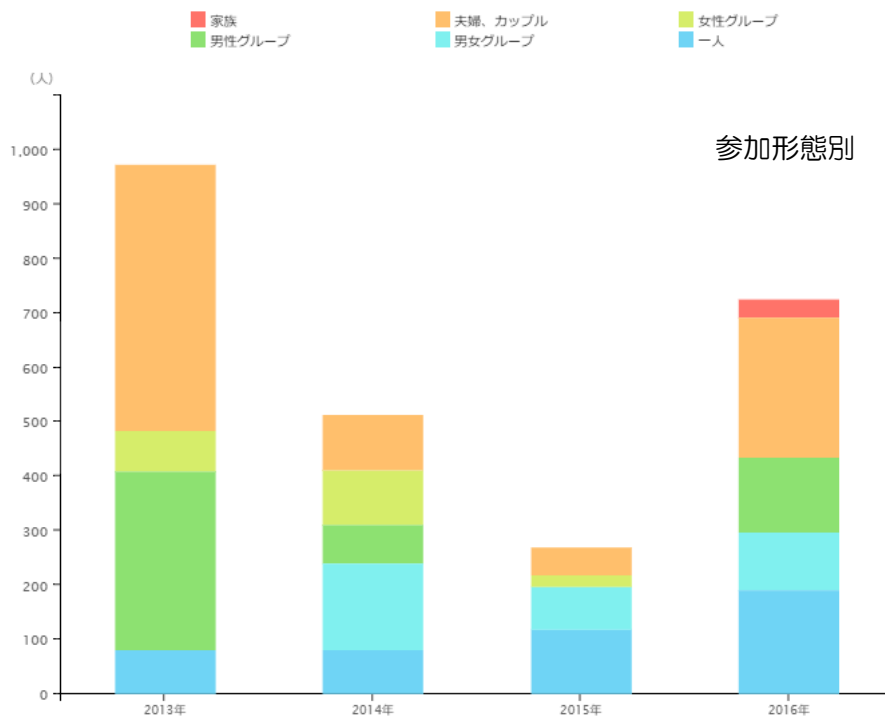
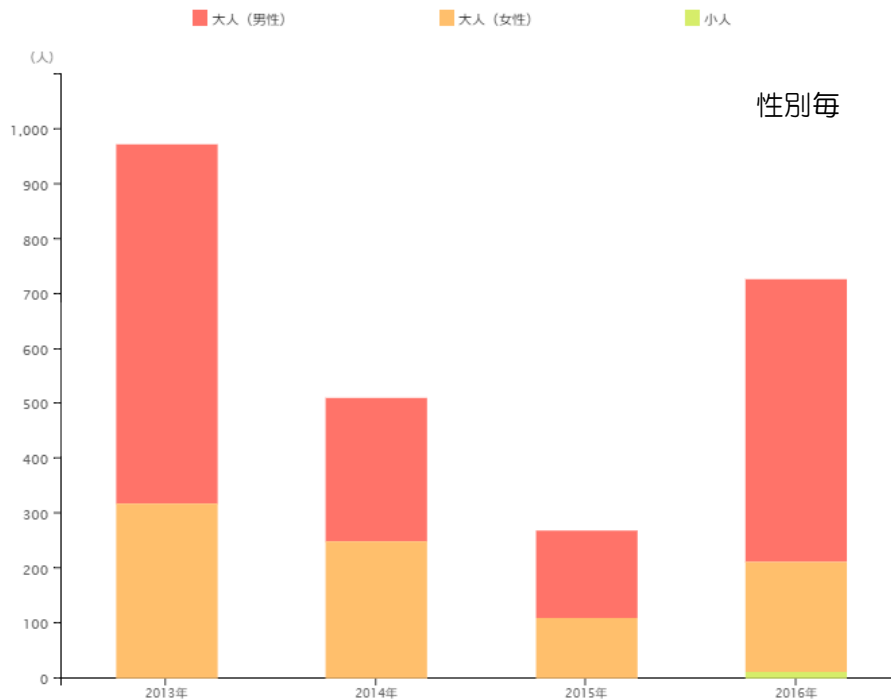


【出典】観光予報プラットフォーム推進協議会

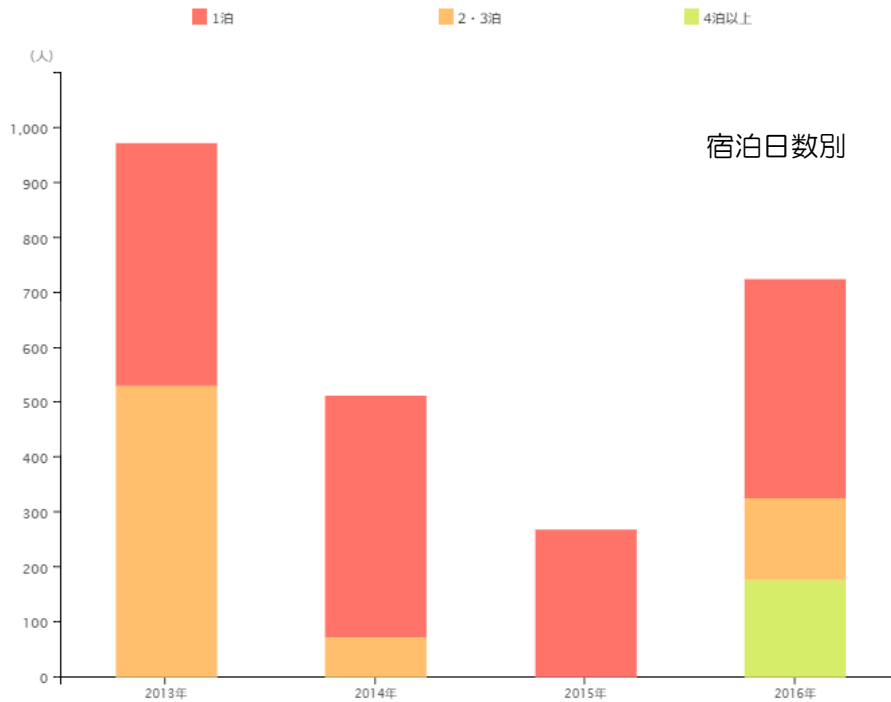
3 宿泊者数の推移

宿泊客の内訳は、男性の割合が高い。また、2015年まで男性の宿泊客の減少割合が大きかった。参加形態別では、2015年にかけて夫婦・カップルの宿泊客が大きく減少している。一方で、一人での宿泊客が年々増加している。また、2・3泊する宿泊客が、大きく減少している。

【図表】 延べ宿泊者数の推移（観光マップ>国内>From-to分析（宿泊者））



【図表】 延べ宿泊者数の推移（観光マップ>国内>From-to分析（宿泊者））



【出典】観光予報プラットフォーム推進協議会

【注記】

観光予報プラットフォームでは、日本全体の宿泊実績データのうち、7,000万泊以上（2016年10月現在）のサンプリングデータ（店頭、国内ネット販売、海外向けサイトの販売）を抽出し、宿泊者数の実績データを算出している。各データ・情報の提供元は非公開としている。

延べ宿泊者数（総数）：延べ宿泊者数（日本人）と延べ宿泊者数（外国人）を合計した数

性別：「大人（男性）」、「大人（女性）」、「小人（13歳未満）」に分類した項目

参加形態別：宿泊実績の同伴者情報をもとに、「家族(子ども連れ)」、「夫婦、カップル(男女二人含む)」、「女性グループ」、「男性グループ」、「男女グループ(13歳以上子ども含む家族)」、「一人」に分類した項目

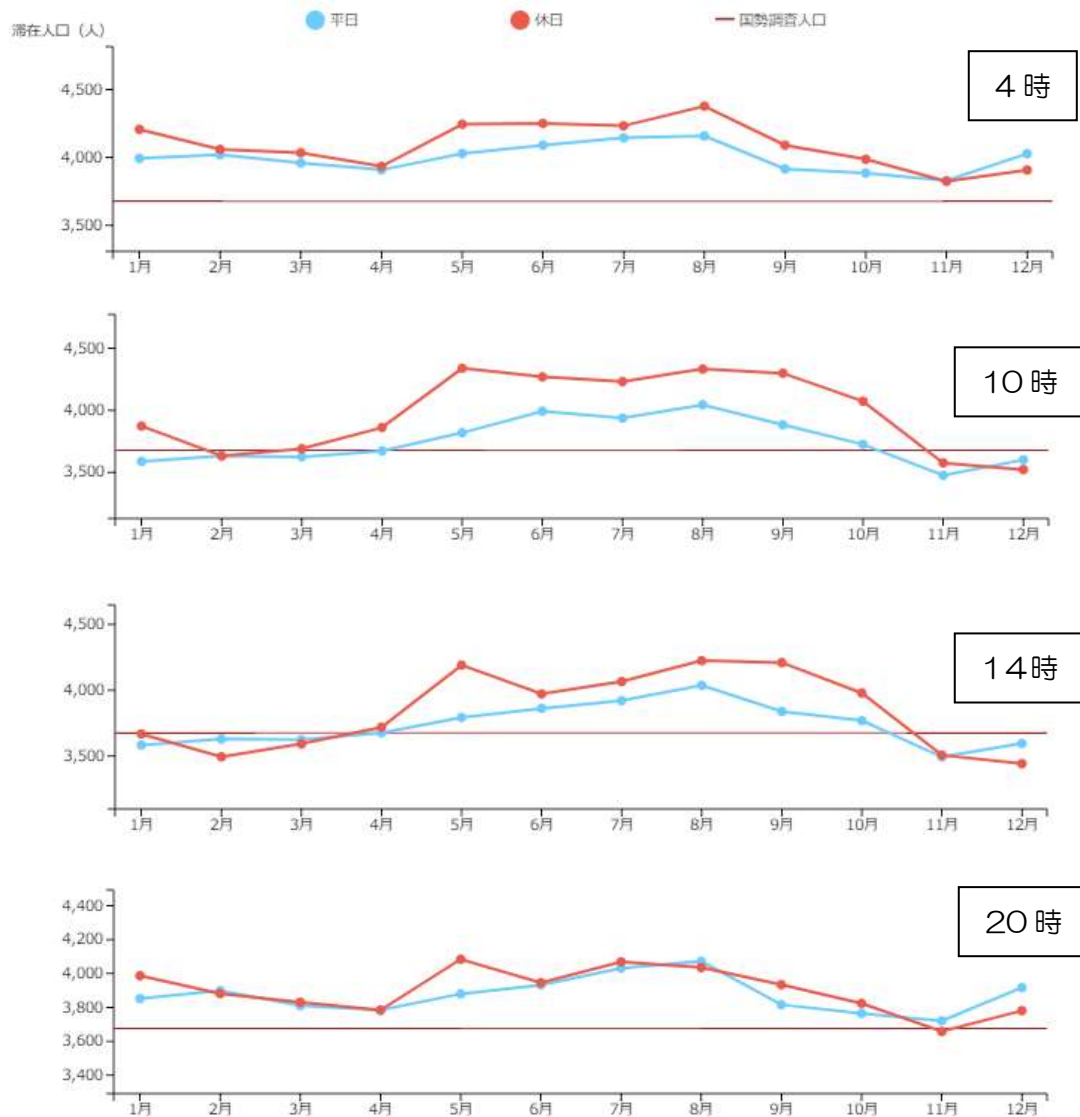
宿泊日数別：宿泊開始日と宿泊終了日をもとに、「1泊」、「2・3泊」、「4泊以上」に分類した項目

※データにより分類が判定できなかった項目は「不明」という分類にしている。

4 滞在人口

5月から9月までは、滞在人口が増加する。平日、休日ともに、夜間（4時、20時）に比べて、昼間（10時、14時）の滞在人口は減少している。

【図表】滞在人口の月別推移（まちづくりマップ>滞在人口率）



【出典】株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」
総務省「平成27年国勢調査」

8月の休日は、道外からの滞在者の半数以上が東京都から訪れている。平日についても、道外からの滞在者は、東京都がもっとも多い。

【図表】滞在人口の地域別構成割合（まちづくりマップ>From-to分析（滞在人口））

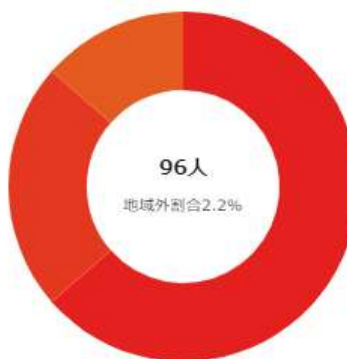
滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 北海道 4,155人 (100.0%)

滞在人口 / 都道府県外

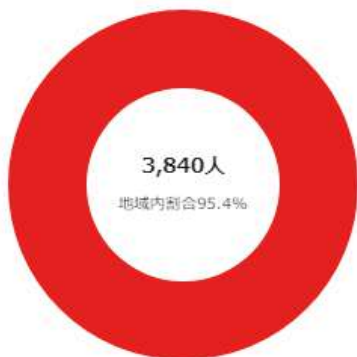


滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 東京都 61人 (63.5%)
- 2位 神奈川県 22人 (22.9%)
- 3位 千葉県 13人 (13.5%)

2016年
8月休日
14時

滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 北海道 3,840人 (100.0%)

滞在人口 / 都道府県外



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 東京都 89人 (48.1%)
- 2位 神奈川県 61人 (32.9%)
- 3位 新潟県 24人 (12.9%)
- 4位 大阪府 11人 (5.9%)

2016年
8月平日
14時

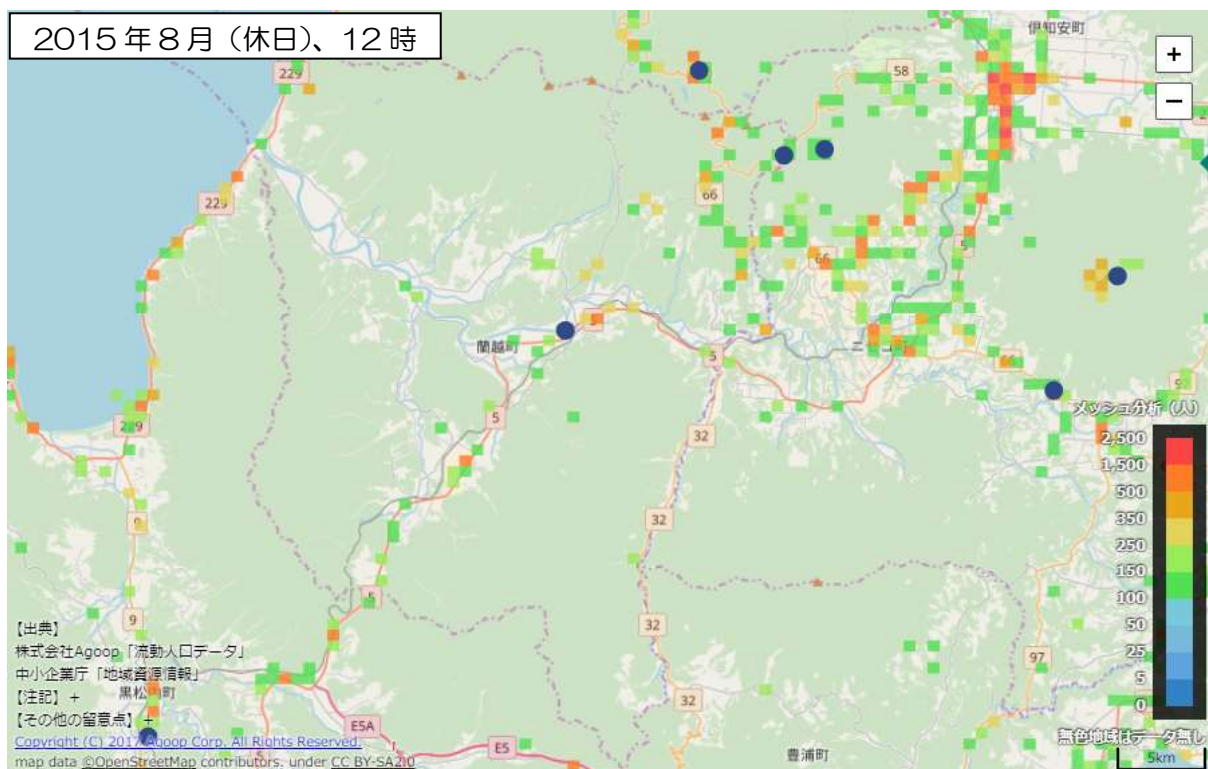
【出典】株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」

総務省「平成27年国勢調査」

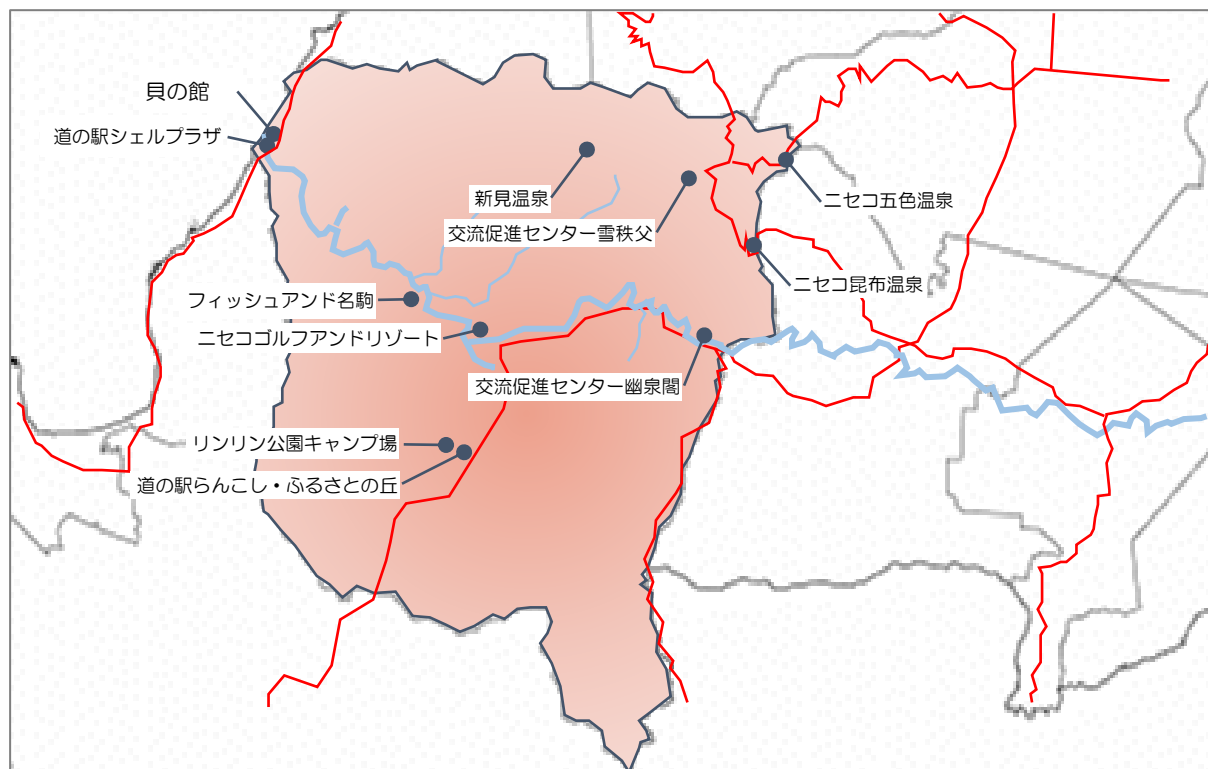
【注記】滞在人口とは、指定地域の指定時間（4時、10時、14時、20時）に滞在していた人数の月間平均値（平日・休日別）を表している。

滞在人口率は、滞在人口（株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」）÷国勢調査人口（総務省「国勢調査」夜間人口）で表される。

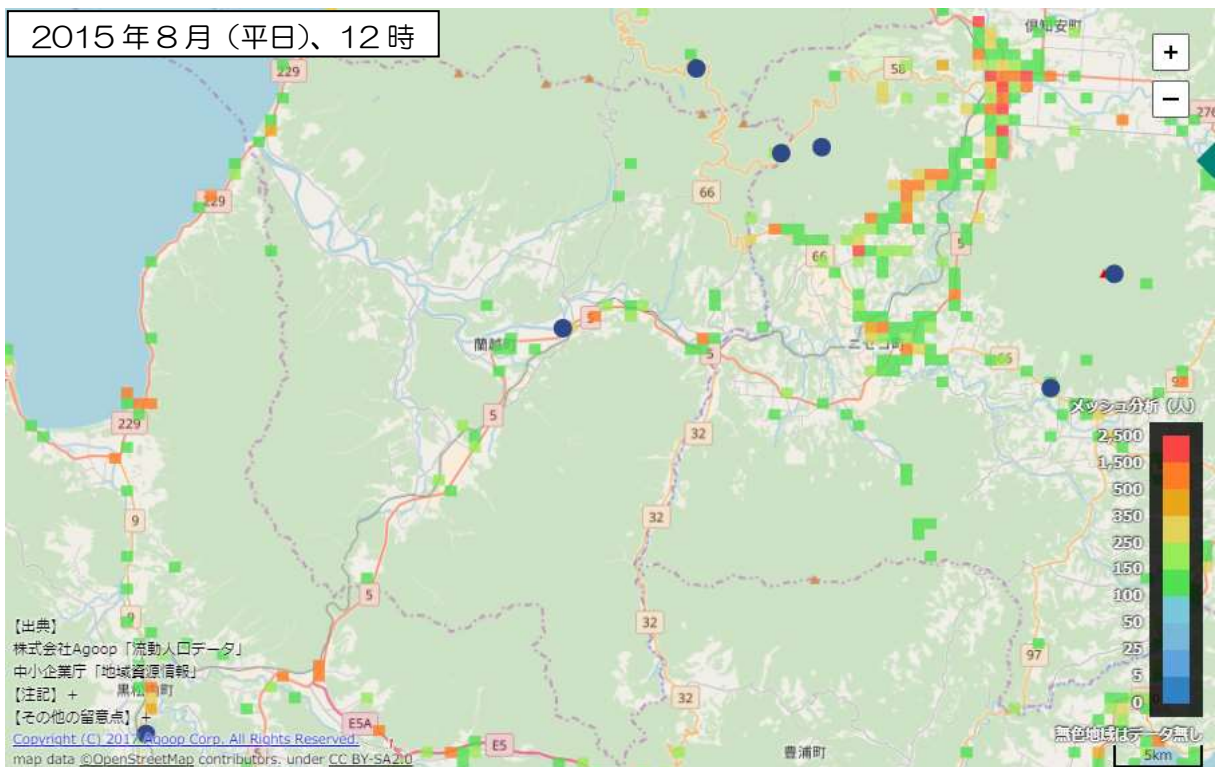
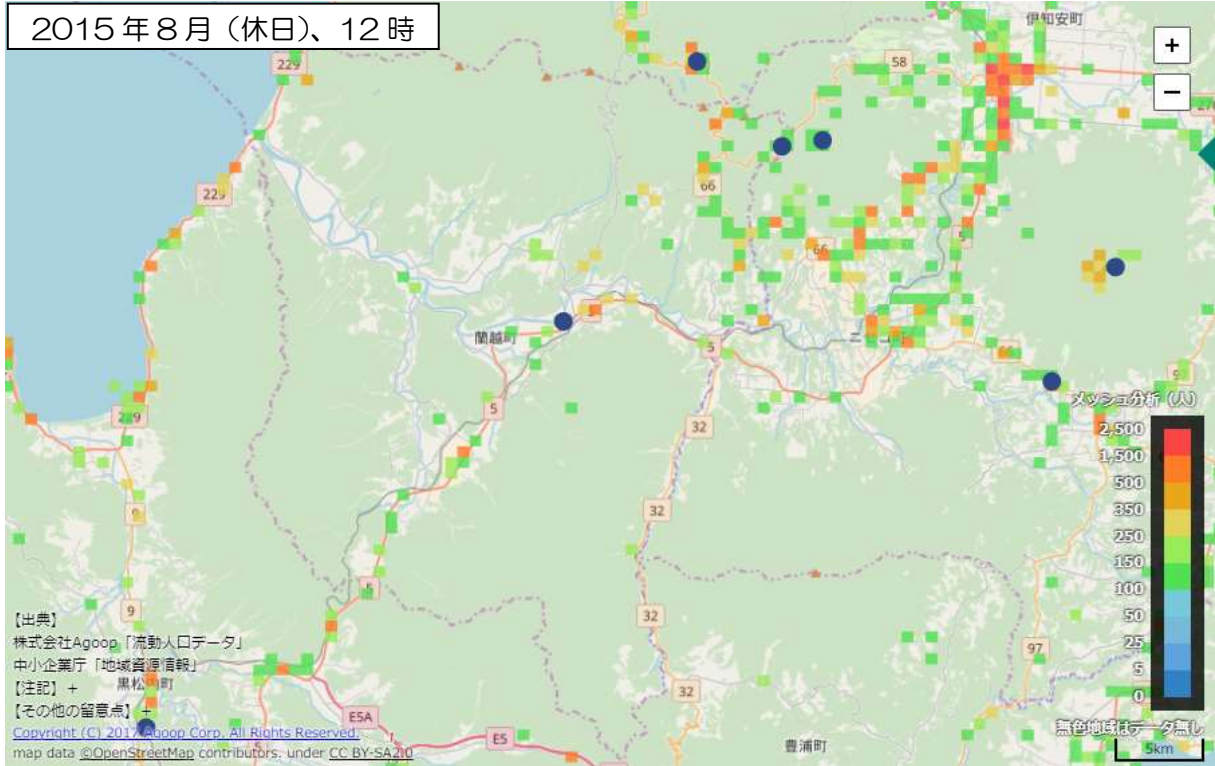
8月の休日 12 時の流動人口では、道の駅シェルプラザ、道の駅らんこし、交流促進センター雪秩父、五色温泉、昆布温泉、蘭越町市街地などの人口がカウントされていることが分かる。



【出典】株式会社 Agoop 「流動人口データ」 中小企業庁 「地域資源情報」

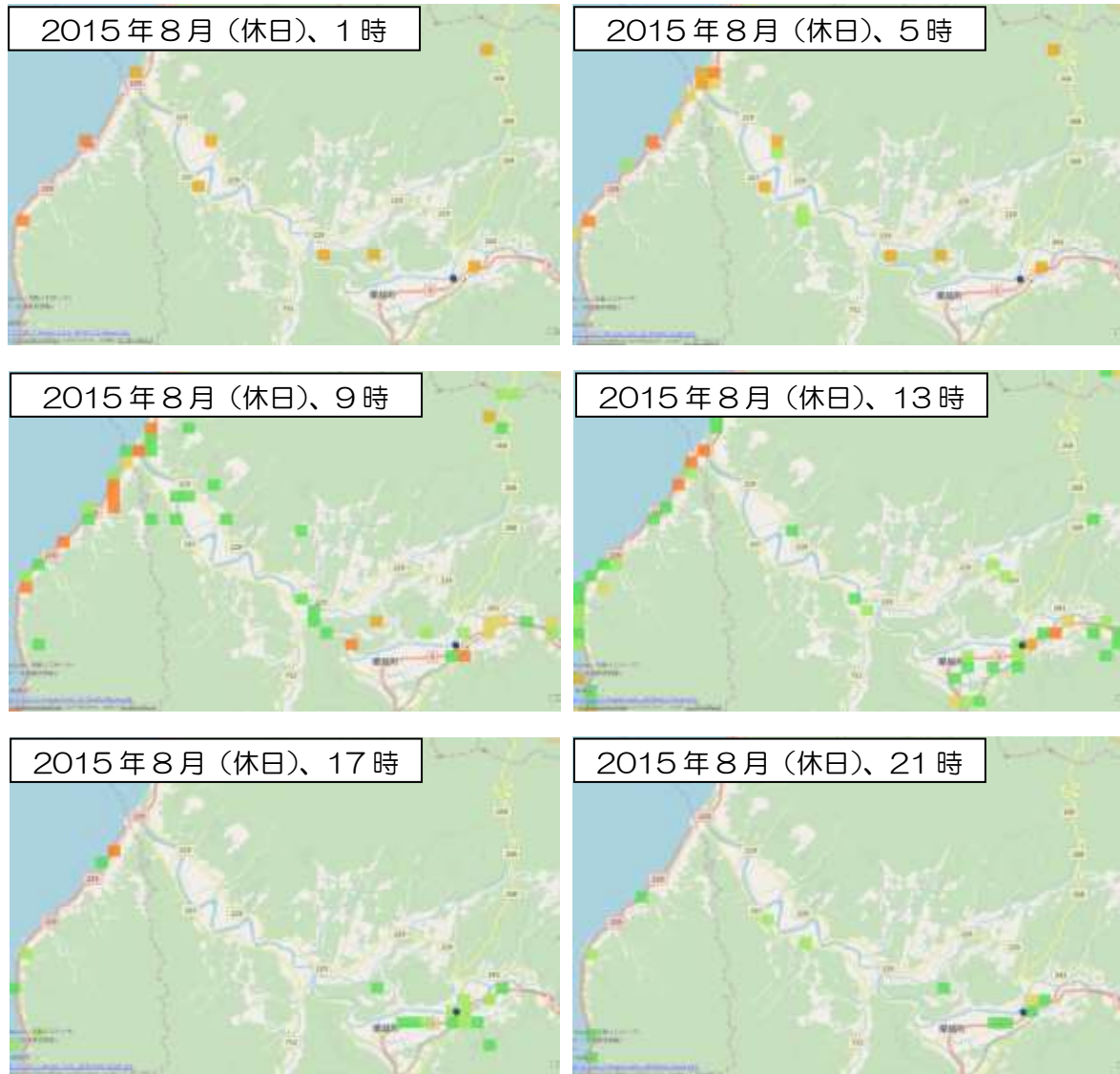


8月の12時、休日と平日の流動人口を比較すると、交流促進センター雪秩父の人口が平日ではほとんどカウントされていないことが分かる。一方で、ニセコヒラフ地区などの流動人口は、平日でも顕著に減少していない。



【出典】株式会社 Agoop「流動人口データ」 中小企業庁「地域資源情報」

8月の休日について、4時間おきの経時変化を観察すると、沿岸部、尻別川流域、市街地でそれぞれ流動人口がピークとなる時間帯が異なる。尻別川流域では、未明から早朝にかけて人口がカウントされる地域がある。17時以降は、市街地周辺に人口が集中している。

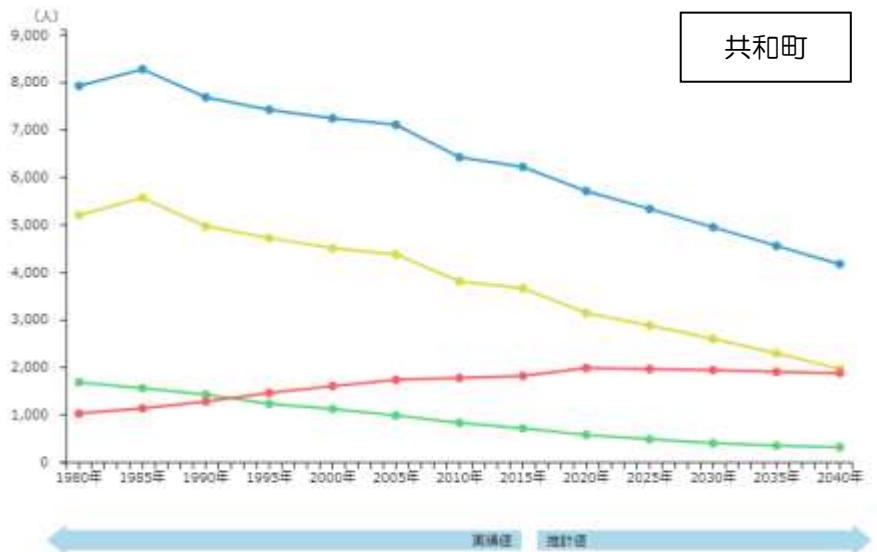
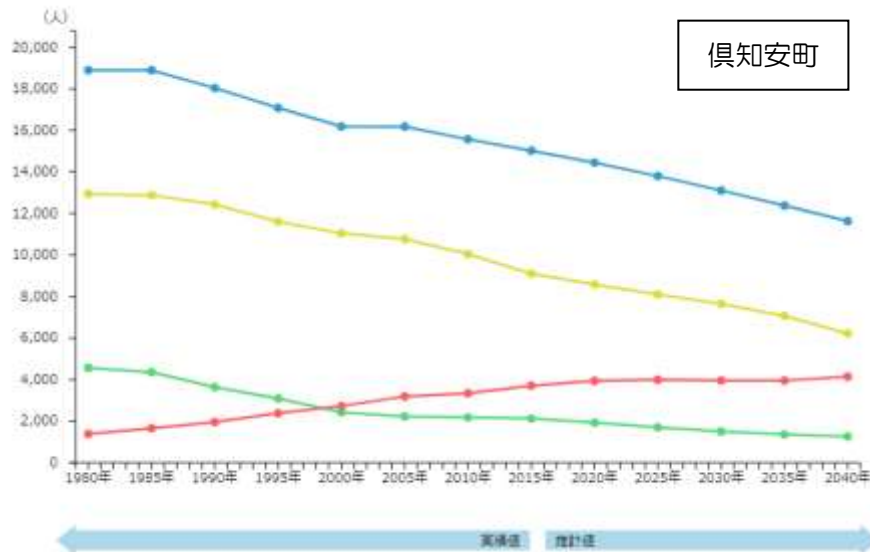
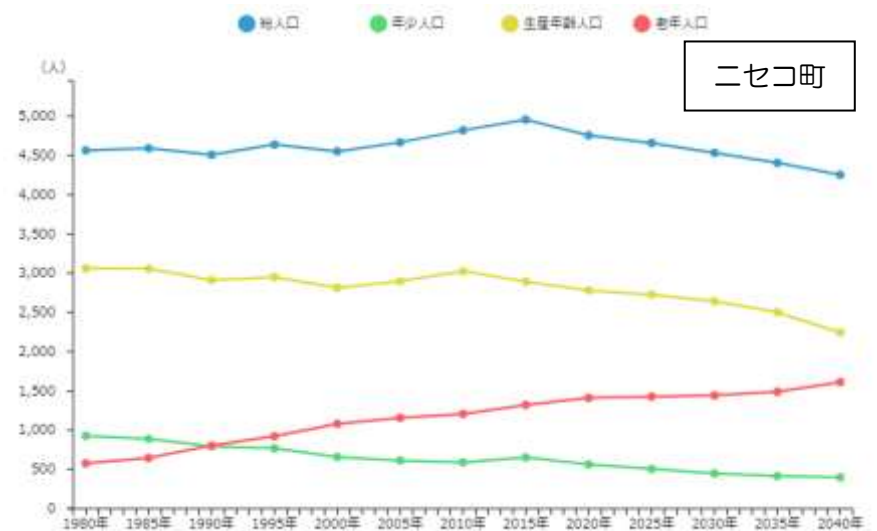
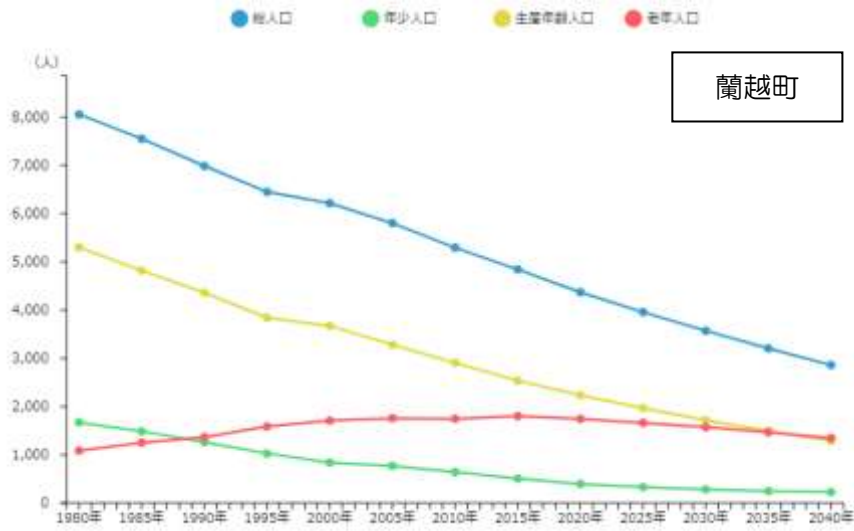


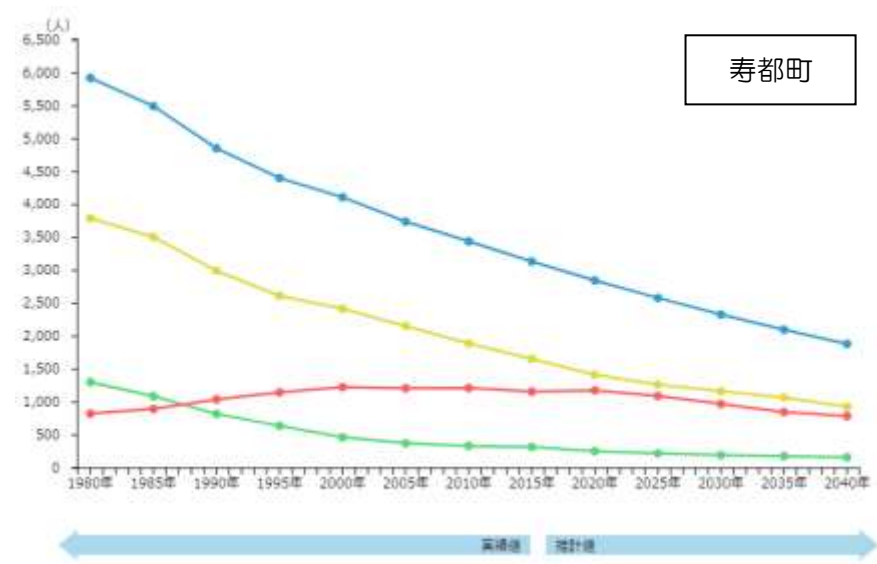
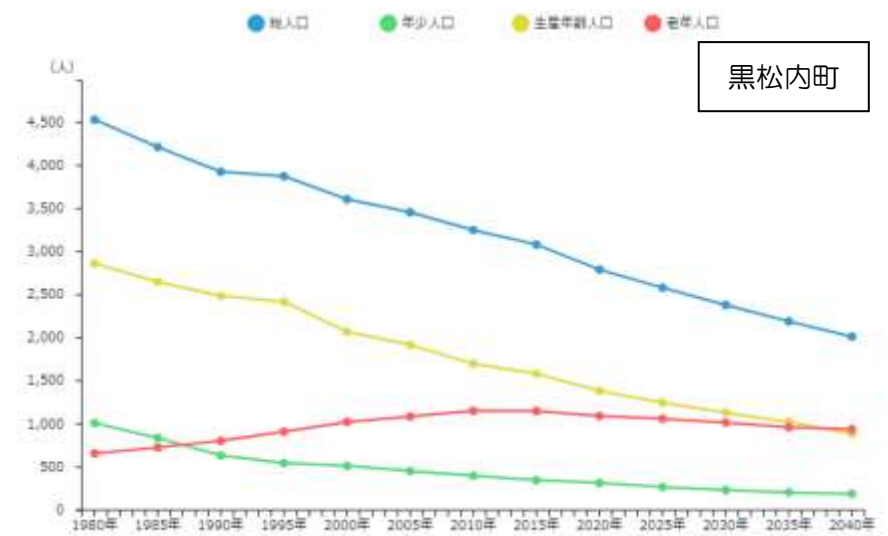
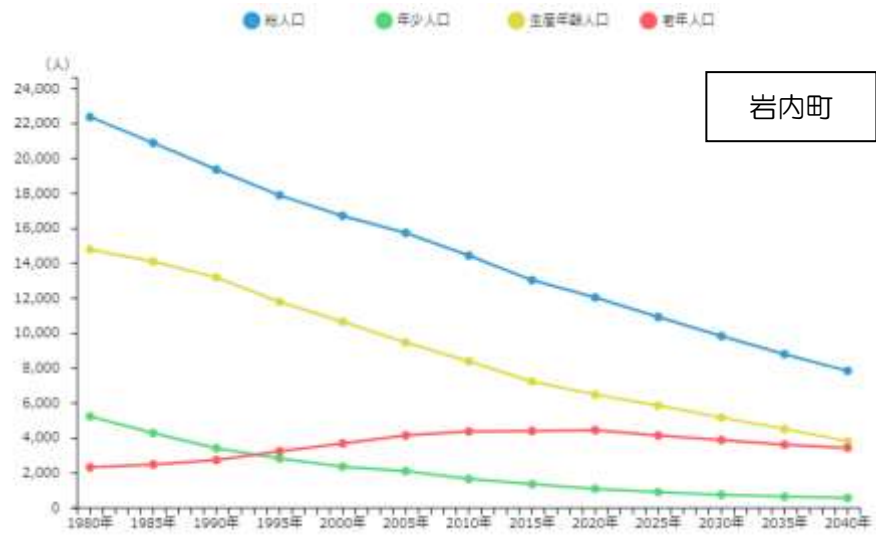
【出典】株式会社 Agoop「流動人口データ」 中小企業庁「地域資源情報」

第3部

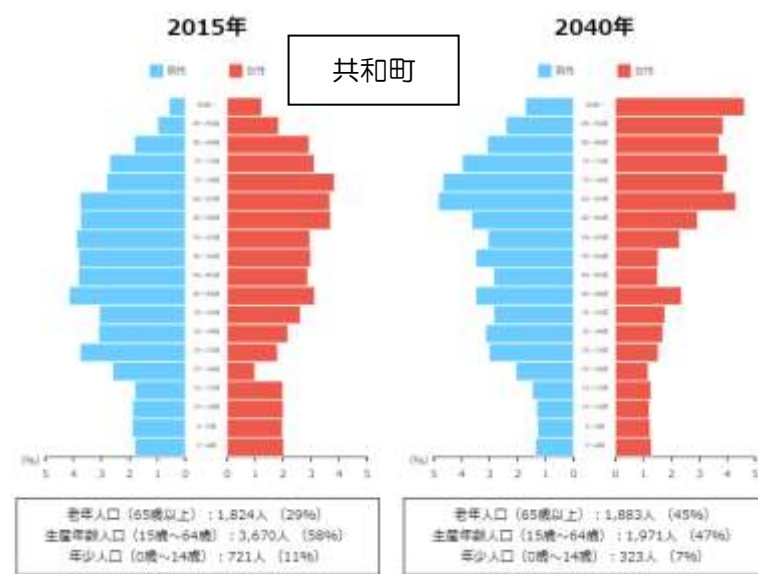
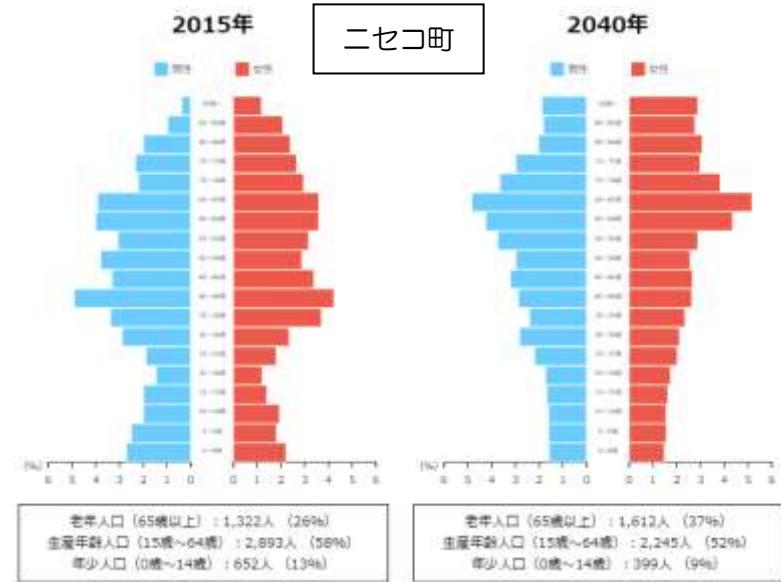
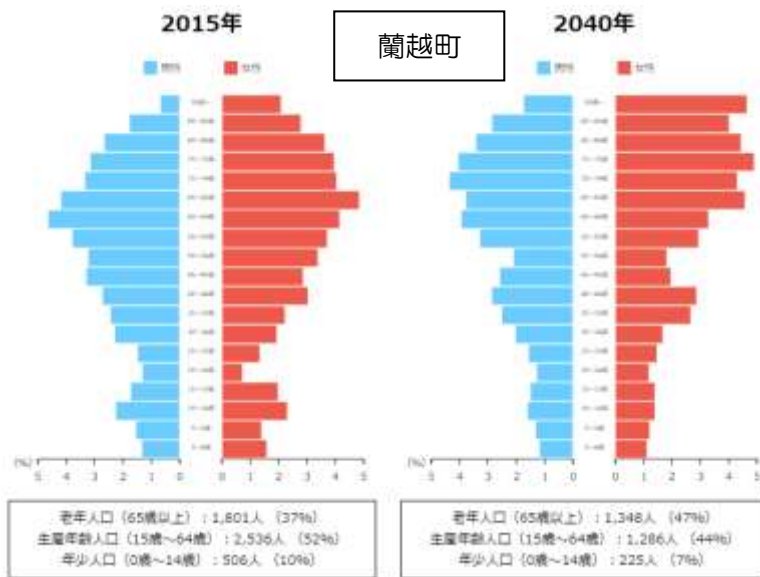
関連資料編

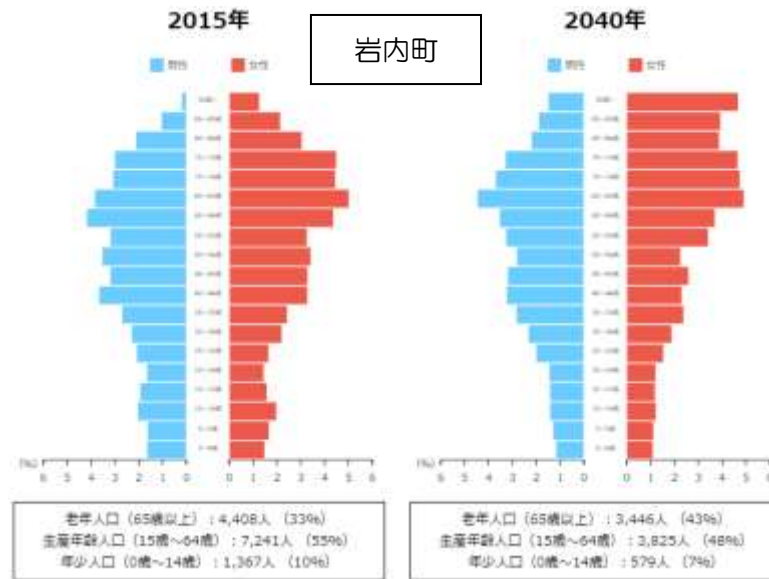
(4) 【図表】人口推移（人口マップ>人口構成）



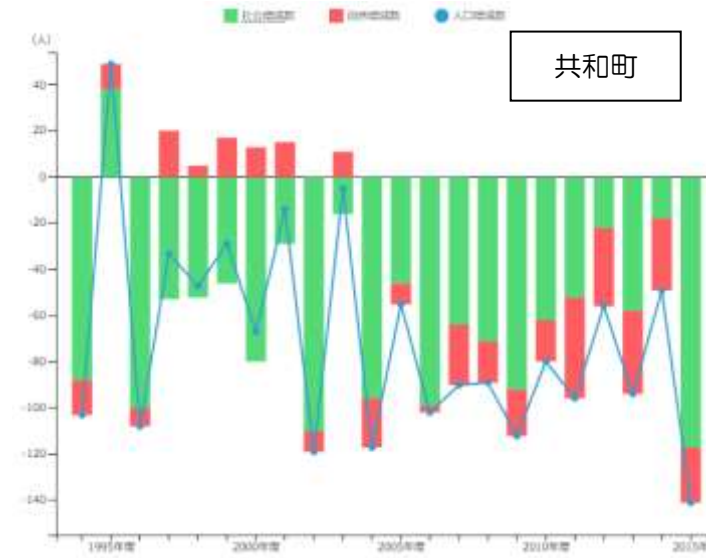


(5) 【図表】人口ピラミッド (人口マップ>人口構成>人口ピラミッド)



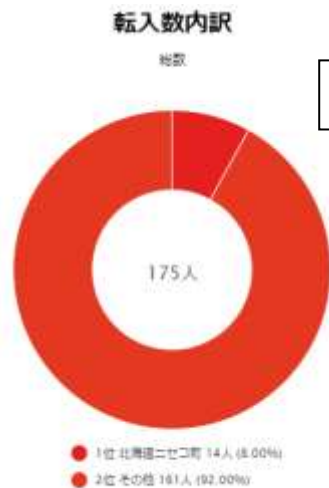


(6) 【図表】自然増減・社会増減の推移 (人口マップ>人口増減)



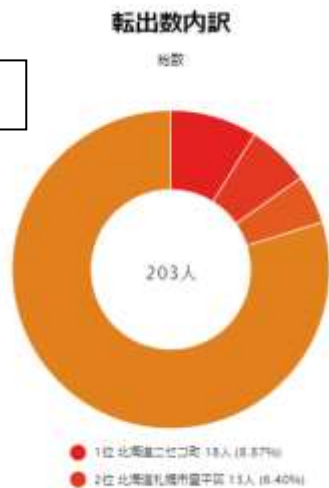


(7) 【図表】2016年 From-to 分析 (人口マップ>人口の社会増減>転入数・転出数)

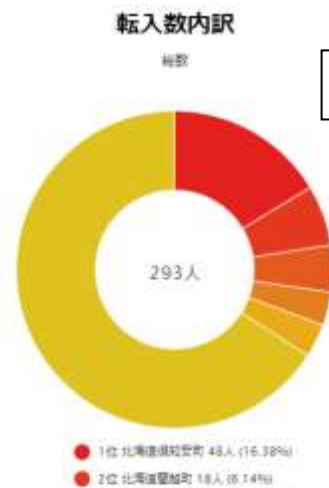


蘭越町

- 1位 北海道二セコ町 14人 (8.00%)
- 2位 その他 161人 (92.00%)

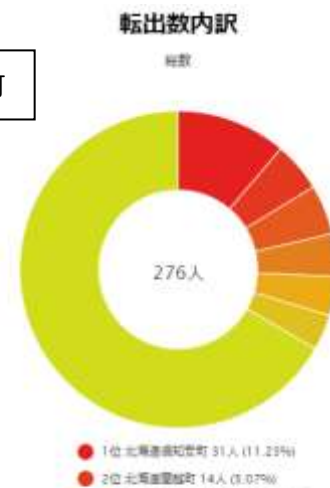


- 1位 北海道二セコ町 18人 (8.87%)
- 2位 北海道札幌市豊平区 13人 (6.40%)
- 3位 北海道札幌市中央区 10人 (4.93%)
- 4位 その他 162人 (79.80%)



二セコ町

- 1位 北海道根室市 48人 (16.38%)
- 2位 北海道室蘭市 18人 (6.14%)
- 3位 北海道札幌市北区 14人 (4.78%)
- 4位 北海道釧路市 10人 (3.41%)
- 4位 北海道札幌市中央区 10人 (3.41%)
- 6位 その他 193人 (65.87%)



- 1位 北海道根室市 31人 (11.23%)
- 2位 北海道室蘭市 14人 (5.07%)
- 2位 北海道札幌市厚別区 14人 (5.07%)
- 4位 北海道小樽市 12人 (4.35%)
- 5位 北海道札幌市豊平区 11人 (3.99%)
- 6位 北海道札幌市南区 10人 (3.62%)
- 7位 その他 184人 (66.67%)



倶知安町

- 1位 北海道札幌市豊平区 52人 (5.05%)
- 2位 北海道札幌市南区 51人 (4.95%)
- 3位 北海道札幌市中央区 43人 (4.17%)
- 4位 北海道旭川市 38人 (3.69%)
- 5位 北海道札幌市北区 37人 (3.59%)
- 6位 北海道二セコ町 31人 (3.01%)
- 7位 北海道札幌市西区 30人 (2.91%)
- 8位 北海道札幌市東区 26人 (2.52%)



- 1位 北海道札幌市豊平区 57人 (5.11%)
- 2位 北海道札幌市中央区 56人 (5.02%)
- 3位 北海道札幌市北区 50人 (4.48%)
- 4位 北海道小樽市 49人 (4.39%)
- 5位 北海道二セコ町 48人 (4.30%)
- 6位 北海道札幌市西区 47人 (4.21%)
- 7位 北海道札幌市南区 46人 (4.12%)
- 8位 北海道札幌市東区 44人 (3.94%)



共和町

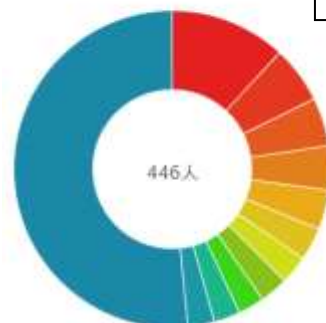
- 1位 北海道札幌市東区 14人 (6.28%)
- 2位 北海道札幌市南区 12人 (5.38%)
- 3位 北海道札幌市豊平区 10人 (4.48%)
- 4位 その他 187人 (83.86%)



- 1位 北海道共和町 55人 (19.37%)
- 2位 北海道札幌市中央区 14人 (4.93%)
- 3位 北海道札幌市厚別区 12人 (4.23%)
- 3位 北海道札幌市南区 12人 (4.23%)
- 5位 北海道旭川市 11人 (3.87%)
- 5位 北海道小樽市 11人 (3.87%)
- 7位 北海道札幌市東区 10人 (3.52%)
- 8位 その他 161人 (56.69%)

転入数内訳

総数

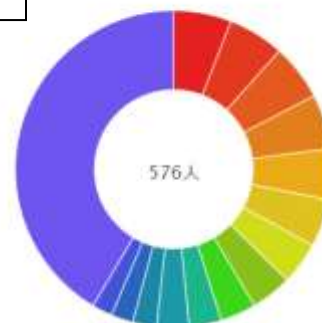


- 1位 北海道和町 53人 (11.88%)
- 2位 北海道札幌市東区 26人 (5.83%)
- 3位 北海道小樽市 22人 (4.93%)
- 4位 北海道札幌市南区 20人 (4.48%)
- 5位 北海道札幌市中央区 18人 (4.04%)
- 6位 北海道釧路市 15人 (3.36%)
- 7位 北海道苫小牧市 13人 (2.91%)

岩内町

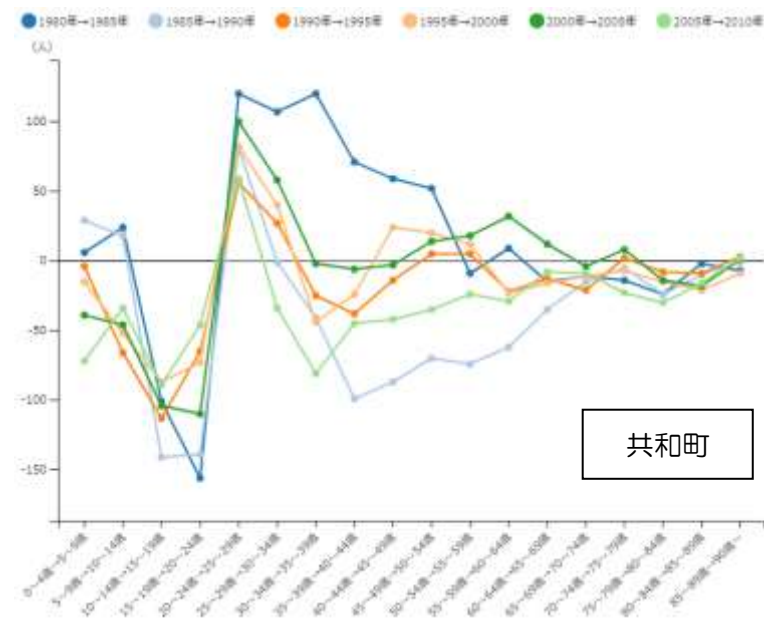
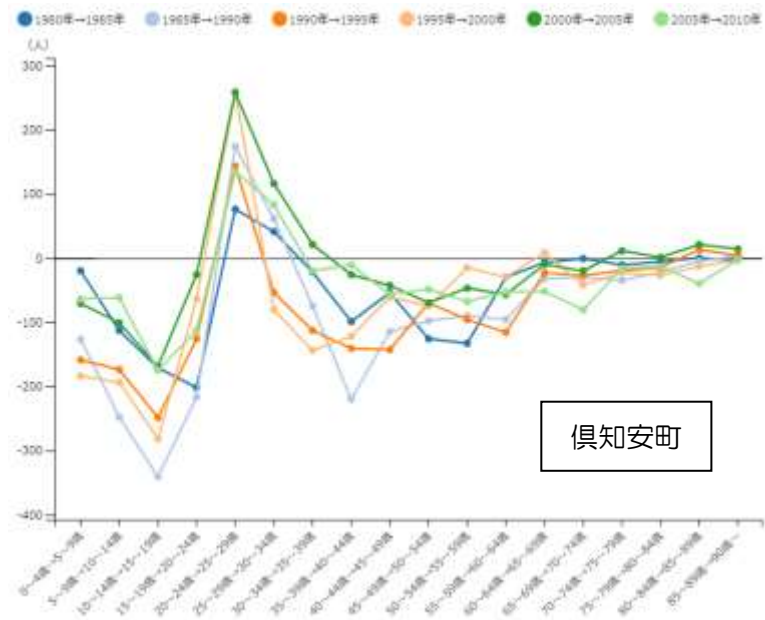
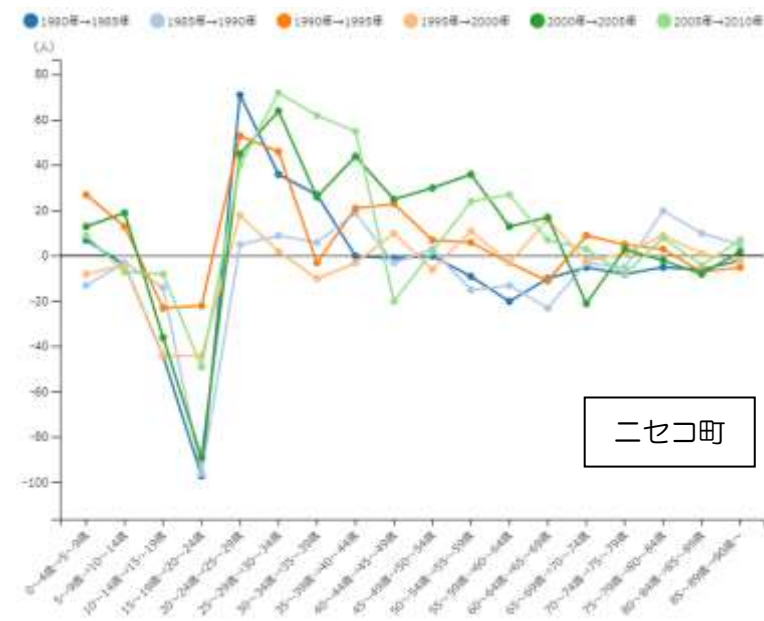
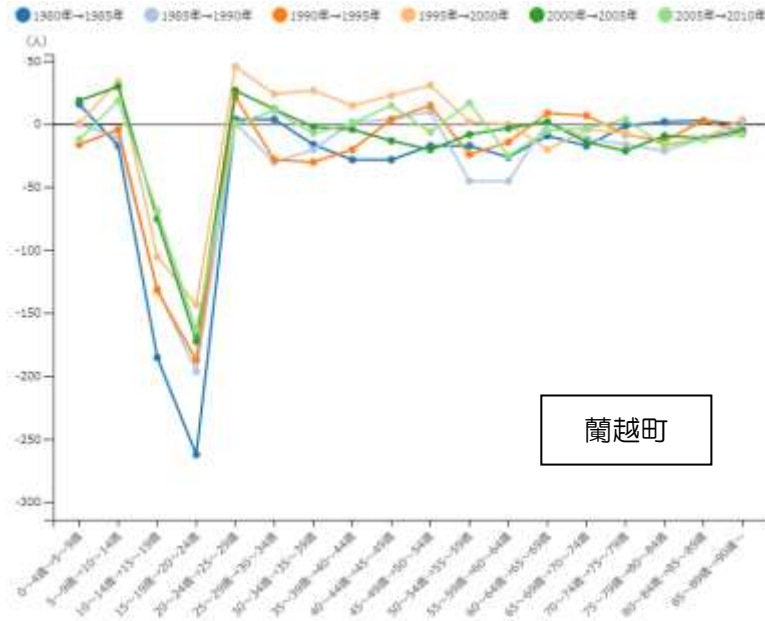
転出数内訳

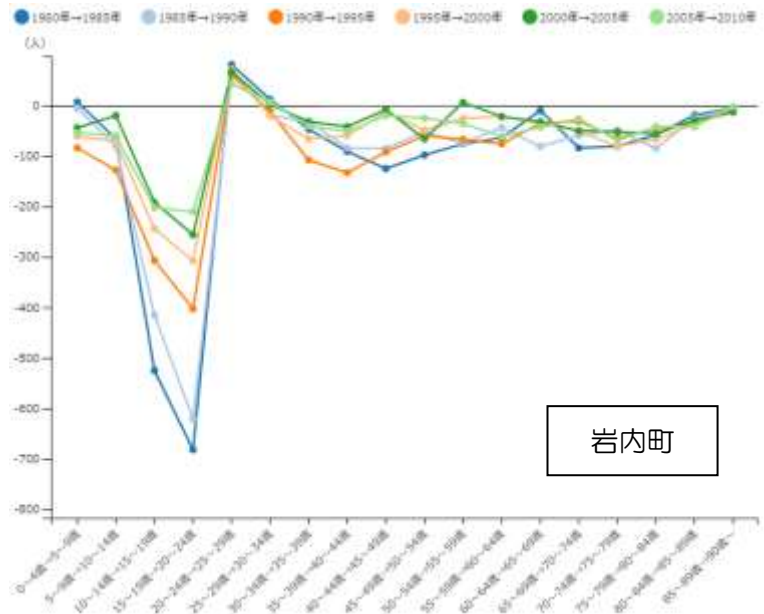
総数



- 1位 北海道札幌市西区 34人 (5.90%)
- 2位 北海道小樽市 33人 (5.73%)
- 3位 北海道札幌市中央区 33人 (5.73%)
- 4位 北海道札幌市手稲区 32人 (5.56%)
- 5位 北海道札幌市東区 30人 (5.21%)
- 6位 北海道札幌市南区 28人 (4.88%)
- 7位 北海道釧路市 25人 (4.34%)

(8) 【図表】年齢階級別移動数の推移（人口マップ>人口の社会増減>人口移動（グラフ分析））





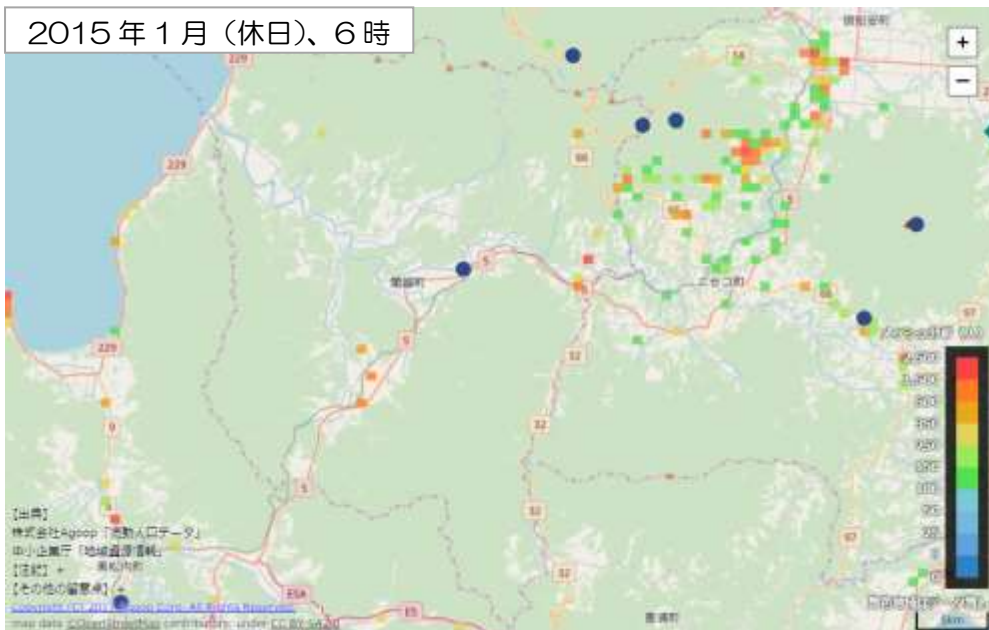
(9) 【図表】2014年 企業数（産業構造マップ）> 全産業 > 全産業の構造



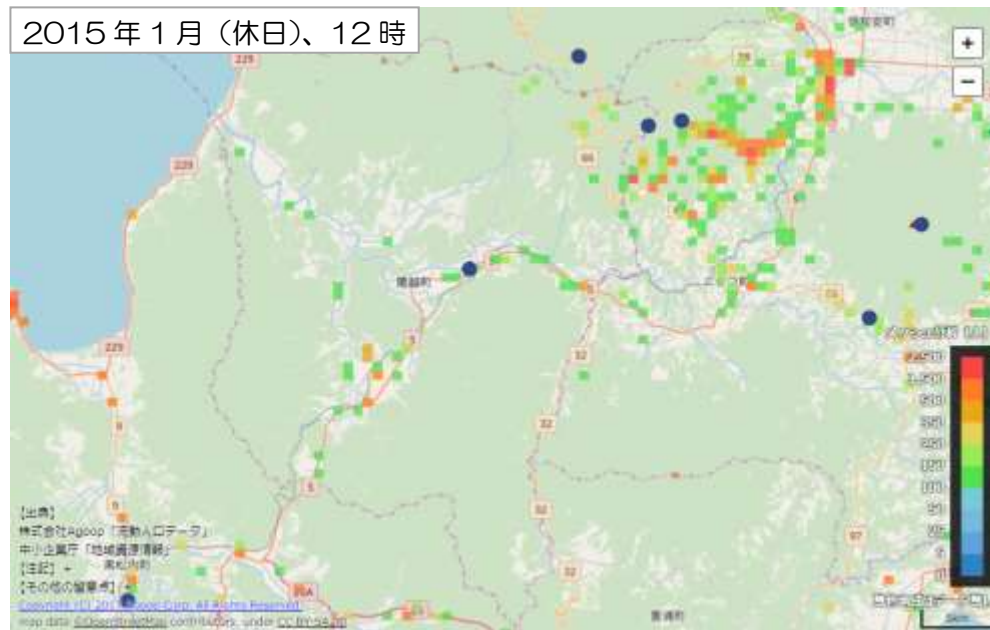


(10) 【図表】 流動人口メッシュ (まちづくりマップ> 流動人口メッシュ)

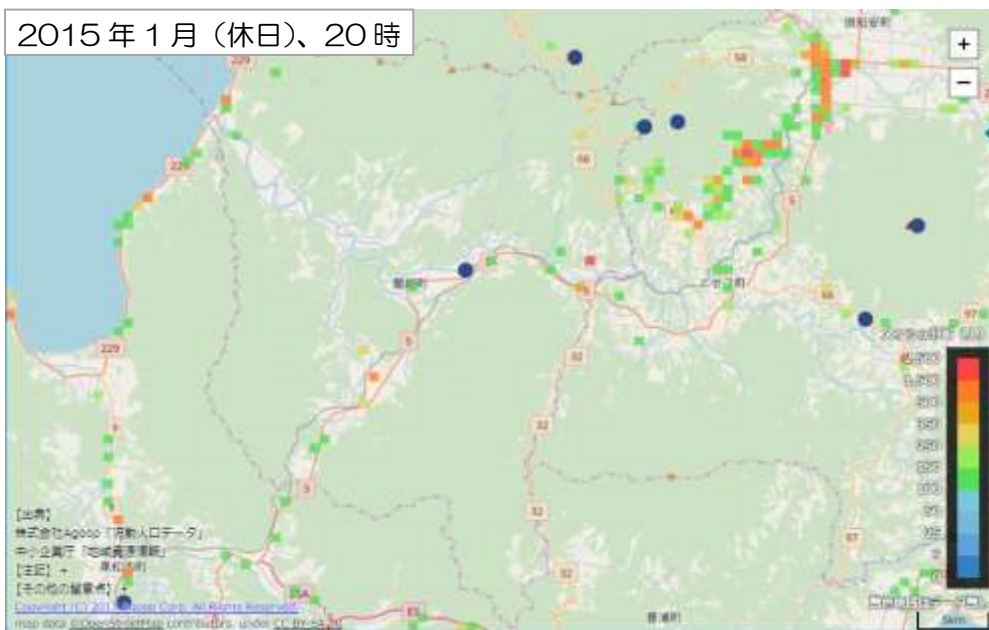
2015年1月(休日)、6時



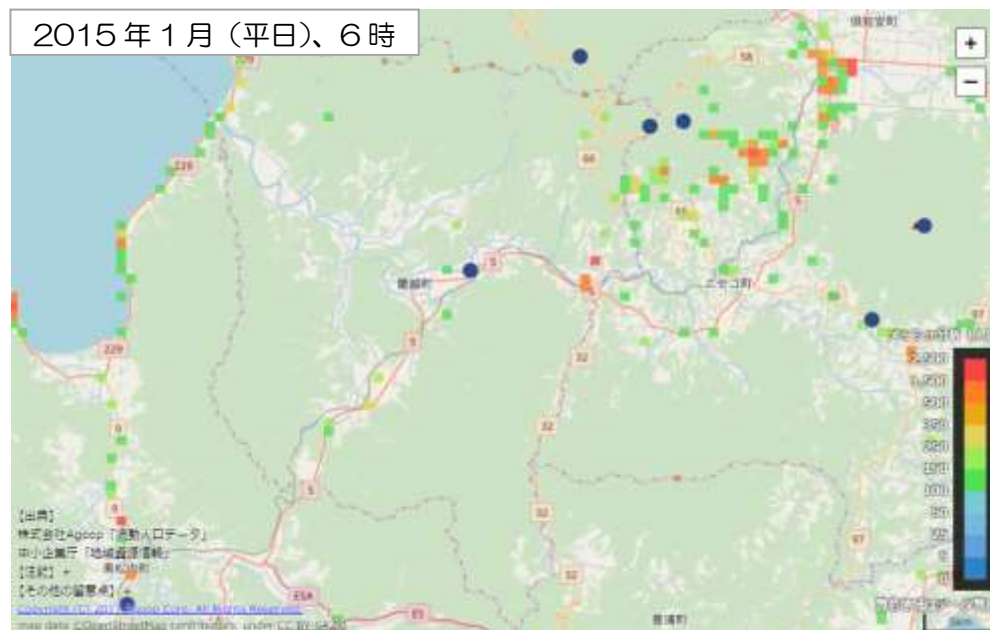
2015年1月(休日)、12時



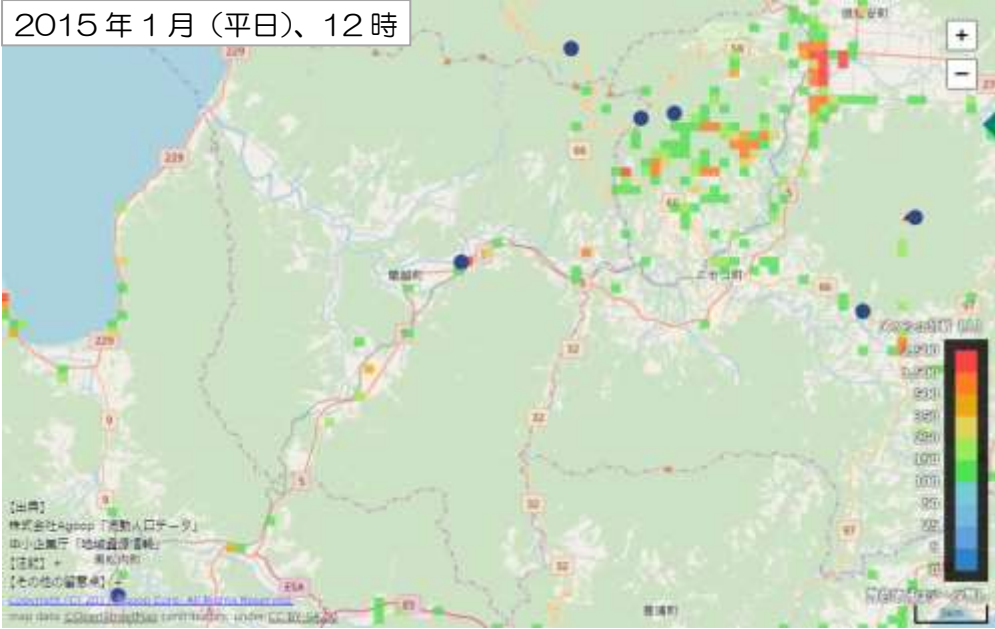
2015年1月(休日)、20時



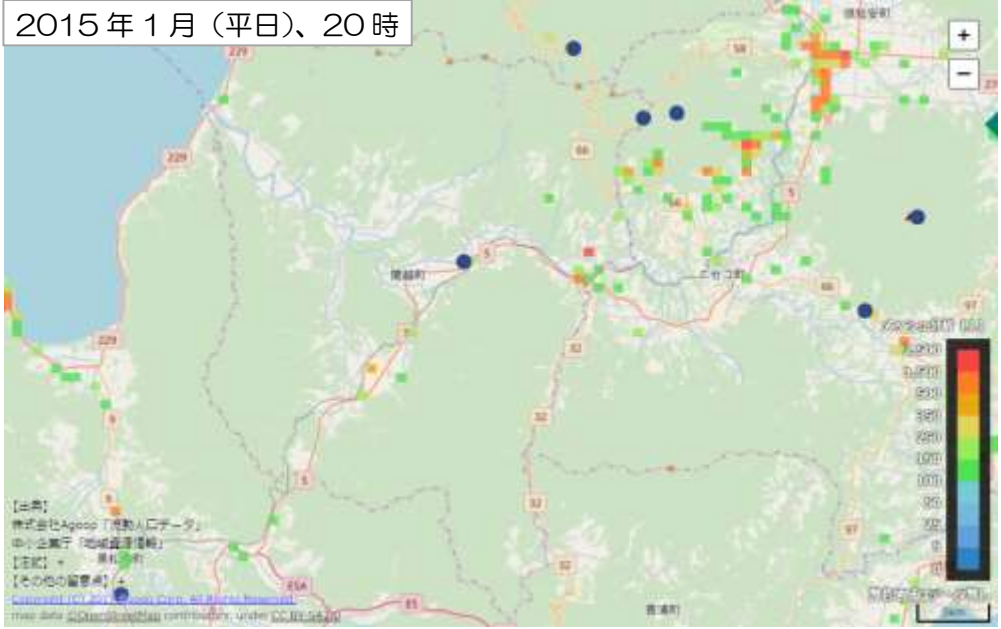
2015年1月(平日)、6時



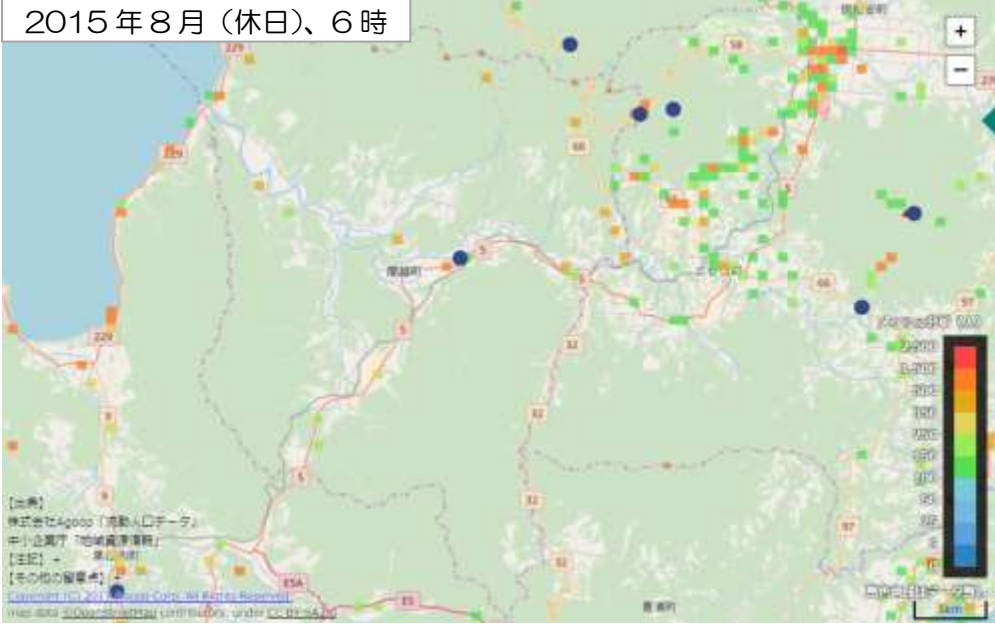
2015年1月(平日)、12時



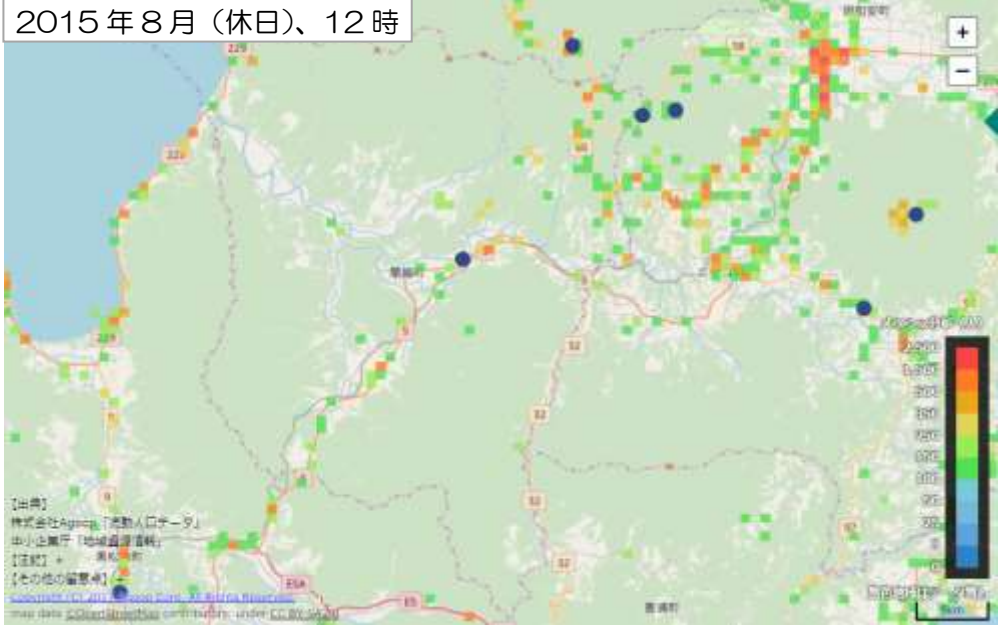
2015年1月(平日)、20時



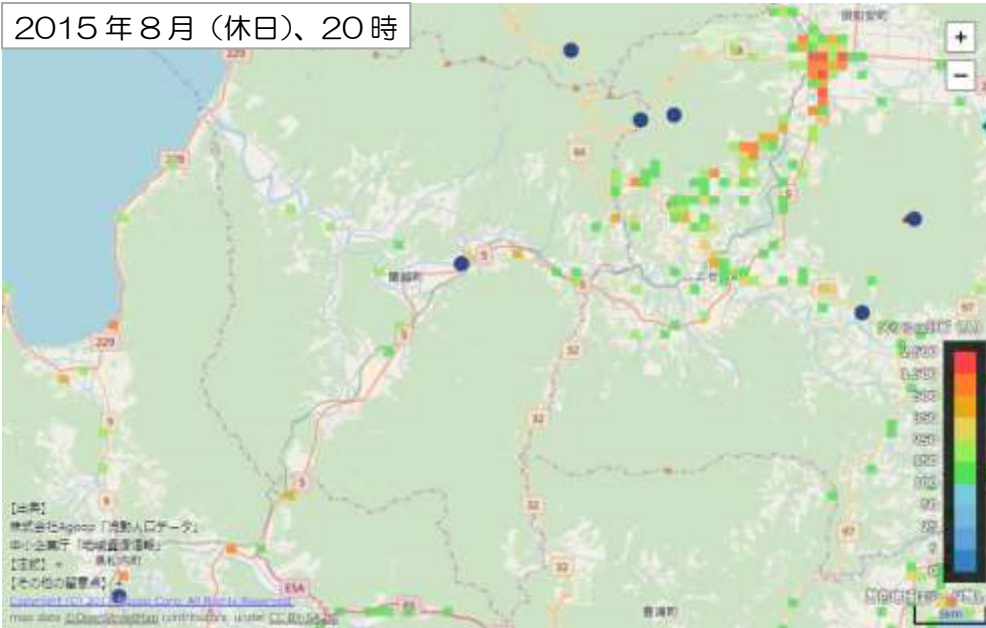
2015年8月(休日)、6時



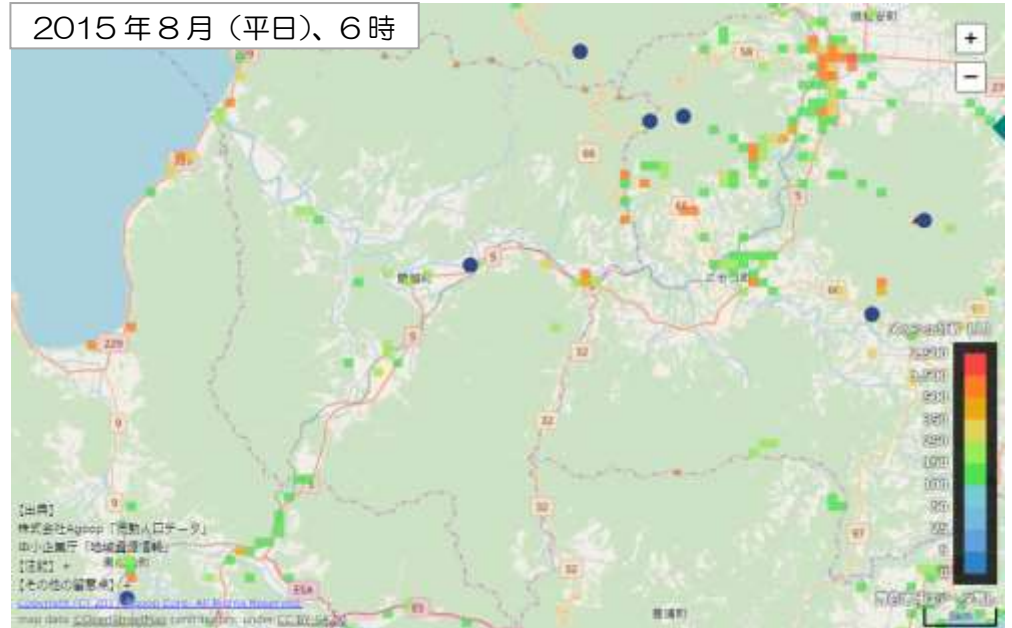
2015年8月(休日)、12時



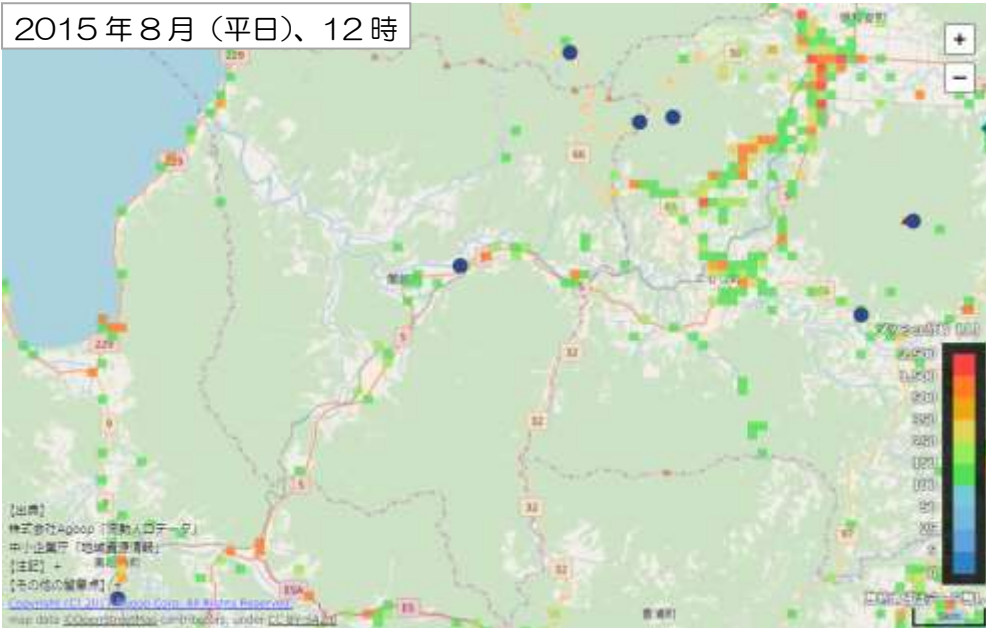
2015年8月(休日)、20時



2015年8月(平日)、6時



2015年8月(平日)、12時



2015年8月(平日)、20時

